

1994年度教育研究学内特別経費

言 語 研 究 V

1 9 9 5

東京外国語大学

これまでの私たちのテーマは主として構文をめぐる統辞関係が多く、それ以外の限定関係、特に限定小辞を主題とするのはこれが初めてです。限定関係、限定小辞は、とりわけ言語によって思い思いに様々なものが立てられています。動詞にかかわる限定に話を限っても、その言語が重視するのが時制の限定小辞か、相のそれか、叙法のそれか。また、それらをあらわすのが限定小辞であるか、それとも限定小辞に代わる自律的な限定か、あるいはもっとゆるやかな、並列関係 ($x + y$) を含む限定か。——言語が選ぶうる可能性には、このようになりに幅があります。今回は一応、時制を中心テーマとしましたが、実際はもっとゆるやかに、時制、相、叙法あたりを中心に、小辞から、小辞をこえるゆるやかな限定まで含んで、論議が行われればよいと考えています。

この『言語研究』も、ようやくこれで5号をかぞえることになりました。一期一会といいますが、この『言語研究』は少なくとも10号をかぞえるあたりで、ようやく初めて互いの顔が認識できる、深いつながりになるのではないかと考えています。そう考えるならば、この5号が、いわばひとつの峠にあたります。

考えてみれば峠の茶屋が動詞をめぐる「限定関係」だった、ということは大変象徴的なことです。周知のように限定関係はいわゆる文法（モダリテ）と語彙の両方に跨がっていて、妙な言い方をすれば峠の茶屋の前庭は近江の国、うしろの庭は美濃の国に跨がっているようなものです（国の名前は大して重要ではありませんが）。だから、限定関係は、どんなにそれを厳密に規定してもそこから、いわゆる文法領域を語彙領域から分け隔てる性質には行き着かない。けれどもある種の限定関係は排他的な対立関係を構成していて、その性格から、明らかにいわゆる文法領域に入るのです。では、この排他的対立関係の要因をどのような排他的形式要因として取り出すことが出来るでしょうか。

限定関係をどのような視点からとらえるか。これは結構、むづかしい問題です。それぞれの研究者が一定のパースペクティヴの中で、自分の進む道を探ることになりますが、自分の進む道が確定し始めれば、異なった道を歩む者どうしの対話の機会もひらけてきます。限定関係はテーマとして今回登場したばかりで、勿論急ぐことは禁物ですが、現在の一步がなければ将来の＜対話＞もありえない訳ですから、急がば回れ、互いに足下を見つめながら、それぞれの道を選び、峠に向かって進んでいくことができれば大変しあわせなことです。

そう考えて、この5号を送り出すことにしようではありませんか。

1995. 2

執筆者を代表して

渡 瀬

目 次

無標の<未完了>について ー半過去：言語情報に あらわれる<時間>の研究ー	渡瀬 嘉朗	1
マレーシア語における I-movement	正保 勇	25
完了体の個別的な意味・用法と最近の研究の傾向	中沢 英彦	51
等位構造における 法助動詞の意味解釈について	馬場 彰	61
中国語アспект研究ノート	望月 圭子	68
L'imparfait et l'aspect imperfectif en français	Yoichiro TSURUGA	74
ドイツ語基本動詞分析データ（I）		
完了形を sein によって作るドイツ語動詞	座間 進	82
分離前綴 ab-, an-, auf-, aus- を伴う動詞	黒田 廉	142

無標の＜未完了＞について

－半過去：言語情報にあらわれる⁽¹⁾＜時間＞の研究－

渡 瀬 嘉 朗

- I. 無標の過去、時を刻まない過去。
- II. 無標の過去と文脈。
- III. 無標の過去と文脈的意味。
- IV. おわりに。

I. 無標の過去、時を刻まない過去。

I.A. はじめに：直説法「半過去」とは？

直説法半過去。「半過去」（よい名称ではない、むしろ未完了過去の方が好ましい）は、フランス語の第二の過去形である。まず、〔事態の特性⁽²⁾との関係でいえば〕第一の過去形が現在に対して設定される過去であるのに対して、第二の過去形である半過去は文脈で想定される過去時に対して同時性を示す。どんなに深い過去（大過去であらわされるような）に対しても、半過去は同時性を示すことができる。だから〔それが含む特性⁽³⁾との関係でいえば〕特性のない過去である。

I.B. 二つの問題

I.B.(1) さてまず第一に、過去の同時性を示す半過去は、日本語に正確な対応形を持たないから、翻訳に際して絶えず工夫が必要になる。Il *finissait* son travail quand le téléphone a sonné.「彼が仕事を終えようとしていると電話がなった」では、*finissait*を未完了過去に訳すために、「彼が仕事を終えようとしている」という迂言法を用いなくてはならない、というのがそれである。

だがそれはフランス語と日本語のあいだで起きる問題であろう。＜翻訳＞の問題とは、経験そのものを情報に換えるための体系（複数）の間で生じる、＜経験－情報化＞のきしみの問題である。

あるいはそれは、半過去を他の表現でパラフレーズしようとするときにぶつかる問題であるといってもよい。パラフレーズとは＜翻訳＞の問題である。それ故、半過去の表現を例えばフランス語を使用してパラフレーズしようとするときにも、文脈に応じてそこで生じている価値（文脈的な価値）を言い表すために様々な迂言法を用いねばならないことになる。

I.B.(2) もう一つの問題は、一つの体系の内部で＜経験の情報化＞がどのように生じるか、つまり、その体系が＜経験の情報化＞において使用者にどのような労力を要求するか、の問題である。それは一つの体系の内部にある、＜経験－情報化＞の場でのいわゆる＜経済性＞の問題である、といってよかろう。

(1) 切り取られる

(2) 半過去があらわす事態が持っている特性

(3) 半過去がもつ言語特性

I.B.(3) 半過去をめぐる最大の理論的問題は、このような二つの問題をはっきりとく分けて考える>ことであろう。一つの体系の内部での<経済性>の問題は、複数の体系の間での<経験-情報化>の<効率>の問題とは明らかに次元を異にする。

I.B.(4) 前節 I.A. で《フランス語の第二の過去形（半過去）は、まず第一の過去形が、〔事態の特性との関係でいえば〕現在に対して設定される過去であるのに対して、文脈で想定される過去時に対して同時性を示す。どんなに深い過去（大過去であらわされるような）に対しても、半過去は同時性を示すことができる》という特性をもつことを述べた。そこから、翻訳に際して、例えば<彼が仕事を終えようとしている>というような迂言法を用いなくてはならない、という問題が生じることになる。これは複数の体系の間での<経験-情報化>の<効率>の問題である。

だが、また前節 1. で、《第二の過去形である半過去は、文脈で想定される過去時に対して同時性を示し、どんなに深い過去（大過去であらわされるような）に対しても、半過去は同時性を示すことができる。だから半過去は〔それが含む特性との関係でいえば〕特性のない過去である》ということを書いた。これは一つの体系の内部に存在する使い勝手の問題（もっと正確には体系の内部で各部分が使用者の<使い勝手>との関連で示す<経済性>の問題）である。

I.B.(5) たしかにこの体系の中では、第二の過去（半過去）を第一の過去（単純過去、あるいは話ことばでの、ある種の文脈における複合過去）から区別して用いなくてはならないということは面倒なことである。だが、この面倒さは第二の過去（半過去）が作り出しているのだろうか。

第一の過去しか持たない体系を基準にして考えれば、まず、そういう印象が生じるかもしれない。だがこれは、フランス語を日本語などと比較する際に見えてくる問題であると言わなくてはならない。

しかし二つが区別されることが当然のフランス語の体系の内部に立って考えれば、話はそんなに簡単ではない。過去性をあらわす二つの内のどちらが、より無限定により一般的に<過去性>をあらわすか、どちらが過去性に加えて更に別の特徴をもつかを考えるならば、より無限定により一般的に<過去性>をあらわすのは半過去であり、一つ一つの事態を総体として終結点からとらえ、過去性に加えて事態を個体化していくのが単純過去（あるいは話ことばにおける、ある種の文脈の中での複合過去）である。体系の内部で見ると過去性のみに依拠しているのは半過去であり、単純過去やある種の文脈の中での複合過去は事態を一纏めにして終結点からとらえるという別の視点を必要としている。これが、体系の内部に立って見た場合の結論であろう。だから、ひとたびフランス語の使用を大前提として問題をとらえ直せば、そこでは、半過去は<特性のない過去>として<機能>している、と言わねばならない。

I.C. このことを言い直せば二つの過去の中で、一つは書きことばにおける単純過去、

はなしことばにおける複合過去のように、過去の＜時間＞（時間とは経験を切り取った＜経験特性＞である）を一つ一つ個別化し、異なった時間として並べたり継起性において処理したりすることを可能にする。それらは常に、現在との関係でいえば＜現在からみた最初の過去＞である。第一の過去は、いくつ継起的に用いられていても、絶えず、＜現在からみた最初の過去＞として働く。つまり過去の＜時間＞を＜現在からみた最初の過去＞として一つ一つ個別化しているといってもよからう。それに対し第二の過去はそのような時間（経験特性としての）の＜個別化＞を全く行わない。いつ、どのような文脈で用いられようとも、過去の時間の＜個別化＞を行わず常に特性のない＜過去＞を立てる（情報として提示する）のである。

I.D. 半過去と大過去：＜文脈＞の設定

一般に、半過去が＜過去＞をあらわすとするとき、大過去は＜過去の過去＞をあらわすと考えられるだろう。だがこれは大きな誤解である。というより、半過去があらわす＜過去＞は、大過去があらわす＜過去の過去＞よりひろい過去であったり、逆に大過去より浅い、せまい過去であったりする。すべては文脈の設定の仕方による。

たしかに＜過去の過去＞は＜過去＞よりも遠ざかった過去（深い過去）をあらわすことができる。だがこれは、＜過去の過去＞や＜過去＞といった時の枠組みの一つの利用の仕方にすぎない。

一方、半過去のあらわす過去はしばしば、＜過去の過去＞よりひろい過去である。たとえば（A）「彼は金持ちだった。」（B）「彼はヨットを買った。」（C）「その前には小型飛行機をかったのに。」という三つの事実をあらわすのに（B）を現在から見た過去、（C）を過去から見た過去（＜過去の過去＞）であらわすことにすると、（A）はこの二つの事実に重なる事実として、半過去であらわすことができる。

このように他の事実にく重なる＞事実は、時を刻まない事実であり、過去でありさえすればよい。時を刻む表現に対して、絶えず無関係の中立性を保つことができる。この中立性を保つ過去は、本来、いわば時を刻む過去や大過去とは別の次元に属するのである。半過去がそのような中立性を保つ過去をあらわす時、当然のことだが半過去は、すべての、時を刻む過去や大過去、あるいは大過去より深い大過去、よりもひろい、一般的な時間（過去性）をあらわす。

I.E. 事実のさまざまな分析の仕方：

たとえば Miss. Ashburton (cf. Gide, *La Porte étroite*) が家族をもっていなかったという事実は過去の事実である。「その頃よく旅行にいった」「コメディーフランセーズによく出入りしていた」「Miss. Ashburton は家族をもっていなかった」は、すべて一つの実事である。これらはすべて（現在からみた過去に対応する）一つの実事として、「そのころ私は劇場に（ひんばんに）通っていた」のように半過去であらわして置くことができる。あとでいうような文脈がなければ、これらは（現在からみた過去に対応する）一つの実事にすぎない。だがその一つの実事の中に、二つの事実を重ねて見ることはいつでも

できることであり、二つの事実を一つは過去で、一つは大過去であらわして二つの事実のあいだの時間のずれを明確にすれば、そのことだけで、一つの事実の中に過去と大過去との二つを重ねて見ることになる。

このように問題は文脈の立て方であるから、Miss. Ashburton (cf. Gide, *La Porte étroite*) が家族をもっていなかった、——過去のA時点においても、B時点においても、——とする場合、A時点における、あるいはB時点における新しい事態の成立としてそれをとらえてはいないから、Miss. Ashburton n'avait pas sa famille である。さてA時点において彼女が、「私たち」の借りた appartement に来て一緒に住むことになったとしよう : Elle vint habiter avec nous. またB時点において彼女が「私」の母の友人になったとしよう : Elle devint d'abord son institutrice, puis sa compagne et finalement son ami. その時、B時点がA時点に先行する深い過去であることを積極的に時の表現であらわすと : Elle avait été d'abord son institutrice, puis sa compagne et finalement son ami. となる。この文脈で、半過去におかれた Miss. Ashburton n'avait pas sa famille は、Elle vint habiter ...とも、Elle avait été d'abord ...とも両立でき事態の同時性をあらわす。これは先程、(A)「彼は金持ちだった。」(B)「彼はヨットを買った。」(C)「その前には小型飛行機をかったのに。」という三つの事実をあらわすのに(B)を現在から見た過去、(C)を過去から見た過去(<過去の過去>)であらわすことにすると、(A)はこの二つの事実に重なる事実として、半過去であらわすことができたのと同じである。

I.F. 位置づけの大過去と舞台の中の半過去 :

半過去は、文脈の中のもう一つの<過去の時>と重なる。そのもう一つの<過去の時>は通常の過去によって表される時もあり、また大過去によって表される時もあり、文脈をよく読むことが必要だ。まず上で見た A. Gide, *La Porte étroite* の例を掲げる :

例1.

Elle loua(1), près du Luxembourg, un petit appartement, que Miss Ashburton vint(2) occuper avec nous. Miss Flora Ashburton, qui n'avait(3) plus de famille, avait été(4) d'abord l'institutrice de ma mère, puis sa compagne et bientôt son amie. (A. Gide, *La Porte étroite*)

「母はリュクサンブール公園の辺りに小さなアパートマンを借り(1 単純過去)、そこにアシュビュルトンさんがやって来て(2 単純過去)我々と一緒に住むことになった。フローラ・アシュビュルトンさんには家族がなく(3 半過去)、先ず母の家庭教師を勤め、次いで彼女の話し相手となり、まもなく彼女の友となった(4 大過去)。」

この文では、フローラ・アシュビュルトンに<家族がなかった>(半過去)という事実は、可能性としては、彼女がやって来て<一緒に住んだ>(過去)という事実とも重なるし、また彼女がそれよりはるか以前に、母の<家庭教師になり、話し相手になり、友となった>(大過去)という事実とも重なることになる。

以上のことを理解するには、第二過去(半過去)が何らかの<過去時点との関連>を想定した独自の世界をもっており、通常の過去(第一過去)のように<現在>を土台に組み

立てられた過去ではないことを確認しておく必要がある。＜現在から考えられた一つの過去＞に対する＜同時性＞、という枠組みでは律しきれないものがそこにはある。

次の例で、大過去は、過去にある深さを設定している。そしてその深さを介して、前の舞台に戻っている。それが *l'avait traité*(4) *de sorcière* 「彼女を魔女扱いにした」である：

例2.

L'homme qui s'était jeté(1) *sur lui était*(2) *le prêtre chauve qui, tout à l'heure, regardait*(3) *la Esmeralda et l'avait traité*(4) *de sorcière.*

(*Notre-Dame de Paris*, récrit par Beaumelou, p. 17)

「彼の上にとびかかった (1 大過去) 男は、いましがた(*tout à l'heure*), ラエスメラルダを眺めていて(3 半過去)、彼女を魔女扱いにした (4 大過去) 禿の司祭であった (2 半過去)。」

〔事態そのものの整理〕今、事件がひとつ起きたばかりのところで、それが大過去(1)で述べられている「禿の司祭が彼(せむしの男)にとびかかった」である。物語はいま、その司祭が何者かを、半過去(2)で認定している。これが、物語の中で進行している現在時である。もう一つ前の舞台も登場している。それが一つ前の舞台として設定され、禿の司祭がラエスメラルダを魔女扱いにする舞台である。この舞台は大過去(4)で述べられている。このように大過去(1)は物語の中で現在進行中の舞台にかかわり、大過去(4)は一つ前の舞台を設定するのに用いられている。共に、大過去であるに過ぎないから、＜問題の過去＝物語の中で現在進行中の時＞から見れば過ぎ去ったことだということしか言っておらず、その後は文脈の支えに任されている。ここで興味深いのは、半過去(3)が示す、一つ前の舞台で(そのことは副詞の「いましがた[*tout à l'heure*:成句]」で示されている)その司祭が「ラエスメラルダを眺めていた」という事実と、その表現である。

ここでは *regardait*(3) *la Esmeralda* 「ラエスメラルダを眺めながら ...」も事実の上では、*l'avait traité*(4) の示すその＜深い過去＞に属している。そのような事実の重なりがあることはここでは明らかであるし、本来また、半過去と大過去はしばしばこのような事実のレベルにおける＜重なり＞を示すことが可能である。だからこの *l'avait traité*(4) は(その形から *regardait*(3) より以前の時を考えそうだが)、決して *regardait*(3) より以前の過去を指している訳ではなく *regardait*(3) が示す過去の時間的ひろがりの中で起きた一つの事件を指している。*l'avait traité*(4) の方が大過去であるのはここで扱っている事実(僧侶がカジモドに「跳びかかって」から生じた事実)よりも *l'avait traité*(4) *de sorcière* 「彼女を魔女扱いにした」事実の方が更に深い過去に属していることを明らかにして、二つの事実が混同されないようにしようとしているからである。ここでは *regarait*(3) は、*l'avait traité*(4) *de sorcière* によって示された深い過去と＜同時的＞な過去を指し示していることになる。

l'avait traité(4) のような大過去を、ここで、＜位置づけの大過去＞と呼ぼう。大過去が *regardait*(3), *l'avait traité*(4) のような＜一群の過去＞の位置づけを一手に引き受けることが出来るからである。その一群の過去の中で半過去は幅のひろい＜過去＞という標識しか持たない。

ここではこのように半過去が、＜過去時の中に遍在するとき＞をあらわすこと、そして

過去の中で単純過去のように継起的な事態をあらわして時を刻んだり、あるいは過去から過去の過去へ（大過去）、また現在から過去へ（複合過去）、完了形式を借りて時を刻んだりすることがないことに、明確な注意を払って置こう。

I.G. 使い勝手のよさ：＜経済性＞

文脈に従える他の過去表現との関連でいえば、半過去は過去に遍在するときをあらわす。この視点の取り方の特性によって、半過去は日本語などから見るとその翻訳に大変工夫のいる表現となる。また物語の叙述の中で半過去がどのような事態の表現に役立つのか、外国語学習の中では大変気になるところでもあろう。

しかしフランス語の内部に話を戻してみると、半過去は大変使い勝手のよい＜無限定の過去性＞をあらわしている。もし、フランス語の内部でこの形を考察すれば、文脈がなくても、また、文脈に大過去があっても複合過去があっても、要するにどんな場合でも過去性というひろい枠組みを代表して用いることのできる半過去は、大変使い勝手のよい＜無限定の過去性＞であることになるだろう。

半過去は＜無限定の過去性＞の上に立つ時の表現である。だから半過去は複雑な内容を一手に引き受けて、さまざまな場合を区別して切り取っているように見える。しかしそれは一つの錯覚であって、半過去はそれだけの幅の内容をたしかに一手に引き受けて切り取るが、事態の間に自ら区別を立てることは出来ない。事態の間の区別を立てているのは文脈に参加するさまざまな言語要素である。半過去は＜無限定の過去性＞を示すから文脈が、あの場合、この場合を区別して物語の組み立てを行うことになる。半過去はこの使い勝手のよさ、つまり一つで幾通りにも使える経済性によって、ノン・マルケ (non marqué) の表現と見做すことが出来る。

これまで半過去の研究が対象にしてきたのは、このような、文脈に支えられて区別される内容（文脈的価値）の、複雑さであったということができる。

もしこのような内容の複雑さをパラフレーズしようとするれば、パラフレーズする言語が日本語であっても、あるいはフランス語そのものが使用される場合でも、半過去は相当に厄介な内容をもつ。それは半過去が引き受けるものが上で見たように多岐にわたるからである。一般にノン・マルケ (non marqué) の表現は例外なく、そのパラフレーズが困難である。それはノン・マルケ (non marqué) の表現が、使い勝手のよさ、つまり一つの表現形式でありながら幾通りにも使える経済性をもつからである。それ故、ノン・マルケ (non marqué) の表現をパラフレーズによって（「意味論」的に）とらえようとすることは、その方法自体に一つの矛盾がはらまれているといえよう。本当の問題は、半過去のあらわす内容の複雑さでなく、文脈に支えられてそれだけの幅の内容を一手に引き受けて切り取るその便利さの問題であることを忘れてはならない。半過去を支える文脈の研究をする場合でも、このような問題の骨格を見忘れては、文脈の研究と半過去の言語的な価値の研究とが混同されてしまうだろう。それでは、文脈の研究をきちんとした土台にのせることすらおぼつかないことになるだろう。

この章の冒頭で、この時制は直説法半過去といわれるが、「半過去」はよい名称ではな

い、むしろ未完了過去の方が好ましい、と述べた。そしてそれが、フランス語の第二の過去形であり、〔事態の特性との関係でいえば〕第一の過去形が現在に対して設定される過去であるのに対して、第二の過去形である半過去は、文脈で想定される過去時に対して同時性を示し、どんなに深い過去（大過去であらわされるような）に対しても、半過去は同時性を示すことができる。だから〔それが含む特性との関係でいえば〕特性のない過去である、と述べた。

もし、半過去が大変使い勝手のよい＜無限定の過去性＞であり、またそれが＜無限定の過去性＞を示すから文脈があの場合、この場合を区別して物語の組み立てを行うことになるということであれば、そして半過去はこの使い勝手のよさ、つまり一つで幾通りにも使える経済性によってノン・マルケ (non marqué) の表現と見做すことが出来るとすれば、これは、半過去が＜未完了＞事態をあらわしたり、過去の習慣や＜進行中＞の事態をあらわしたりするという問題とは微妙に異なる問題である。

半過去が文脈に支えられて＜未完了＞事態をあらわしたり、過去の習慣や＜進行中＞の事態をあらわしたりするということは事実であるが、そのような事態の性格は、文脈の支えがなければ決して区別されることがない。半過去を＜未完了＞過去ととらえるのは、それがしばしば伴ってあらわれる文脈のなかでは有効なとらえかたであると考えられるが、しかしこれもまた、半過去を支える文脈の分析に土台をもつとらえ方であることを、最後に、明確にしておきたい。

II. 無標の過去と文脈。

II.A. 半過去と無標の過去：

ここでは半過去を、以上で述べてきたような意味合いで無標の過去と考える。私が、半過去は無標の過去であると考えその根底には、上で見たように半過去の使用できる文脈がきわめて広いという事実がある、とってよいであろう。ここで、文脈がきわめて広いという意味は、とりわけ半過去を取り囲んで一つの文脈の中に生じる過去時制の幅が広いということである。

以上のことに関連して三点ほど確認しておかななくてはならないことがある。

II.A.(1) まず、半過去を使用できる文脈が、きわめて広いという事実が生じるのは何故だろうか。それは半過去のふところ（守備範囲）が非常に広いからだ、私は推定する。半過去のふところ（守備範囲）が広いのは、普通の言い方によれば半過去の意味が広いからだということになるのであろう。注意したいのは、私がここで、決して話を半過去の＜意味の広さ＞という、やや茫漠たる「事実」(?) から始めるのではなく、逆に、半過去の現れる＜文脈が広い＞、という観察可能な事実から考え始めようとしているということである。これが確認しておきたい第一の点だ。

II.A.(2) 半過去の現れる文脈は広い。元来、文脈のひろさはいろいろな視点から測れるであろうから、この場合も様々な視点から文脈のひろさを問題にすることができるはずである。だが半過去の場合はとりわけ、文脈の中の他の過去表現を見ることによって文脈

の多様さを問題にすることができる。たとえば何と、半過去は、前節で見たように大過去まで文脈の中に取り込むことができる。（これは顕著な事実であって、半過去と大過去のモルフォロジックな関係を考えればこれには納得のいく説明が欲しいところであろう。）ここではそういった一つの具体的な尺度を用いて、観察可能な、文脈のひろさを問題にしたい。このように文脈の中に現れる他の過去表現の多様さという一つの変わらぬ尺度をもって、半過去の場合、その現れる文脈の広さを測ることができるという点、これが確認しておきたい第二の点である。

II.A.(3) こうして半過去は、文脈の中の様々な他の過去表現（たとえば大過去等）が＜位置づける＞時に合わせて半過去が舞台をつくる。この半過去の自由さから、逆に半過去の抽象度の高さが推論できる。と、少なくとも、私は見る。（半過去は、過去性に加わる他の特性⁽⁴⁾を持たない。このように他の特性に限定されることのない過去性がそこにあるから、半過去はその限定ゼロの過去性によって、他の過去形を文脈の中に許容できるのである。）抽象度が高い、といういことは、言い換えるなら、結局、経験の＜形式化＞が非常に進んでいるということだ。だから、半過去が無標の過去である、と考える根底には、半過去のようないわゆる「文法」項目においても、経験の＜形式化＞という問題があることになる。これが確認しておきたい第三の点であろう。

II.B. 経験の＜形式化＞と文法領域：

さて、この点に関連するというならそれぞれの言語は、思い思いに経験要素を、それも思い思いの価値の意識を加えて切り取りとっている（渡瀬、『言語による経験の形式化について』を参照）。その結果、対象そのものの区切り方が言語によってしばしばまちまちとなるが、それは本来、このような価値がいつも一定の＜切り取られた＞対象に付与されるわけではなく、価値そのものがしばしば異なった＜対象＞を構成するからである。こうして、価値の意識によって＜対象＞そのものの区切り方が言語によりまちまちになる、という事実が生じる。それ故、言語研究では言語を、それぞれの地域に住む人間たちが特異なやりかたで経験を形式化するためにつくり上げた道具であると考える必要に迫られることになる。

だが、半過去の様な文法項目（文法領域）に経験の＜形式化＞の観点をもちこんだところで、果してそれが真実であるかどうか証明のしようがない、と、先ず考えられるかもしれない。

II.B.(1) だが先に見たように、半過去は過去性に加わる他の特性を持たず、他の特性に限定されることのない過去性のみを特徴としているから、その限定ゼロの過去性によって大過去のような他の過去形を文脈の中に許容できるのである。これはきわめて顕著な事実ではないだろうか。こうして半過去は、大過去が位置づけるような、「過去の過去」の深さまで呑み込んでしまう。半過去は表現価値の上で、そのような深さを全く無視してしまう。（そして事態そのもののレベルで言えば、それだけ深い事実まで自分の守備範囲の

⁽⁴⁾ 単純過去の場合は *passé "certain"*, 大過去の場合は *parfait*, 等。

事実としてしまう。)半過去は、そのような時の<深さ>をもった舞台の中の、そのような時の<深さ>をもった事実すらも、まったく深さのない過去としてあらわすということである。

II.B.(2) この事実を説明するには、文法領域における半過去の様な項目にも、経験の<形式化>の観点を持ちこむことがどうしても必要になろう。<形式化>の観点を持ちこめば、そこに事実の上では<過去の過去>という深さがあるのに半過去がその事実を無視できるということは少しも矛盾ではない。それをするために話者は、舞台のもつ時の<深さ>を問題にせず、ただ事態の性格(これは動詞モネームの選択によって決まる)と、その事態の過去性だけマークするという選択(これは半過去のような性格の第2過去をもつ言語なら許される選択である)だけを考えればよい。おわかりのように、<事態の過去性だけマークする>という選択は、事実の上の<過去の過去>という深さを考慮に入れないという意味で、きわめて形式的な選択なのである。文法事項たりといえども話者の選択を免れるものではないのだから、そのような選択の問題として、こういったことは何時起きてもおかしくない、と考えられる。

II.B.(3) 大過去 vs 半過去:これには更に小さな付随的な理由が加わる。半過去に対する大過去は、そもそも何故必要になるのだろうか。周知のようにそれは、浅い過去の舞台と更に深い過去の舞台を区別するために必要である。話者は深い過去の舞台で起きる事態を表現するとき、ただただ、より浅い過去の舞台との区別のために大過去のようなマークを必要とする。だが大過去のマークは、結局のところ絶対的な深さをあらわす訳ではなく、絶えず相対的な深さしか印づけない。それ故、話者がそれをせまい文脈の中でうかつに連用すれば、大過去の一つは今度は大過去(過去の過去)より相対的に深い過去(過去の過去の過去)あらわしてしまう。(このことから明らかなように<時>は相対の中の事実に過ぎない。そこではすべてがそのような相対性の中で動いているのである。)だからこそ、関連の深い節の中での事態の同時性は、大過去を避けて表現することが必要である。大過去によるマークづけをしないことが必要となるのである。そこにも半過去が選ばれてはならない一つの消極的な理由がある。

II.B.(4) 拡大再帰表現の場合:文法領域と、経験の<形式化>との関連が決して考えるににくいことではないことを示す例を、念のためにいくつか挙げよう。その最初の例が、拡大再帰表現の場合であろう。

拡大再帰表現とは、俗にフランス語文法書でいう「代名動詞の受動用法」のことであるが、再帰表現もまた、場合によるとその用法を拡大し守備範囲を拡大して、単なる「再帰的事態」を超えた事態をあらわす。その意味では再帰表現はどのような言語でも必ず潜在的に、やや気取ったレトリックとしてではあるが拡大再帰表現の萌芽を含んでいるのではないかと、私は想定する。ここで「潜在的に」というのは、文脈に助けられれば、という程の意味である。そこから再帰表現を利用して受動表現の形式を生み出している言語は、世界の言語の中に結構ありそうである。だが、フランス語には別に受動態の形式が区別さ

れているから、「再帰表現の受動用法」は受動態とは決して重なることがない。しかも、フランス語（ロマンス諸語）の拡大再帰表現は、やや気取ったレトリックとして稀にお目にかかる表現どころではない。その頻度（それが引き受ける用法中のシェア）は、通常の再帰表現にくらべてもきわめて大きい。もはや、気取ったレトリックとして萌芽的な拡大再帰表現の役割を果たすどころのさわぎではないのである。

実はここにも、一つの「文法」領域が、文脈に助けられて自らのふところ（守備範囲）を極度に広げ、しかもそれをきわめて通常の用法として固定させた例がある。表現が自らのふところ（守備範囲）を「ひろげる」とは、いわば言語が経験の中に持ち込む不連続の切れ目を取り払い、そこに連続性を回復するということである。この再帰表現の場合も、本来の再帰的事態（se tuer 「自らに手を下して死にいたらしめる、自殺する」）のあらわれる文脈よりはるかに広い文脈で用いられ（se tuer 「（不慮の事故などで）死にいたる、死ぬ」）、「殺す」と「死ぬ」を他動詞と自動詞として使い分けている人間には大変わかりにくいことかもしれないが、文脈の助けでこの差が消えるということは、その結果表現そのものの抽象度が高くなるということに外ならないし、話題となる経験の形式化がそこで進む（表現の目が粗くなる）ということである。「混乱させる」（troubler）、「自らを混乱させる」「混乱する」（se troubler）、「（ベッドなどに）横たえる」（coucher）、「自らを横たえる」「横になる」（se coucher）など沢山の例において、再帰表現は他動詞と自動詞の間の区分（対立）を取り払う。

II.B.(5) 定冠詞の場合：文法領域と、経験の＜形式化＞との関連を示すもうひとつの例は、たとえば現代フランス語における定冠詞である（Cf. 渡瀬、「定冠詞と＜自己＞照応形式（その1）」『東京外国語大学論集』1990）。

定冠詞には語源的には一定の指示性があった筈だが、指示の限定要素を兼ねながら名詞句の境界確定を不定冠詞と協同して行うようになったときから、当然のことながら限定要素としての意味にはかげりが生じる。限定要素として他を顧みず選択が可能である場合にのみ限定要素としての価値は自足しているのであって、徐々に名詞句の境界確定まで引き受けることになった時から、その分、限定要素としての価値が忘れられていくことになるのである。とりわけ、文脈的に＜既知＞の観念をあらわす定冠詞から、一般的に＜既知＞の観念をあらわす、いわゆる「総称」用法が徐々に生じたとき、このかげりは決定的なものとなる。

そしてこの、いわゆる「総称」用法は、当然のことながら主辞の位置の名詞だけでなく、目的辞を含む、名詞の一般にまで及ぶから⁽⁵⁾、定冠詞は発話という情報のながれのなかで、文脈的に＜既知＞と一般的に＜既知＞を、文脈の差によって使い分ける、いわば小さな＜情報の穴＞を形成することになる。もはや自足した強い価値をもつ本来の限定辞ではない。かつての指示詞とくらべれば、見るかげもない姿というべきか、それとも名詞句の境界確定要素のひとつとして、新しい独自の境地をみごとに開拓したというべきか。

⁽⁵⁾ というよりも、「総称」用法という名称こそ、名詞の用法を論理命題のわくでしか観察できず、従って名詞を文＝論理命題の「主語」という位置でしか観察できなかった、これまでの哀れな文法学者の視野狭窄という醜態の産物であろう。

この状況を一言で要約するなら、定冠詞が表現において引き受ける経験領域は拡大し、経験の抽象化、形式化が進み、無標化が進んだ。その結果定冠詞は、様々な文脈で多様な文脈的価値を示し、それ自身の価値は著しく空洞化した、ということになる。

使用者はそこで、定冠詞の生み出す、情報の流れの中の「欠乏」「情報の穴」を基本的な知（文脈に支えられた知、あるいは一般化された知）で埋めなくてはならない。そしてもし、使用者に最も *imminente et pressante* な、つまり差し迫った圧力を加えるのが恐らく文脈であるとすれば、他の条件が一定のとき、＜文脈に支えられた知＞あるいは＜一般化された知＞のうちのいずれがより強い力を発揮するだろうか。それは＜文脈に支えられた知＞であるということになろう。*La nécessité a forcé Honoré Subrac à se dévêtir en un clin d'oeil.* (G. Apollinaire, *La Disparition d'Honoré Subrac*) 「（直訳）必要がオノレ・シュブラックにあっていう間に裸になることを強いる」において、*la nécessité* は恐らく「必要というもの」であっても、「（彼が感じている）必要」であってもよいところだが、ここでは多分、「（そこで彼が感じている）必要」という価値の方が、より基本的な＜知＞として力を発揮するのである。*La terreur me faisait claquer les dents.* (*ibid.*) 「（そこで彼が感じている）恐怖が歯をかちかちと鳴らせた」「恐怖のあまり歯がかちかちと鳴った」においても事情はほぼ同じであろう。

II.B.(6) 無標性の意味：こうして、「文法」領域においても経験はそれぞれの言語により＜形式化＞される、ということになるわけだが、半過去の場合のように用法の全体を通じて経験の連続性が無標の価値という点でひろく＜形式化＞され、維持される場合もある。再帰表現の場合のように、その体系の中で統辞行動としては他動詞型、自動詞型の対立が維持されているのにもかかわらず文脈に応じて通常再帰表現（他動詞型）と拡大再帰表現（自動詞型）が現れる（対立が取り払われる）場合もある。更に、定冠詞の場合のように、定冠詞の生み出す、情報の流れの中の「欠乏」「情報の穴」を使用者は基本的な知（文脈に支えられた知、あるいは一般化された知）で埋めなくてはならないが、他の条件が一定のとき＜文脈に支えられた知＞あるいは＜一般化された知＞のうちのいずれがより強い力を発揮するののかといえ、恐らく＜文脈に支えられた知＞の方であろう、と考えられる場合もある。

この三つの場合をくらべてみると、「文法」領域といっても限定詞は、文脈の力にゆだねて自らは基本的な＜知＞を供給するにとどまる（半過去＝無標の過去、定冠詞＝文脈に支えられた知、あるいは一般化された知）。それに対して統辞行動においては、再帰表現の場合がそうであるが、無標の価値が生み出されるといっても、体系の中で維持されている他動詞型、自動詞型の対立まで消すことができないということに我々は気づく。

一方、半過去のように用法の全体を通じて経験の連続性ひろく＜形式化＞され、維持される場合でも、第1節で確認したように (I.B.(1))、このようにして確かめられる無標性は話者のその文脈での意味選択（文脈的表現価値）を直接説明するものではない。一例を挙げるなら、(Henri Bonnard - 敦賀[本書所収の論文]が引用している例) *Il vint en effet, et ayant examiné la perle, la refusait avec mille regrets pour la*

peine. 「彼は、事実やってきた（単純過去）が、しさいにその真珠を眺めすかした挙げ句に、手数をかけさせたことを深く詫びながらこの真珠は望まないと断るのである（半過去）」では、半過去＝無標の過去は、この文脈の中で動詞モネーム *la refuser*（「その真珠を突っ返す」）が示す事態を、強く浮かび上がらせる。それは、時にことがらの不穏ななりゆきに結びつく。そして我々（この事態に立ち会う者、つまり話し手と聞き手）を、その事態の最初の証言者に変えるのだが、ことのなりゆきは主としてこの文脈の後で徐々に明らかにされることになる。そのような意味が生じるのは半過去が単純過去のように、事態を完結させながら次の新しい事態へと時を刻み、刻一刻と前の事態を消去していくのではないからである。いわば、それは半過去が事態を完結し＜梓づけ＞（*cerné*）されたものとして示さないことから出てくる（そのことによって可能になる）一つの効果である。それ故、上で見た *la refusait* は（後方の文脈にもよるが）、気をもたせた挙げ句にその真珠を購入しないことが何らかの事件の発端となるか、あるいは、既に予期されたかたちでの事件の終末となるか、いずれにせよ話者と読者はここで、＜彼が＞真珠を買い取らなかった事の意味（裸のモネームの意味）を多方面から考えさせられることになる。

II.B.(7) このように、無標の価値を考えることはいわば文脈を与えられる以前の裸の表現の価値に戻ることである。表現は当然、与えられた文脈の中で生きるから、半過去についてもそれがあらわす無標の価値と、文脈の中で引き受ける価値（これは上の例でわかるように、しばしばその動詞モネームが裸で引き受ける文脈的価値と重なる）とをやや具体的に区別して考えてみる必要がある。次章で、それを試みることにする。

III. 無標の過去の文脈的意味。

III.A. ここにとりあげるのは Guillaume Apollinaire の *La Disparition d'Honoré Subrac* の全文である。といっても話は主として半過去で表現されている部分に限られる。

III.B. En dépit des recherches les plus minutieuses, la police n'est pas arrivée à élucider le mystère de la disparition d'Honoré Subrac. Il *était* mon ami, et comme je *connaissais* la vérité sur son cas, je me *fis* un devoir de mettre la justice au courant de ce qui *s'était passé*.

「これ以上はないと思えるほどの細心の捜査にもかかわらず、警察当局はオノレ・シュブラック失踪事件の謎を解明するには到っていない（現在完了）。彼は私の友人だったし（半過去）、私は彼の事件の真相を知っていたから（半過去）、そこで何が起きたのかを（大過去）ありていに捜査当局に知らせることが私の義務だと考えた（単純過去）。」

III.B.(1) この部分は物語の冒頭である。il *était* mon ami があらわす事態は、たとえば il *fut* mon ami とは違う。(il *fut* mon ami は殆ど「彼は私の友人であることを〔その時ある行動で〕示した」という程の意味をあらわす。つまりそれが示すのは、文脈の中で突然示された事態、新しく生じた事態である。単純過去はこのように、事態を個別化して示す。そこで示されるのは、それぞれが他の事態とは重ならない、あるいは他の事態の背景や説明ではない事態である。事態を＜梓づけ＞ *cerné* して示す単純過去には、このように事態を他の事態とは切り離し＜個別化＞する働きがある。) il *était* mon ami

(半過去)にはそのような働きがまったくない。そこであらわされている事態は単純過去の場合のように、ある<粋>をはみ出ない、一定の<粋>に納まった事態ではない。半過去にはそのようなく粋づけ>の働きが欠けている。否定的に言えばそうなる。敢えてもっと積極的に言えば、《他の事態が表現されているときはそれと重なり、いずれにせよそれは、ある無限定なひろがりをもった過去の事態として眺められている》ということになる。だから *Il était mon ami*. 「彼は私の友人であった」は、ここで与えられている文脈の中で<その時ただ一度だけ新事態として示された事態>ではなく、この文脈では恒常的に成立していた事態を示すといってもよい。

III.B.(2) *Je connaissais la vérité*. 「私はことの真相を知っていた(自分の経験を介して知っていた)」は、「(その時)ことの真相をたまたま知ることになった(自分の経験を介してありありと知った): *Je connus la vérité*.」ではない。つまり事態の個別化、新事態の提示ではない。上で述べたことをもう一度くりかえせば、この事態は《他の事態が表現されているときはそれと重なり、過去の事態として無限定なひろがりをもって眺められている》ということになる。

III.B.(3) 単純過去 *me fis* は新事態の提示である。話者の決心、あるいは行動を、そこで生じた新事態として示している。

III.B.(4) *ce qui s'était passé*: 大過去は、話題を中心である過去の時から外して、前の舞台(過去の過去)で成立した事態を示す。「起きたこと」は既に前の舞台で起きたのであり、既に過去(過去の過去)になっている。

III.C. *Le juge qui recueillit mes déclaration prit avec moi, après avoir écouté mon récit, un ton de politesse si épouvantée que je n'eus aucune peine à comprendre qu'il me prenait pour un fou.*

「私の供述を聞き取った(単純過去)予審判事は、私の話を聞き終わると私に対してありありとおびえた様子のみえる馬鹿丁寧な態度をとった(単純過去)から、どうやら間違い扱いされているな(半過去)と納得するのはわけもないことだった(単純過去)。」

il me prenait pour un fou: 半過去 *prenait* は、そこで突然、新事態が生じたのではなく、問題の事態が《他の事態が表現されているときはそれと重なり、過去の事態として無限定なひろがりをもって眺められている》ことを示す。ここでも前々からその事態は生じており(少なくとも *je n'eus aucune peine à comprendre que ...* 「... だと、ピンときた」という新事態が生じた時には、無限定なひろがりをもった事態として生じている)、いわば話者はそれをこの文脈では無限定に続く未完了事態としてとらえている。

この事態が<未完了事態>だということは、しかし、半過去表現のせいで決まることではない。そのことは上の文の動詞をすべて現在形に書き直してみると、誰の目にも歴然と映る: *Le juge qui recueille mes déclaration prend avec moi, après avoir écouté mon récit, un ton de politesse si épouvantée que je n'ai aucune peine à comprendre qu'il me prend pour un fou.* 「私の供述を聞き取る(現在形)役の予審判

事は、私の話を聞き終わると私に対してありありとおびえた様子のみえる馬鹿丁寧な態度をとるので（現在形）、どうやら間違い扱いされているな（現在形）、と納得するのはわけもないことだ（現在形）。」

どうであろう？「どうやら間違い扱いされている」という認識の中の「間違い扱いされている」という事態は、このような文脈の中では、＜未完了＞事態でしかあり得ないのではなかろうか。事態を現在形（時制の標識ゼロ）のような無標の表現で切り取れば、それが文脈的な意味として浮かび上がってくる。過去の場合、そのような文脈的な意味が活かされるためには、無標の過去（半過去）を選ばなくてはならない。もし事態を＜梓づけ＞cerné して示す単純過去を選べばこの文脈の意味は破壊されて、「間違い扱いされる」事態は新事態として示される。

その他の単純過去はいずれも、事態が継起的に新事態として捉えられていることを示す。

III.D. On a appris par les récits des journaux que Subrac passait pour un original. L'hiver comme l'été, il n'était vêtu que d'une houppelande et n'avait aux pieds que des pantoufles. Il était fort riche, et comme sa tenue m'étonnait, je lui en demandai un jour la raison :

「新聞は各方面から得た話として、シュブラックが変わり者として通っていた（半過去）ことを伝えている（現在完了）。〔つまり〕この人物は夏冬を通して昔風の打ち掛けをき（半過去）、足にはサンダルしか履いていなかった（半過去）のである。だが彼は相当の金持ちであった（半過去）。この身なりは私の目にも奇妙に見えた（半過去）から、ある日私は彼に、その理由をただしてみた（単純過去）」

passait pour は、上のIII.C.の場合と同じく、この文脈では《無限定に続く未完了事態》（彼は前々から変わり者と見做されていたし、これからもそうだろう）をあらわしている。そのことは上と同じように、動詞を現在形に置き On apprend par les récits des journaux que Subrac passe pour un original. 「新聞は各方面から得た話として、シュブラックが変わり者として通っている（現在形）ことを伝えている（現在形）」として見れば明らかであろう。

それに対し、je lui demandai 「（あるとき）私は彼に尋ねた（単純過去）」は《そのとき生じた新事態を個別化して》示している。

III.E. Une nuit que je rentrais chez moi — il pouvait être une heure, une heure un quart — j'entendis mon nom prononcé à voix basse. Il me parut venir de la muraille que je frôlais. Je m'arrêtai désagréablement surpris.

「ある夜、私が帰宅しているときのことだった（半過去）。1時だったか、1時15分過ぎだったか（半過去）。私の名が低い声で呼ばれるのが耳に入った（単純過去）。それは、そのとき私が寄り添うようにして歩いていた（半過去）城壁から聞こえるような気がした（単純過去）。私はぎくっとして立ち止まった（単純過去）。」

III.E.(1) Une nuit que je rentrais chez moi 「ある夜私が帰宅しているとき（半過去）」の半過去は、このような文脈では、上のIII.C.の場合と同じく《そのとき無限定に続く未完了事態》をあらわし、j'entendis 「耳に入った（単純過去）」は、そのとき生じた新事態をあらわす。それは、繰り返しになるが、決して動詞の時制の問題ではなく動詞の時制をゼロにした時に得られる文脈の問題である： Une nuit que je rentre chez

moi, j'*entends* mon nom prononcé à voix basse. 「ある夜私が帰宅しているときのこと（未完了事態）、私の名が低い声で呼ばれるのが耳に入る」。

つまり il me *prends* pour un fou. 「彼は私を間違い扱いしている（未完了事態）」と je n'*ai* aucune peine à comprendre que ... 「... と納得するのはわけもないことだ」の関係に等しい、という訳である(III.C.)。

III.E.(2) そのことは Il me *parut* venir de la muraille que je *frôlais*. 「そのとき私が寄り添うようにして歩いていた（半過去）城壁から聞こえるような気がした（単純過去）」にもそのまま当てはまる。「私が寄り添うようにして歩いている（未完了事態）城壁から、聞こえるような気がする」のような文脈では、「寄り添うようにして歩いている」は未完了事態をあらわさざるを得ないのではなからうか。「歩いている」と「... ような気がする」は決して継起的に連続する事態ではありえない。

III.E.(3) このような文脈的未完了事態は、それが積極的に言語的価値としてあらわされるか否かを問わず存在するが、勿論、通常は何らかのかたちで言語用法にそれが反映されて、その結果、私たちの自覚にあるとき上ってくるものであろう。フランス語の場合、過去表現では、事態を<枠づけ> *cerné* して示す単純過去で「寄り添うようにして歩いている」という未完了事態をあらわすことは避けなければならない。ここに、それを裏返しにしたかたちで、半過去が過去においてこのような文脈的未完了事態をあらわすのに向いているという自覚がフランス人の文法学者に生じる理由があるのかもしれない。

これを絶えず現在形で、Il me *paraît* venir de la muraille que je *frôle*. の如く扱っている限り、文脈的未完了事態の扱いに関する自覚は生じにくかったに違いない。

III.E.(4) このように見てくると、もう一方の、事態を<枠づけ> *cerné* して示す単純過去には、それを使用することが適切でない場合があることがわかる。物語表現で単純過去は主役であり、これが欠けた状態は想像できないから、単純過去こそフランス語の過去形として、いわば英語の *past* に相当する一般性をもつという認識があり、勿論それは誤ってはいない。けれども単純過去には、ここで見たようにそれを使用することが文脈的に適切でない場合があり、そこから注意深い観察者の目には、単純過去が<有標の過去>と映ることになるのではなからうか。

III.F. *Brusquement, Honoré Subrac se détacha en quelque sorte de la muraille contre laquelle je ne l'avais pas aperçu. Il était complètement nu et, avant tout, il s'empara de sa houppe de laine qu'il endossa et boutonna le plus vite qu'il put.*

「不意に、オノレ・シュブラックが城壁から、いわば、剥がれるように出てきた（単純過去）。そこにはそれまで、彼の姿がちらとも見えなかった（大過去）ところである。彼は真っ裸で（半過去）、取りもあえず彼は例の打ち掛けにとびつき（単純過去）、できる限り（単純過去）早く、それを羽織り（単純過去）そしてボタンをかけた（単純過去）」。

Il *était* complètement nu et, ...の半過去 *était* nu 「裸であった」と、次の事態、avant tout, il *s'empara* 「取りもあえず彼は例の打ち掛けにとびついた（単純過去）」、

そして *il endossa et boutonna* 「それを羽織り（単純過去）そしてボタンをかけた（単純過去）」の関係においても、「裸であった」は文脈的未完了事態である。これも動詞の時制をゼロにしたときに得られる文脈の問題である、といってよい：*Il est complètement nu et, avant tout, il s'empare de sa houppelande qu'il endosse et boutonne le plus vite qu'il peut.* 「彼は真っ裸であり（現在形）、取りもあえず彼は例の打ち掛けにとびつき（現在形）、できる限り（現在形）早く、それを羽織り（現在形）そしてボタンをかける（現在形）。」この文脈で、必ず未完了事態でなくてはならないのは、「彼は真っ裸である（現在形）」であろう。

III.G. *J'ai exercé pour la première fois cette faculté instinctive, il y a un certain nombre d'année déjà. J'avais vingt-cinq ans, et généralement, les femmes me trouvaient avenant et bien fait. L'une d'elles, qui était mariée, me témoigna tant d'amitié que je ne sus point résister. Fatale liaison! ... Une nuit, j'étais chez ma maîtresse. Son mari, soi-disant, était parti pour plusieurs jours. Nous étions nus comme des divinités, lorsque la porte s'ouvrit, et le mari apparut un revolver à la main. Ma terreur fut indécible, ...*

「私がこの本能的な能力を初めて使ったのは（過去）、もう何年も何年も前のことです。当時、私 25 才でしたが、わりと女性にもてましてね（半過去）。そんな女性の一人が、もう結婚している人でしたが（大過去）、あまりこまやかな愛情を注いでくれるので（単純過去）、私もつついその気になってしまって（単純過去）。宿命的関係というやつですなあ！ ... ある夜のことでしたが、その人のところにいました（半過去）。彼女の夫は、まあ自称の夫というところでしょうが、何日か家を留守にしていたのです（大過去）。私たち真っ裸でしてね（半過去）、その昔の、神々のようでした。そのときドアが開いて（単純過去）、夫が、ピストルを手に見れたのです（単純過去）。そのとき私の感じた言いようのない怖さといったら（単純過去）。」

III.G.(1) *J'avais vingt-cinq ans, et généralement, les femmes me trouvaient avenant et bien fait.* 「当時私 25 才でしたがわりと女性にもてましてね（半過去）」の半過去 *avais vingt-cinq ans* 「25 才だった」、*me trouvaient avenant* 「もてていた」が、ここでも、文脈的未完了事態をあらわしていることに注意しよう。何度もいうように、この文脈的未完了事態は半過去がつくりだすものではなく、すべて、動詞の時制をゼロにしたときに得られる文脈の問題である：*J'ai vingt-cinq ans, et généralement, les femmes me trouvent avenant et bien fait. L'une d'elles, (...) me témoigne tant d'amitié que je ne sais point résister.* 「私は 25 才でして（文脈的未完了事態）、わりと女性にもてるのです（文脈的未完了事態）。そんな女性の一人が (...), あまりこまやかな愛情を注いでくれるので (一)、私もつついその気になってしまって (一)。」

ここで、一人の女性が「こまやかな愛情を誓ってくれる」こと、わたしが「つついその気になってしまう」ことについては、更にこれにつづく文脈との関係で、文脈的未完了事態をあらわしたり、あらわさなかったりするだろうから一概に言えない。しかし「25 才だった」、「もてていた」の方は、与えられた文脈で文脈的未完了事態を構成している。

III.G.(2) *Nous étions nus, lorsque la porte s'ouvrit, ...* 「私たち真っ裸でし

てね（半過去）、そのときドアが開いて…（単純過去）」についても、半過去 *etions* (nus) が、ここでも文脈的未完了事態をあらわしていることは動詞の時制をゼロにしたときに得られる文脈の問題として容易に確認できる： *Nous sommes nus, lorsque la porte s'ouvre*, 「私たち真っ裸だ（文脈的未完了事態）、そのときドアが開く（－）。」

だが、次の *fut indécorable* は同じく *être* が用いられているとは言え文脈的未完了事態を構成しない。

III.G.(3) 実際、*Ma terreur fut indécorable* … 「そのとき私の感じた言いようのない怖さといったら（単純過去）」では、*être indécorable* は完全にそのとき生じた個別的な新事態である（III.B.(1) 参照）。

そのことは、動詞の時制をゼロにしたときに得られる文脈の問題としてはどのようなのだろうか？ *la porte s'ouvre, et le mari apparaît un revolver à la main. Ma terreur est indécorable* 「そのときドアが開き（－）、ピストルを手に夫が現れる（－）。そのとき私の感じた言いようのない怖さといったら（－）。」ここで示される三つの事態はいずれも互いに完全に自由な関係にあり——そのことを（－）で示す、——必ず、文脈的未完了事態を構成するとい文脈的拘束からはほど遠いと言えよう。

III.H. *il me parut que je faisais corps avec le mur et que personne désormais ne me voyait. C'était vrai. Le mari me cherchait pour me faire mourir. Il m'avait vu, et il était impossible que je me fusse enfui. Il devint comme fou, et, tournant sa rage contre sa femme, il la tua sauvagement en lui tirant six coups de revolver dans la tête.*

「どうやら私は壁と一つになった（半過去）ようで、それからもう誰にも、私の姿は見えなくなった（半過去）ように見えました（単純過去）。その通りでした（半過去）。夫は私を殺そうと、探しました（半過去）。夫は私の姿をその前にたしかに見ていた（大過去）わけですし、また、私が逃げた（大過去：接続法）ということもあり得ないことでした（半過去）。それで夫は狂ったようになり（単純過去）、怒りを妻の方に向けて、頭に6発の弾を打ちこみ、ひどいやり方で妻を殺してしまったのです（単純過去）。

III.H.(1) これは、既に見た場合と同じと言えるが（III.C）、私が「壁と一体」となり（半過去）、「誰にも見えなく」なっている（半過去）状態は、その状態の突然の自覚「のように見えた」（単純過去）に対して、必ず、文脈的に拘束された＜未完了＞事態を構成する。そのような状態の突然の自覚は、その状態のひろがり（未完了事態）の中でしか起きないからである。III.C.で見た場合を想起しておくと、*je n'ai aucune peine à comprendre qu'il me prend pour un fou*. 「どうやら気違い扱いされている（文脈的未完了事態）、と納得するのはわけもないことだ（－）」である。「どうやら気違い扱いされている」という自覚の中の「気違い扱いされている」という事態は、このような文脈の中では文脈的未完了事態でしかあり得ない。同じ理由から、ここでは、私が「壁と一体」となり「誰にも見えない」状態が *(que) je faisais ... et (que) personne ne voyait ...* のように半過去で描かれているのに対して、その状態の突然の自覚は、*il me parut que* 「ように見えた（単純過去）」のように単純過去で描かれている。

III.H.(2) *C'était vrai*. 「その通りでした（半過去）。」この半過去も、与えられた文脈では、ここで私たちが文脈的未完了事態と考えるものに対応している。そのことは次のように、動詞の時制をゼロにしたときに得られる文脈を抽出してみると明らかである：「その通りなのだ（文脈的未完了事態）。彼女の夫は私を探す（－）。彼は私の姿をそこで一度、たしかに見ている（完了）わけだし、私は逃げられはしない（－）のだから、〔探しあぐねると〕気が狂ったようになって（－）、...」*C'est vrai. Le mari me cherche. Il m'a vu, et il est impossible que je me sois enfui. Il devient comme fou, ...*

つまり、「その通りなのだ」は、「＜私＞の姿が誰の目にも見えなくなっている」ことを含意しているが、そのことは、彼女の夫が私を探し、探しあぐねて怒りを爆発させるという、その後の経過の全体を通じて確認されることである。「その通りなのだ」はそのように、他の事態に重なる事態なのである。

III.H.(3) *Le mari me cherchait* 「夫は私を（殺そうと）探した（半過去）」このような発話要素は、元来、大きな文脈をどう組み立てるかににより、どのような性格でも持ち得るものである。（つまり本来、比較的自由な要素をなしている。）だが、この発話要素が半過去で構成されているということは、ここで言及される事態が他の事態（とりわけ、単純過去で示されている *Il devint comme fou* 「彼は狂ったようになって ...」など）と重なり、そのバックグラウンドをなすものであることを示している。この文脈だと彼女の夫は私を「探して」（そしていわば「探しあぐねて」）怒りを爆発させるという結末に達するのである。というのも、彼の側から言えば「その前に私をちゃんと見た」のだし（*Il m'avait vu*）、「逃げた筈もない」（*et il était impossible que je me fusse enfui*）のだから、絶対に私が見つかると考えて探しているからであろう。そのことは、動詞の時制をゼロにしたときに得られる文脈を抽出してみると明らかである。つまりこの発話要素は、与えられた文脈の中で、文脈的未完了事態に対応するものとしてもくろまれているのである：「彼女の夫は私を探す（文脈的未完了事態）。彼は私の姿をそこで一度、たしかに見ている（完了）わけだし、私は逃げられはしない（－）のだ。彼は〔探しあぐねると〕気が狂ったようになり（－）、怒りを妻の方に向けて頭に6発の拳銃の弾を打ち込み、ひどいやり方で殺してしまう（－）」*Le mari me cherche pour me faire mourir. Il m'a vu, et il est impossible que je me sois enfui. Il devient comme fou, et, tournant sa rage contre sa femme, il la tue sauvagement en lui tirant six coups de revolver dans la tête.*

III.i. *Je félicitai* Honoré Subrac d'une faculté dont j'*avais* les preuves et que je lui *enviais* ...

Les jours suivants, je ne *pensai* qu'à cela et je *me surprénais*, à tout propos, tendant ma volonté dans le but de modifier ma forme et ma couleur. Je *tentai* de me changer en autobus, en Tour Eiffel, en Académicien, en gagnant du gros lot. Mes efforts *furent* vains. Je n'y *étais* pas. Ma volonté n'*avait* pas assez de force, et puis il me *manquait* cette sainte terreur, et ce formidable danger qui *avait réveillé* les instincts d'Honoré Subrac ...

「私は、そんな力の動かぬ証拠を見せつけられ（半過去）、羨ましいことだと思いながら（半過去）、たいした能力をもっているね、とオノレ・シュブラックにお祝いを言った（単純過去）。

つづく何日間かは、私の頭にはそのことしかなかった（単純過去）。そしてふと気がつくと、自分が、ことある度に精神を統一して姿や肌の色を変えようとしているのだった（半過去）。私は自分をバス、エッフェル塔、アカデミシアン、大籤の当選者に変えようとしたが（単純過去）、その努力は、すべて徒労に終わった（単純過去）。結局うまくはいかなかったのである（半過去）。私の意思の力も足りなかったし（半過去）、それに何よりも、オノレ・シュブラックの本能を目覚めさせた（大過去）、あの聖なる恐怖、あの大きな危険が、私には欠けていたのである（半過去）。

III.i.(1) *une faculté dont j'avais les preuves et que je lui enviais ...* 「私は、そんな力の動かぬ証拠を見せつけられ（半過去）、羨ましいことだと思いながら（半過去）」については、半過去 *avais les preuves, lui enviais* が、ここでも「お祝いをいう」に対して文脈的未完了事態をあらわしていることは動詞の時制をゼロにしたときに得られる文脈の問題として容易に確認できる：「私は、そんな力の動かぬ証拠を見せつけられ（文脈的未完了事態）、羨ましいことだと思いながら（文脈的未完了事態）、たいした能力をもっているね、とオノレ・シュブラックにお祝いを言う（－）。」 *Je félicite Honoré Subrac d'une faculté dont j'ai les preuves et que je lui envie ...*

III.i.(2) *je me surprénais, à tout propos, tendant ma volonté ...* 「ふと気がつくと、自分がことある度に精神を統一して ... しているのだった（半過去）」における *me surprénais* 「気がつくと ... しているのだった（半過去）」は、＜文脈的未完了事態＞と対応しているといえるのだろうか。念のため、動詞の時制をゼロにしたときに得られる文脈を見てみよう。「つづく何日間かは、私の頭にはそのことしかない（－）。そしてふと気がつくと、自分が、ことある度に精神を統一して姿や肌の色を変えようとしているのである（？）」 *Les jours suivants, je ne pense qu'à cela et je me surpréends, à tout propos, tendant ma volonté dans le but de modifier ma forme et ma couleur.* 問題は *je me surpréends* 「気がつくと ... しているのだ」が文脈的に、*je ne pense qu'à cela* 「そのことしか考えていない」「頭にはそのことしかない」の何に当たるのか、を明らかにすることだろう。「気がつくと ... しているのだ」は、まさにそのことを考えている最中なのだ、ということであろうから、私はこれを、＜文脈的未完了事態＞に対応する表現と考えてよいのだろうと思う。

III.i.(3) *Mes efforts furent vains. Je n'y étais pas.* 「その努力は、すべて徒労に終わった（単純過去）。結局うまくはいかなかったということだ（半過去）」において、*n'y étais pas* は *n'y arrivais pas, n'y parvenais pas* の軽量化された表現である。*furent vains* 「むだだった（単純過去）」は、一回一回を、それぞれに結論が出た、完結した経験、完結した事件として描いている。それに対して *n'y étais pas* は一回一回が「目的に達することがない」状況だった（半過去）というのである。この半過去の使い方は、例えば *Il se tut; il ne savait pas.* 「彼は黙った（単純過去）。〔ということとは、つまり〕知らなかったのだ（半過去）」（Guy de Maupassant, *Papa de Simon.*）な

どを思い出させる。ある意味では典型的な、＜状況説明の半過去＞であるといつてよいが、実はこれもまた、半過去がその価値を生み出しているというよりは、動詞の時制をゼロにしたときに得られる文脈がそれを既に生み出しているのである： *Il se tait; il ne sait pas*. 「彼は黙る（－）。知らないのだ（文脈的未完了事態）」 / *Mes efforts sont vains. Je n'y suis pas*. 「その努力は、すべて無駄に終わる（－）。うまくいかなかったのだ（文脈的未完了事態）。」

Ma volonté n'avait pas assez de force 「私の意思の力も足りなかった（半過去）」
il me manquait cette sainte terreur, et ce formidable danger ... 「あの聖なる恐怖、あの大きな危険が、私には欠けていたのである（半過去）」の半過去についても同じと考えてよいだろう。

III.J. *Je ne l'avais point vu depuis quelques temps, lorsqu'un jour, il arriva affolé (...)*

Je vis qu'il avait maigri, mais je me gardai de le lui dire.

「しばらく前から彼が姿を見せない（大過去）と思っていると、ある日のこと、彼があたふたと現れた（単純過去）。（...）」

彼がやつれてしまった（大過去）と思ったが（単純過去）、そのことを彼に言うのは控えた（単純過去）。」

Je ne l'avais point vu 「彼にしばらく会わないでいる（大過去）」ところへ、*il arriva affolé* 「かれがあたふたとやってきた（単純過去）」は、*Je ne l'ai point vu* 「彼にしばらく会わないでいる（現在完了）」ところへ、*il arrive affolé* 「彼があたふたとやってくる（現在形）」とパラレルである。一般に、*Je ne l'avais point vu depuis quelques temps, lorsqu'un jour, il arriva affolé* [大過去（＝完了状態を示す半過去）＋単純過去] のような場合は、＜完了状態を示す半過去＞が、突発する事態を示す＜単純過去＞のまわりで説明役を引き受けている、と見える。だがこれも、動詞の時制をゼロにしたときに得られる文脈の問題として考えると、完了表現に対応する事態が、ここで言う＜文脈的未完了事態＞を構成しているのではないか、と思えてくる。これはよく、過去完了が過去の＜状態＞を表現すると言われたり、現在完了が現在の＜状態＞を表現すると言われたりする場合に、相当する。もともと、完了表現があらわす事態には明白な二面性、両義性がある。それは完了表現が完了事態を切り取り（*être parti* 「出掛けた」）、完了事態が未完了事態につながり（「出掛けた」から、いま「いない」）、ある意味でそれを生み出す（含意する）、というかたちで一つの連環をつくり出すのである。ここでも *ne pas avoir vu* 「会わなかった」（完了事態）が「会っていない」という未完了事態を含意する：*Je ne l'ai point vu depuis quelques temps, lorsqu'un jour, il arrive affolé* 「彼にしばらく会わないでいるところへ（現在完了：文脈的未完了事態）、彼があたふたとやってくる（－）」。

その意味では、半過去だけでなく、*Je ne l'avais point vu* 「彼にしばらく会わないでいる」のような大過去についても、その背景にある＜文脈的未完了事態＞を考慮に入れなくてはならないだろう。

III.K. Dans la rue, nous *marchâmes* en silence. Honoré Subrac *tournait* constamment la tête, d'air inquiet. Tout à coup, il *poussa* un cri et *se mit* à fuir en se débarrassant de sa houppelande et de ses pantoufles. Et je *vis* qu'un homme *arrivait* derrière nous en courant. J'*essayai* de l'arrêter. Mais il m'*échappa*. Il *tenait* un revolver qu'il *braquait* dans la direction d'Honoré Subrac. Celui-ci *venait* d'atteindre un long mur de caserne et *disparut* comme par enchantement.

L'homme au revolver *s'arrêta* stupéfait, poussant une exclamation de rage, et, comme pour se venger du mur qui *semblait* lui avoir ravi sa victime, il *déchargea* son revolver sur le point où Honoré Subrac *avait disparu*.

「道にでると私たちは一言も発せず歩いた（単純過去）。オノレ・シュブラックはたえず、不安げに、きょろきょろとまわりを見まわしていた（半過去）。突然彼が叫び声をあげ（単純過去）、打ち掛けとサンダルを脱ぎ捨てながら一目散に逃げはじめた（単純過去）。見ると（単純過去）、一人の男が後方から走って近づいてきた（半過去）。私は彼を引き止めようとしたが（単純過去）、彼は私の手を逃れた（単純過去）。彼は拳銃を握っており（半過去）、オノレ・シュブラックの逃げる方角へねらいをつけていた（半過去）。オノレ・シュブラックは、今やっと兵営の長い塀にとどりついたところだ（半過去）、と思うと、たちまち、かき消すように姿を消した（単純過去）。

拳銃をもった男は、あっけにとられて立ち止まり（単純過去）、怒りの声をあげたかと思うと、彼の狙った相手をさらってしまったかに見える（半過去）壁に向かって仕返しをするかのように、彼はオノレ・シュブラックが姿をかき消した（大過去）その点に向けて拳銃を発射した（単純過去）。」

III.K.(1) *tournait*（半過去）をめぐる。Honoré Subrac *tournait* constamment la tête 「オノレ・シュブラックはたえず、不安げに、きょろきょろとまわりを見まわしていた（半過去）」は、ここでは文脈的にどのように利用されているだろうか。動詞の時制をゼロにしたときに得られる文脈の問題として考えると、「きょろきょろとまわりを見まわしていた」は、たしかに独立の個別的事態とも、また、次の事態（ここでは「一目散に逃げはじめる」）がその中から生じる文脈的未完了事態ともとれるだろう：「オノレ・シュブラックはたえず、不安げにきょろきょろとあたりを見まわすが（個別的事態？文脈的未完了事態？）、突然叫び声をあげ（－）、一目散に逃げ始める（－）」（Honoré Subrac *tourne* constamment la tête, d'air inquiet. Tout à coup, il *pousse* un cri et *se met* à fuir ...）。

だが、勿論、この部分がさまざまなやり方で文脈的に利用できることを認めた上で、ここでは、その状況の中から次の事態（「一目散に逃げはじめる」）が生じる＜文脈的未完了事態＞として利用されていると考えるのが自然であろう。そのように考える大きな根拠の一つとして、ここでは話者が、単純過去でなく半過去を用いていることが挙げられる。単純過去か／半過去かの選択の差は、この場合のようにいわば多目的の文脈の場合、話者の意図を窺う鍵となる。半過去の選択は多目的の文脈を前にして、話者が＜文脈的未完了事態＞としての利用法を選んでいることのサインになっていると考えられる。

III.K.(2) *arrivait*（半過去）をめぐる。Et je *vis* qu'un homme *arrivait* derrière nous 「見ると（単純過去）、一人の男が後方から近づいてきた（半過去）」では、「（男が）近づいてきた」ことを認識する行為（「見ると」）にとって、「近づいてくる」事態は必ず、＜文脈的未完了事態＞を構成することになる。そのことは、

arrivait の半過去の問題ではなく、動詞の時制をゼロにしたときに得られる文脈の問題である：「見ると（－）、一人の男が後方から近づいてくる（文脈的未完了事態）」（*Et je vois qu'un homme arrive derrière nous*）。

III.K.(3) *tenait, braquait*（半過去）をめぐって。Il *tenait* un revolver qu'il *braquait* dans la direction d'Honoré Subrac. 「彼は拳銃を握っており（半過去）、オノレ・シュブラックの逃げる方角へねらいをつけていた（半過去）」は、*je vis* 「見ると」との関連で読めば、上例の *arrivait* 同様、＜文脈的未完了事態＞を構成することになる。いずれにしてもこの男は登場したときから、拳銃を握っており、またオノレ・シュブラックの逃げる方角へねらいをつけているらしい。それは半過去の生み出す価値なのだろうか。動詞の時制をゼロにしたときに得られる文脈の問題として眺めてみよう：「見ると（－）、一人の男が後方から走って近づいてくる（文脈的未完了事態）。私は彼を引き止めようとするが（－）、彼は私の手を逃れる（－）。彼は拳銃を握（って）おり（？）、オノレ・シュブラックの逃げる方角へねらいをつけ（てい）る（？）。」（*Et je vois qu'un homme arrive derrière nous en courant. J'essaye de l'arrêter. Mais il m'échappe. Il tient un revolver qu'il braque dans la direction d'Honoré Subrac.*）

このように、動詞の時制をゼロにしたときに得られる文脈では、「彼は拳銃を握っており」は実は「握っている」のか「握る」のかわからない。「逃げる方角へねらいをつけ（てい）る」も、「ねらいをつけている」のか「つける」のかわからない。このように文脈が不確定である場合には、上のIII.K.(1)の場合と同じく、話者が過去を選ぶとき単純過去か／半過去かの選択の差がものをいうことになる、と考えられる。

III.K.(4) *semblait*（半過去）をめぐって。mur qui *semblait* lui avoir ravi sa victime 「彼の狙った相手をさらってしまったかに見える（半過去）壁」では、*semblait* は＜文脈的未完了事態＞に対応していると考えられる。動詞の時制をゼロにしたときに得られる文脈の問題として眺めてみよう：「彼の狙った相手をさらってしまったかに見える（文脈的未完了事態）壁に向かって仕返しをするかのように、彼はオノレ・シュブラックが姿をかき消した（完了）点に向けて拳銃を発射する（－）。」*et, comme pour se venger du mur qui semble lui avoir ravi sa victime, il décharge son revolver sur le point où Honoré Subrac a disparu.*

IV. おわりに。

ほぼ紙幅も尽きたようであるし、また時間的な余裕もほぼ尽きたので、テキストの検討としては、今回は以上で見てきたように G. Apollinaire の *La Disparition d'Honoré Subrac* におけるいくつかの例を検討するだけで終わりにしよう。

分析の中で、しばしば＜文脈的未完了事態＞なる、ややわかりにくい概念を用いた。言わんとするところは、問題の時制を表現から取り除いた上で、言語表現が切り取る事態の性格を文脈が切り取る他の事態とのからみで規定しよう、ということである。ここで＜言語表現が切り取る事態＞を、絶対の、あるいは言語表現から独立のものとして、措定して

いるわけではない（『言語による経験の形式化について』を参照）。むしろ、経験はその＜連続性＞において措定されており、その連続性の中から言語表現が、その地域言語の定めた意味の枠、あるいは意味の＜核＞に応じて、何かを切り取るのである。＜文脈的未完了事態＞は、事態としては言語表現の相関物、言語表現との関連で姿をあらわすものである。それは、ほとんど、一般にいわれる言語表現の「意味」と解されてよい。文脈により寄せ集められた「意味」が、まわりの「意味」との関係で、どうしても＜文脈的に未完了＞な性格を帯びなくてはならない場合がある。それがここでいう＜文脈的未完了事態＞（あくまで事態のレベルで観察されている）である。

ひとつの「意味」が、文脈的に＜未完了＞の「意味」を帯びたとき、その未完了性がまわりの「意味」からどのような拘束を受けるかは、場合により様々である。文脈的「必然」ととれる場合があるかと思えば、話者がかなりの自由な選択により、それを加えている場合もある。今回はこの種の拘束についてはとりわけ議論を深めることはしなかった。

半過去の、文脈的価値（意味合い）を論ずるには、まず、半過去（モネーム）の、他の時制（モネーム）との基本的な対立関係を、あらかじめ、おさらいしておく必要がある。それをしないで、つまり半過去（モネーム）の価値をペンディングにしたまま文脈的価値の検討に入っても、文脈の中に何を見ればよいのかわからないだろう。これは一種の悪循環の始まりである。と、私は考えている。

しかし、何をもって基本的な対立関係とするのか。それを明らかにするには、文脈の中に置かれた半過去の観察が必要だ、と多分、言われることになるだろう。その通りだが、やはり違う。

私は半過去の無標性を確認するのに、半過去が他のどんな過去とも柔軟に対応できる点に目をつけている。恐らく他の視点もありうる。例えば単純過去が、ある種の文脈では使えないといった点は（III.E. (3), (4)を参照）、興味ある視点となりうるだろう。私が、他の過去のモネームとの柔軟な対応を重要視するのは、そこに扱いやすさがあるからだが、他の視点についても議論を詰めてみる必要がある。いずれにしてもこういう形で、半過去と他の過去表現の間の基本的な対立関係を確認することが先決である。

たしかに、こういった問題を議論するにも当然、文脈の中におかれた半過去の資料がものをいっている。だがその議論は、個々の文脈の次元を越えているのである。

いずれにせよこのような議論を進めるために何がまず大切な、その辺りを、幾つかの分析の経験を踏まえて固めていく必要があろう。

最後にお断りしておきたいことは、第三章の具体的な分析で筆者はなるべく個々の問題に明確な答えを出すように努力した。しかし中には短見、謬見も含まれていよう。何しろ人間のやることであるから、さまざまな間違いが避けられない。近い将来に必要な修正を試みるつもりであるが、それまでは何卒ご寛恕をたまわりたい。

Bibliographie

- A. Meillet : *Linguistique historique et linguistique générale*, tome 1, Paris, Champion, 1921.
- A. Martinet: *Grammaire fonctionnelle du français*, 1970, Paris, Didier.
- : *Syntaxe générale*, 1985, Paris, Armand Collin.
- 渡瀬 嘉朗 : 《言語による経験の形式化について》（東京外国語大学外国語学部における最終講義、1995.2.2）

1. 英語に於けるI-movement

疑問文や否定要素が文頭に現れた場合に見られる主語と助動詞の倒置（今後S A Iと略記）現象は、従来の考えでは、主語と助動詞を入れ替える規則であると考えられてきた。例えば、Joseph E. Emonds(1976)では、S A Iは（1）の様に定義される根変形（操作）であり、それは（2）の様に定式化されると考えた。

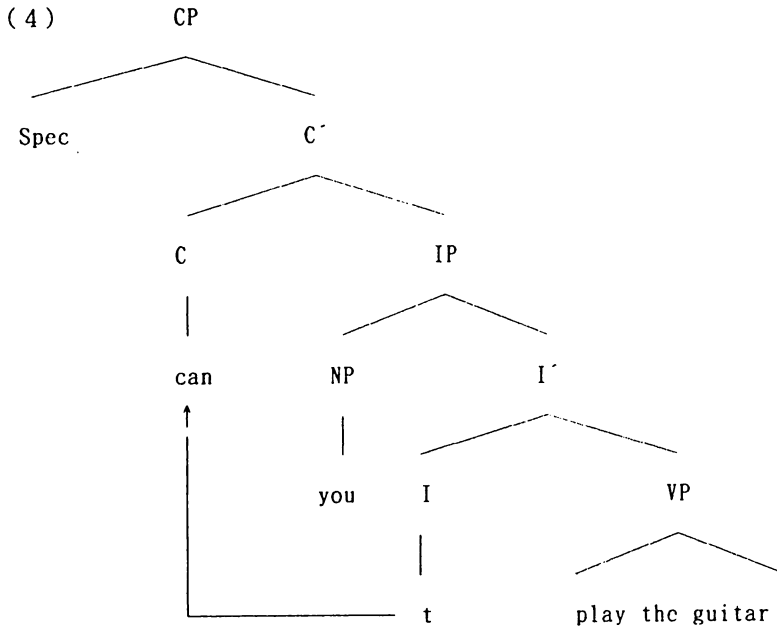
（1）派生句構造に於いて、根文（S以外の接点に支配されていないS）に直接支配される位置に、接点Cを移動、転写或いは挿入する変形（操作）は「根変形（操作）」である。

（2）COMP-NP-AUX-X $\Rightarrow$ 1-3-2-4

但し、1はWH, NEG又はsoを支配している。

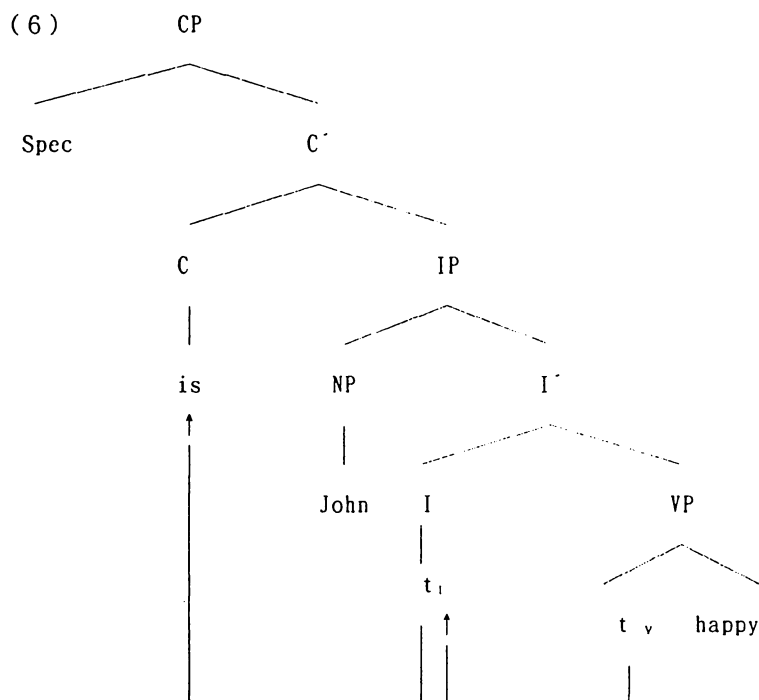
しかし乍ら現在では、次に図示する様に、IPの主要部からCPの主要部（head）への移動であると考えられている。例えば、（3）の助動詞を含む文の派生過程を示せば、（4）の如くである。

（3）Can you play the guitar ?



次の b e 動詞を含む (5) の文の派生過程を示せば、(6) の様になる。

(5) Is John happy ?



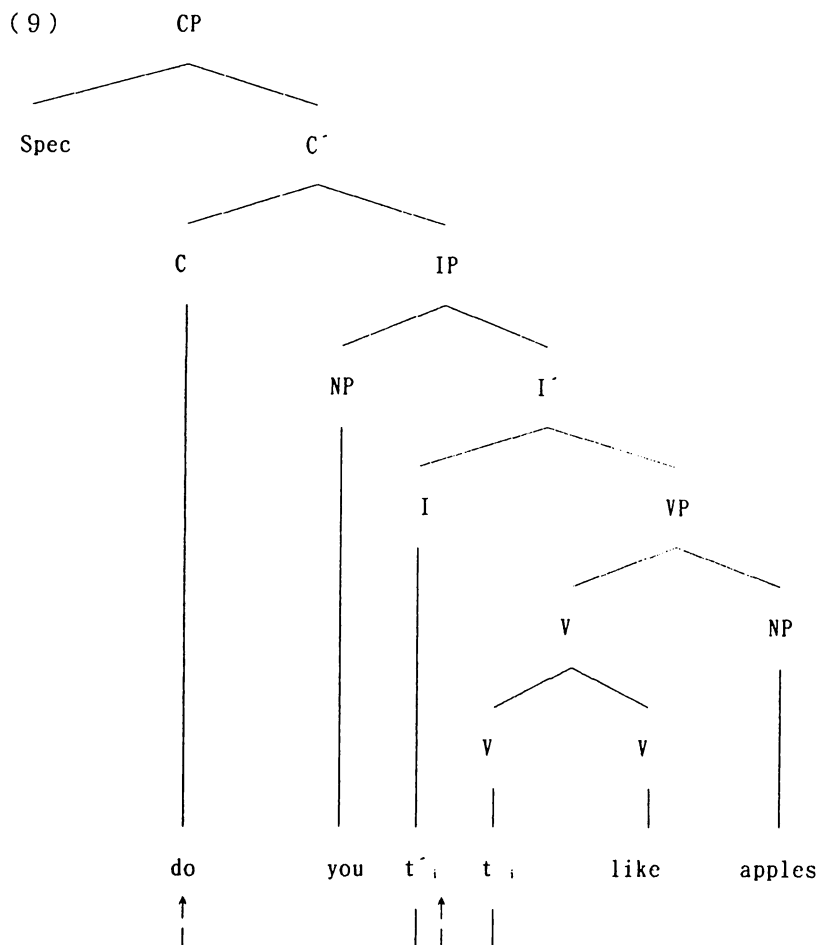
つまり、先ず第一段階として、VPの主要部Vである b e が IP の主要部 I へと移動し、V と I が融合して V_i が形成されここで b e は i s になる。第二段階として、この V_i は CP の主要部である C に移動して主語と助動詞の倒置が完成する。

次の (7) の様な一般動詞を含む疑問文では、先ず d o 挿入が行われ、この d o が IP の主要部へと移動し、その後 CP の主要部である C へと移動することによって派生すると考えられる。一般動詞の場合、b e 動詞の場合の様に、一般動詞自身が移動した (8) の様な形は非文となる。

(7) Do you like apples ?

(8) * Like you apples ?

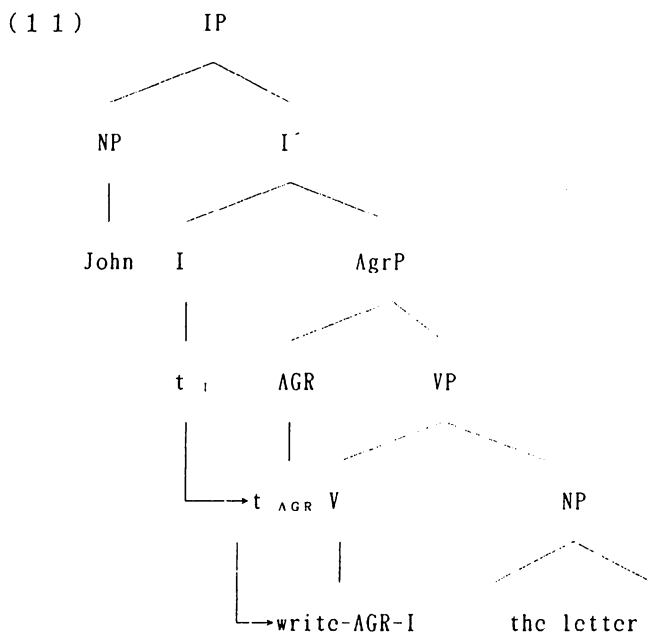
(7) の派生過程を図示すれば、(9) の如くである。



次に、英語の肯定文の派生に時制要素 I の移動がどう絡んでくるか観てみる。例えば、次の (10) は、時制要素 I が先ず一致要素 AGR に下降 (lowering) し、AGR に付加され、複合要素 (complex element) $[_{AGR} AGR-I]$ を形成する。その後この複合要素は更に下降して、動詞に付加され $[_v write-AGR-I]$ を形成し、この段階で動詞の形が wrote となる。

(10) John wrote the letter.

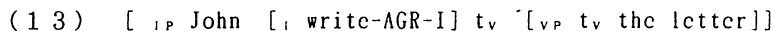
今この派生のプロセスを図示すれば、(11) の様になる。



英語の一般動詞は、以上観てきた様に、INFLがVに繰り下げられることにより語形変化すると考えられている。そして、ここに関連する移動は屈折要素繰り下げ (INFL-lowering) と呼ばれる。しかし乍ら、一般動詞を含む文が、上で観てきた様に、屈折要素繰り下げによって派生するものと考え、屈折要素の下降の過程で生じる痕跡がECPに抵触するという問題が生じる。例えば、(10)の文のS構造は次の様になっている。



このS構造に現れる連鎖 t_i, t_{AGR}, write-AGR-Iは痕跡が束縛されていないので、不適格な連鎖として排除される。この不都合を回避するために、LF上昇規則 (LF raising rule) のLF段階での適用という手段が取られる。この規則がLF段階で適用された後のLF表示は次の様になっている。

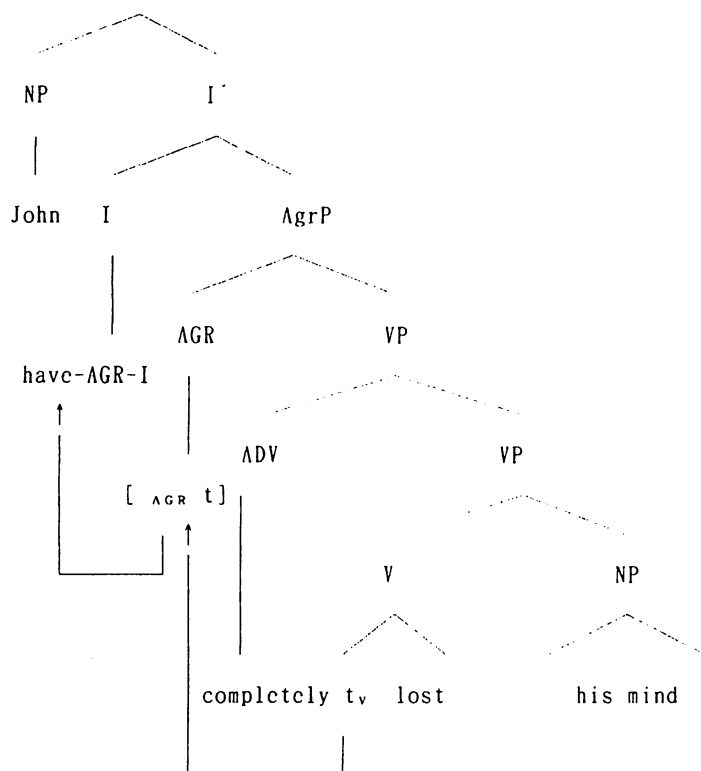


このLF表示に於いては、痕跡はECPに抵触することはないので、先ほどの問題はこれにより解決されることになる。これを要するに、一般動詞の肯定文の派生に関しては、屈折要素繰り下げとLF上昇規則による二段階の操作が必要とされるということである。

これに対して、be動詞や助動詞（助動詞としてのhaveも含む）を含む文の派生には、動詞のINFLへの繰り上げが関係していると言われる。例えば、次の(14)の文の派生過程は(15)のようになる。

(14) John has completely lost his mind.

(15) IP



ここで、V (have) が AGR の節点に残した痕跡が V の痕跡ではなく、AGR の痕跡となっているのは、LF 上昇規則が代入であるのに対して、こちらの方は付加であるので AGR に助動詞の have が付加されてもそれ全体は AGR である。従って、それが移動した後に残る痕跡も AGR の痕跡ということになる。

英語の本動詞の場合には、屈折要素繰り下げがその派生に関与し、be 動詞や助動詞の場合には、動詞繰り上げ (V-raising) がその派生に関与するという異合に、その各々の派生に関与する移動規則が異なるのは何故であろうか。適用される規則の相違を齎すのは、VP 内の副詞が現れる位置の相違がその根拠となっている。例えば、VP 内動詞とされる often と completely を例にとると、この副詞

が文中で取ることができる位置は、その文の動詞が本動詞であるか、助動詞であるかによって、違いを生じる。次の文によってその分布上の相違に注意されたい。

(16) John often kisses Mary.

(17) * John kisses often Mary.

(18) John has completely lost his mind.

(19) * John completely has lost his mind.

often やcompletelyの様なV P副詞と呼ばれるものは[_{VP} ADV [_{VP} V...]]の様なV P内の位置を占めると仮定すると、本動詞がこの副詞よりも前にくることは許されない。一方、助動詞を含む文では、助動詞がこの副詞の後に来ることは許されないという事実が観察される。このような事実に基づいて、その派生に關与する移動規則も自ずから異なる筈であるという結論に導かれるのである。

2. フランス語に於けるI-movement

前節で見た様に、英語では本動詞の場合には、I N F Lへの動詞繰り上げはできないということが分かった。この事実は英語の屈折辞パラメーターの値が[-strong]であると表現される。一方、フランス語では、英語と対照的に、一般動詞はI N F Lに移動することが可能であると考えられている。この事実は、フランス語の屈折辞パラメーターが[+strong]であると表現される。フランス語の一般動詞が動詞繰り上げによってI N F Lへの移動を行うと考えられる根拠は、次の例から分かる様に、V P内副詞と本動詞との相対的な位置関係に基づいている。

(20) Jean embrasse souvent Marie.

(21) * Jean souvent embrasse Marie.

英語の場合とは逆に、一般動詞（この場合はembrasser）はV P内の副詞であるsouventの前に位置している。このことから、フランス語の一般動詞はI N F Lの位置へ繰り上げが行われていると考えられる。embrasseがI N F Lの位置へ繰り上げられた後のS構造は次の様である。

(22) [_{IP} Jean [_P embrasse +INFL [_{VP} souvent [_{VP} t Marie]]]].
繰り上げられた動詞の痕跡tはembrasse+INFLによって適切に束縛されているので、英語の場合の様に、L F上昇規則は必要ない。

しかし乍ら、ここで問題となるのは、何故(23)の様なD構造に統語部門で屈折要素繰り下げを適用し、更にL F部門でL F上昇規則を適用して派生する(25)の様なL F構造が適格であるにも拘らず排除されるのかといういうことである。

(23) [_{IP} Jean [_P INFL [_{VP} souvent [_{VP} embrasse Marie]]]].

(24) [_{IP} Jean [_P t_i [_{VP} souvent [_{VP} cmbrasse+INFL Maric]]]].
(S構造)

(25) [_{IP} Jean [_P cmbrasse+INFL [_{VP} souvent [_{VP} t_v Maric]]]].
(LF構造)

この問題に関して、Chomsky (1989) は、もし長い派生 (INFL 繰り下げと動詞繰り上げ) と短い派生 (動詞繰り上げのみ) の二つが原理的に可能である場合には、短い方の派生方法が義務的に選択されるという原則によって解決を計ろうとしている。この原則は、「最小労力の原理」(least effort principle) と呼ばれるものである。このChomsky が提案する「最小労力の原理」によって、

(24) から (25) の LF 構造に至る派生方法は振り落とされることになる。従って、(26) の様な非文が派生される可能性は閉ざされることになる。

(26) * Jean souvent cmbrasse Maric.

3. マレーシア語に於ける I-movement

3. 1. マレーシア語の INFL

マレーシア語では、次の例が示す如く、文法的範疇としての時制は存在せず、それが表す時の違いによって動詞の形が変わるということがない。

(27) Fatimah membaca buku itu esok.

(28) Fatimah membaca buku itu semalam.

(29) Fatimah membaca buku di beranda.

又、次の様に、主語によって動詞の形が変化するというものもない。

(30) Saya /Awak/Dia membaca buku di beranda.

以上のことから、マレーシア語の屈折辞 INFL を構成する素性に Tense や AGR は含まれていないと考えるのが妥当であろう。マレーシア語には、従って、英語に於ける定形節・不定形節の様な区別は認められないが、代わりに Aspect を表す語を含むか含まないかによる区別があると考えられる。例えば補文子 *bahawa* は Aspect を表す *akan, sudah, telah, belum, pernah* 等の語の出現を許すが、*untuk* や *supaya* 補文子はこのような種類の語の出現は許されない。次例を参照されたい。

(31) Saya difahamkan bahawa puak pelampau itu telah mclarikan diri ke luar negara ini.

(32) * Saya berazam untuk akan berhenti merokok.

(33) * Dia menuntut supaya wang pinjaman itu telah dibayar balik semuanya sebelum akhir tahun ini.

しかし、*patut, mesti, harus, sepatutnya, semestinya, perlu, elok, baik, dapat, boleh* の様な心的態度を表す言葉、或いは *berjaya, gagal, terpaksa* の様な言葉は

これらの補文子に導かれる節の孰れにも出現可能である。次例を参照されたい。

(34) Dia menegaskan bahawa undang-undang itu mesti dimansuhkan.

(35) Saya berusaha sedaya upaya untuk dapat melepaskan diri dari kongkong.

(36) Dia menuntut supaya wang yang dipunggutnya sepatutnya discraahkan kepada pihak berkuasa.

又、次例の様にアスペクトを表す語が現れることがない節にも自動詞や *me*-動詞の主語が現れる形が存在することから、主語の出現には *Aspect* という素性に関わってはいないと考えられる。

(37) Mudahlah untuk dia merancangkan sesuatu untuk Ah San.

(101 Muslihat Jilid 1, P.55)

(38) Minta sedikit air Minah untuk tok Nujum menilik nasib kita hari ini.

(Drama Klasik Untuk Tahun 4, P.7)

このような場合も含めて、自動詞や *me*-動詞の直前に位置する名詞句に主格を付与する格付与子として、*AGR* に替わるべきものを想定する必要がある。

マレーシア語の *INFL* を構成する素性として *Aspect* と *Modality* が存在すると考えられるが、Ramli Haji Salleh (1989) はそれらの具現形としての相助動詞と法助動詞相互の位置関係には一定の決まりがあると考えている。Ramli Haji Salleh は相助動詞と法助動詞の両方が出現する時には、この順序で現れるとして次の様な例を挙げている。

(39) Dia akan ingin pergi memancing bila cuaca baik.

(40) * Dia ingin akan pergi memancing bila cuaca baik.

しかし乍ら、Ramli Haji Salleh が主張する様に、相助動詞は常に法助動詞に先行して現れるという訳ではなく、その出現の組合せはずっと複雑である。Gan Kok Siong (1991) によれば、相助動詞と法助動詞の組合せは、次の四通りが可能であるという。次に、その組合せを例と共に挙げる。

A) *Aspectual*+*Modal*

例) Saya sudah mahu mandi tadi tetapi air di tempayan sudah habis.

Kedai itu belum mesti ditutup pada pukul lapan malam.

B) *Aspectual*+*Aspectual*

例) Ali akan sedang berkata-kata bila kita tiba.

Walaupun hari sudah gelap, dia masih belum mahu pulang.

C) Modal+Modal

例) Ali harus hendak bercakap.

Dia mungkin dapat memberikan pertolongan kepada kita.

C) Modal+Aspectual

例) Mat mesti sudah balik dari Ipoh.

Dia mungkin baharu pulang dari sekolah.

そして、上記のパターンに従っていけば全て可能な出現形であるという訳ではない。例えば、Gran Kok Siong(1991)によれば、次の様な組合せは排除されるという。

4 1) * Dia hendak harus bercakap.

4 2) * Dia ingin mesti bercakap.

次の例は、Ramli Haji Sallch(1989)が挙げているものである。

4 3) * Dia ingin akan pergi memancing bila cuaca baik.

4 4) * John boleh telah balik ke rumah setelah berada di rumah
sakit selama tiga hari.

これから分かるように、相助動詞と法助動詞の組合せはRamli Haji Sallch が主張するよりもずっと複雑である。相助動詞と法助動詞の許される組合せが出現する場合、それらの間に他の要素が介在できないという特徴が次の例から看取される。例はRamli Haji Sallch (1989)から引いたものであるが、孰れも認められないものだという。

4 5) * Penduduk kampung sudah semalam boleh menuai padi.

4 6) * Akankah dapat mereka membajak sawah ?

4 7) * Sudahkah pernah Ali pergi ke Seattle ?

因に、4 6) と 4 7) は夫々 4 8) 、 4 9) の様に書き換えれば問題のない文となる。

4 8) Akan dapatkah mereka membajak sawah ?

4 9) Sudah pernahkah Ali pergi ke Seattle ?

これらの相助動詞及び法助動詞がRamli Haji Sallch(1989)も主張する如く、マレーシア語の I N F L のアスペクト素性とモーダル素性の具現形であるとするれば、これらは同一 I N F L 節点の下で極めて堅い結合を成していて、恰かも単一の要素の如く振る舞っている様に見える。

3. 2. 疑問倒置

Ramli Haji Sallch(1990)では、次の様な疑問倒置形を派生するには、I N F L 節点の下に現れる助動詞(相助動詞及び法助動詞)ばかりでなく、動詞(他動

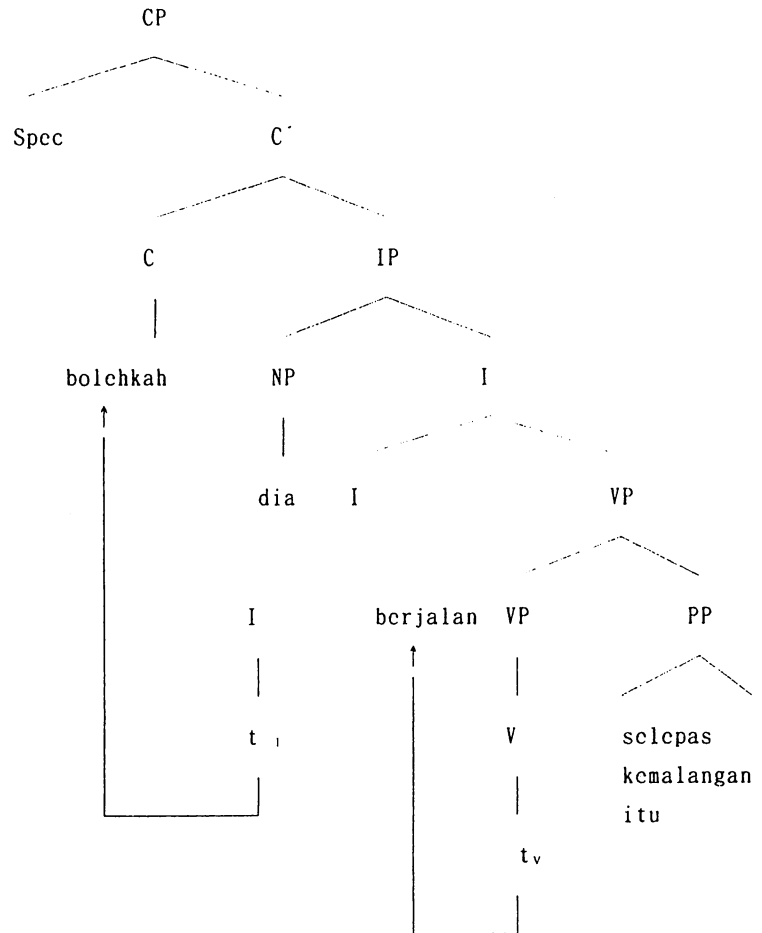
詞は含まない) も CP の主要部へ移動させる操作が必要であると主張した。

50) Bolehkah dia berjalan selepas kemalangan itu ?

51) Masukkah budak itu ke dalam bilik ?

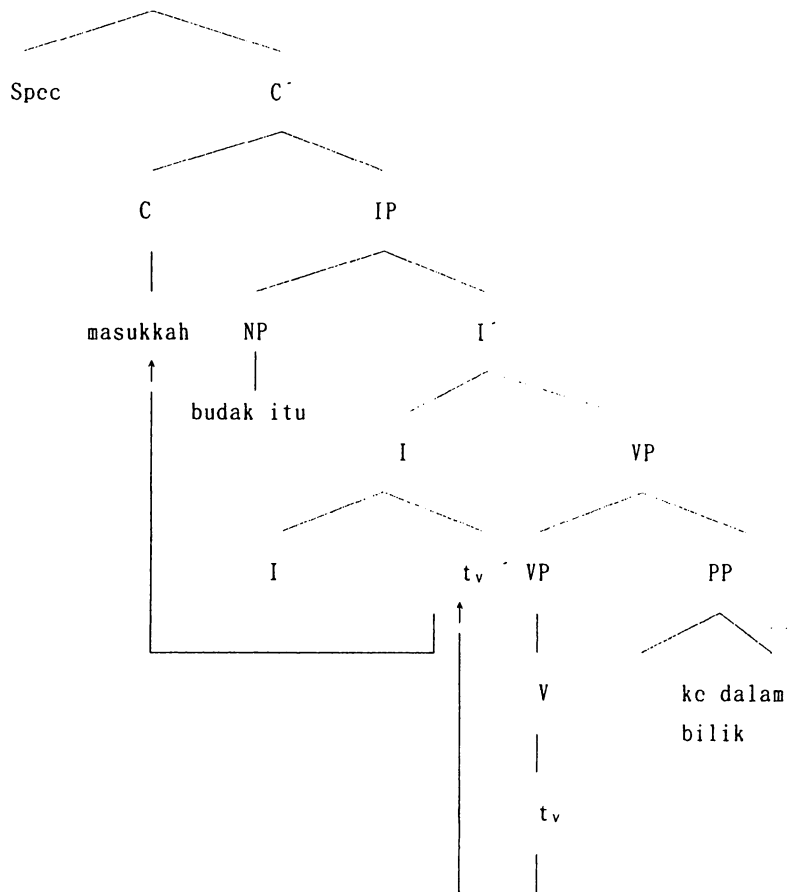
50) の派生のプロセスを Ramli Haji Salleh (1990) に従って図示すれば 52) の如くである。

52)



51) の派生のプロセスを図示すれば、53) の如くである。

53)

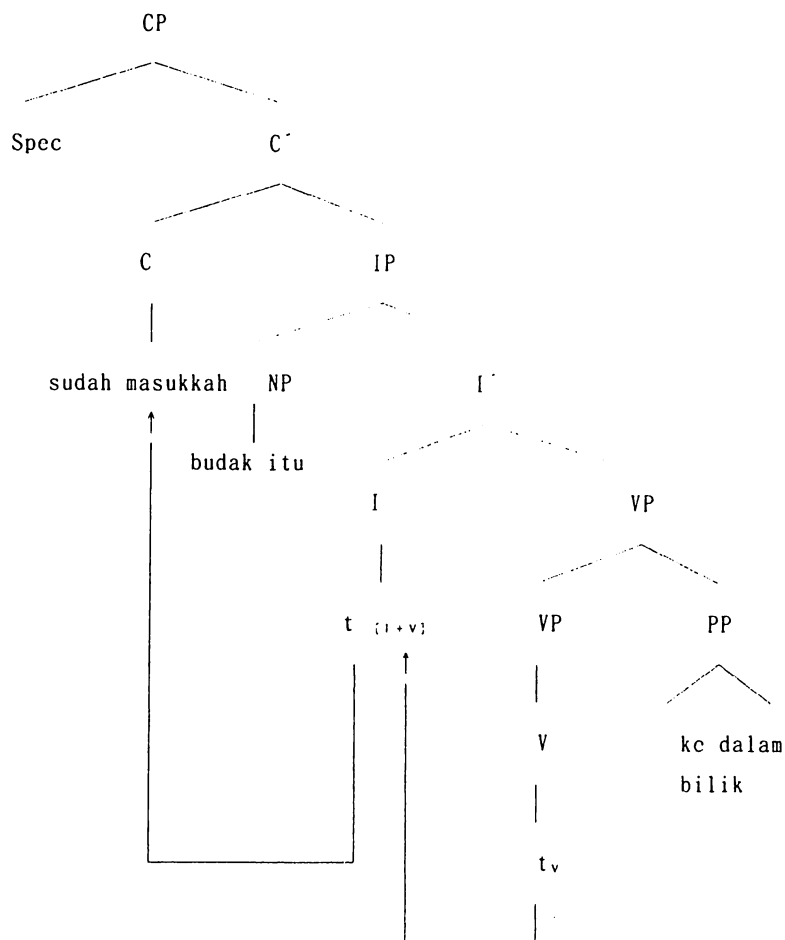


又、次の様な文は動詞が一度 I N F L 節点に移動し、その後最初から I N F L 節点にあった相助動詞である sudah と共に C P の主要部へと移動することによって派生されたと Ramli Haji Sallch は考えている。

(54) Sudah masukkah Aminah ke dalam bilik itu ?

この文の派生のプロセスを図示したのが (55) である。

55)

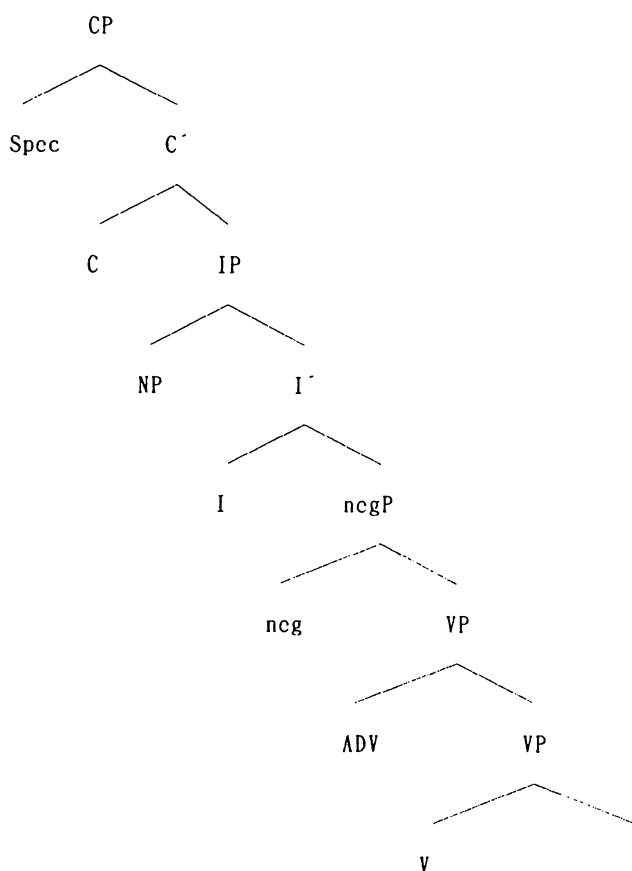


50) の様に助動詞だけに疑問の小詞が付いて前置した文の派生に関しては、Ramli Haji Salih は助動詞だけでなく、同時に動詞を **INFL** 節点へと移動させる方式を採っている。しかし乍ら、次の文が示す様に、**VP** 内副詞が動詞の前に出現していることから考えると、助動詞だけが移動して、動詞は元の位置に留まっていると考えるのが妥当であろう。これは、**VP** 内副詞が占める位置は変形の適用を受けて変わることはないという前提から導かれる帰結である。

(56) Sudahkah dia kerap datang ke sini ?

つまり、**VP** 内副詞の位置が次の図の **ADV** の位置で、固定しているという想定に立つならば、(56) では、動詞の移動は生じなかったと考えざるをえない。

(57)



何故なら、VP内副詞の位置が次のADVで表される位置で固定しているならば、この構造でもし動詞がINFL節点に移動すると次の様な非文が形成され、

(56)の適格文を派生させる方法が閉ざされてしまうからである。

(57) * Sudahkah dia datang kerap ke sini ?

Ramli Haji Sallch(1990)では又、次の文が非文であることから、INFLに動詞が移動した場合に、最初からその位置を占めていた助動詞か若しくは助動詞と動詞の両方を動かすことは差し支えないが、助動詞を置き去りにして、移動してきた動詞だけをCの位置へと移動させることはできないという原則によって説明

(58) * Masukkah Aminah sudah ke dalam bilik itu ?

している。しかし、50)の様な文が助動詞のIからCへの移動だけによって生じたと考えれば、Ramli Haji Sallch が(58)を排除するために用いた原則は、

「I N F L 節点の下にある要素がCへと移動する時には、それら全てを移動させなければならない」

というより簡潔な原則に改められる。この原則は又、I N F L 節点の下に複数の助動詞が最初から存在する場合、それらの一部だけをCに上昇移動させた次の様な文が非文となる事実を説明できる。

(59) * Belumlah dia boleh berjalan selepas kemalangan itu ?

この文を変えて、助動詞を全てCに移動させた次の様な文は許容される文である。

(60) Belum bolehkah dia berjalan selepas kemalangan itu ?

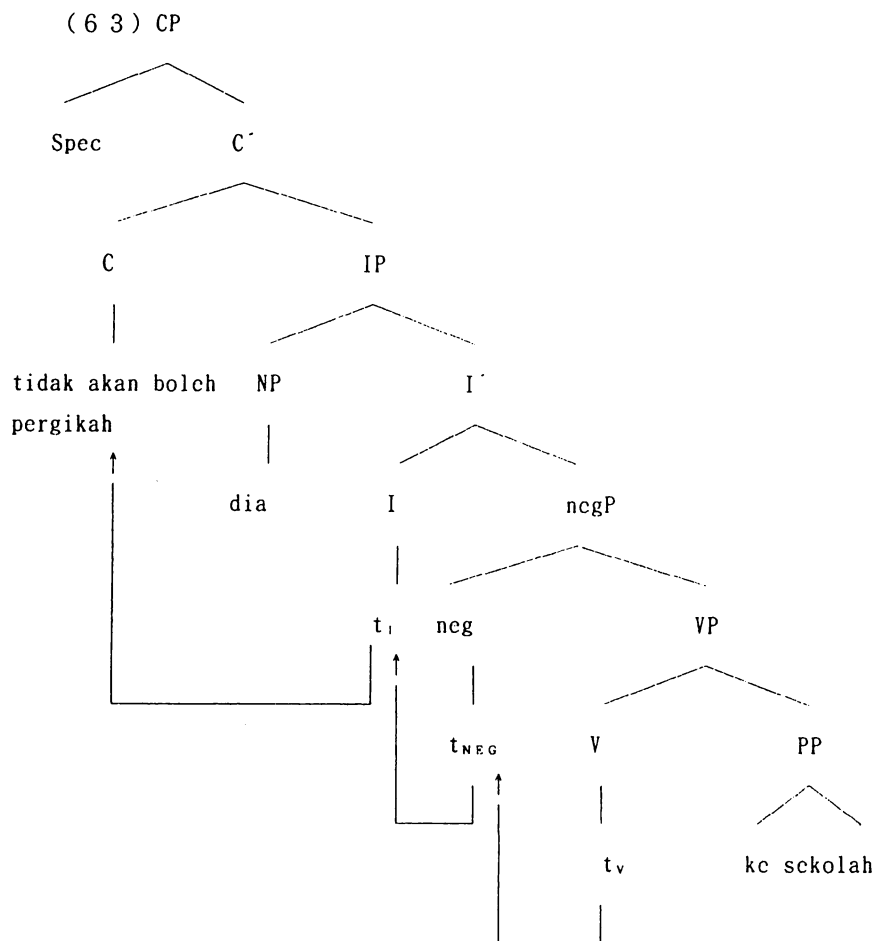
3. 3. 否定辞の移動

否定辞と助動詞の両方を含む疑問文で、否定辞だけをCに移動させて - k a h を付けることはできない。次例はRamli Haji Salleh が非文として挙げているものである。

(61) * Tidakkah dia akan boleh pergi ke sekolah ?

Ramli Haji Salleh によれば、相助動詞や法助動詞と並んで否定辞もD構造でI N F L 節点に語彙挿入される候補群の一つのクラスであるとみなされている。しかし、I の内部に複数の異なる要素が共存するのはXバー理論に抵触するので、J. Pollock(1989) が主張する如く、(57) に示される様な否定詞(Neg)を主要部とする否定詞句(NegP)を別に立てるほうがよいと思われる。今(57)の様な構造を使って(62)の文の派生を(63)に示すことにする。

(62) Tidak akan boleh pergikah dia ke sekolah ?



先ず、動詞 (pergi) が否定詞句 (negP) の主要部へと移動し、ここで否定詞と融合する。その後、この融合体全体が IP の主要部である I へと移動をし、ここでも同じく助動詞と融合体を形成する。更にその後、この融合体全体が今度は CP の主要部である C へと移動しここで移動は完了し、(62) の文が派生する。ここで注意すべきは、否定詞と助動詞の両方が存在する時には、動詞の否定詞句への上昇は義務的であるということである。何故なら、もしそうでないとすると、次の様な非文を生成することになるからである。

(64) * Tidak akan bolehkah dia pergi ke sekolah ?

もし上記の場合とは異なり、否定詞のみが存在する時には、動詞の否定詞句への上昇は義務的ではない。このことは、次の様な文が可能であることから分かる。

(65) Tidakkah dia pergi ke sekolah semalam ?

又、次の様な文は非文であるが、これらの文が容認されないのは、他動詞が移動することによって取り残された他動詞の目的語に格を付与することが不可能になるという格理論からの制約の面から説明がつくと思われる。

(66) * Tidak membasuhkah Aminah pinggan itu ?

(67) * Sudah membacakah Ahmad buku itu ?

このことは、次の様な両文を比較すれば更に明確になる。

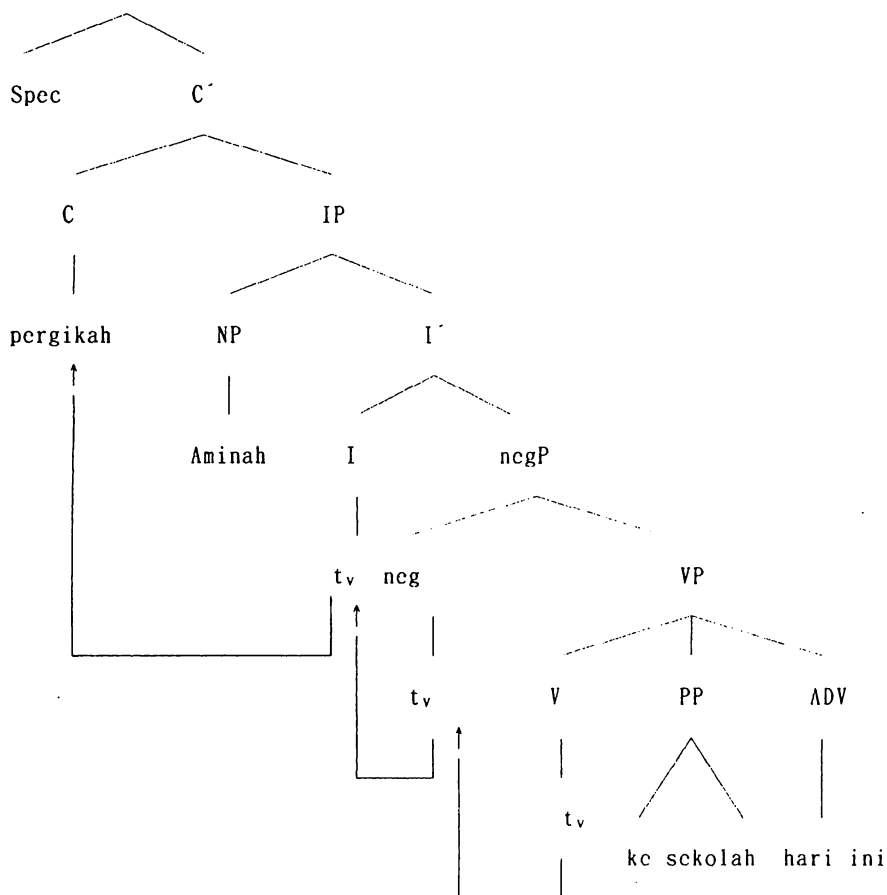
(68) * Membalingkah awak batu kepada Ahmad ?

(69) Pergikah Aminah ke sekolah hari ini ?

他動詞を移動させた(68)は非文であるが、自動詞を移動させた(69)の方は認められる形である。尚、言うまでもないことであるが、(69)の様に動詞を文頭に移動させる疑問文の生成にあたっては、自動詞は「主要部移動制約」

(head movement constraint)に抵触しないように移動をしなければならないから、自動詞は次に示す如く、異なる範疇の主要部を伝いながら最終的にCに辿りつくというプロセスを踏むことになる。

(70) CP



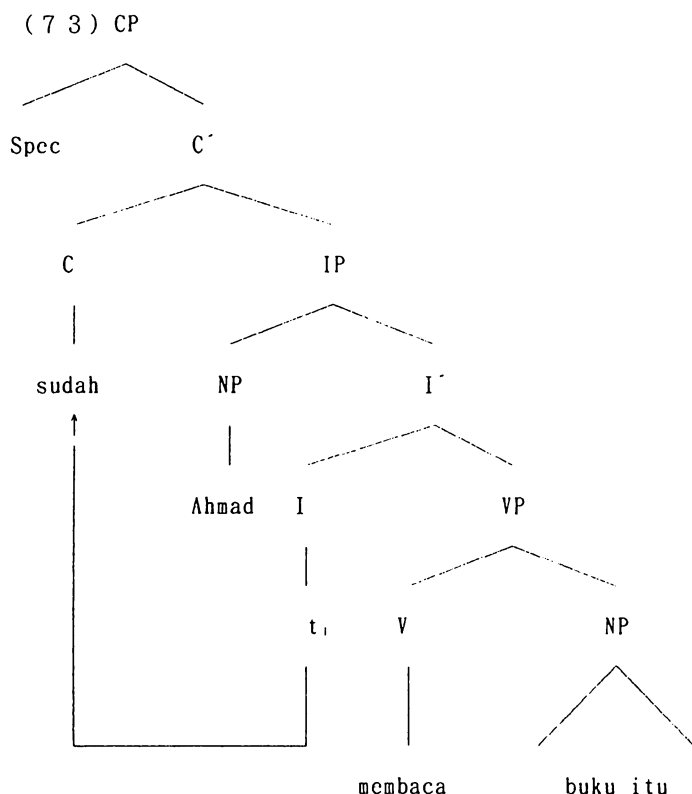
3. 4. 人称形とI-movement

m e - 接頭辞を取る動詞は、次の両例によって分かる様に、助動詞 (sudah) が主語の前にも後にも現れることができる。

(71) Ahmad sudah membaca buku itu.

(72) Sudah Ahmad membaca buku itu.

(72) の文は助動詞 (sudah) が上位の主要部である C に移動することによって派生したと考えられる。今、この派生のプロセスを図示すれば、(73) の如くである。



人称形が現れる文では、人称接辞と語根との結合が堅いので、助動詞をこれらの間に挟む(74)の様な形は標準マレーシア語では認められていない。

(74) * Ku/Aku sudah baca buku itu.

従って、助動詞は次の様に動作主、即ち人称接辞の前に位置することになる。

(75) Sudah kubaca buku itu.

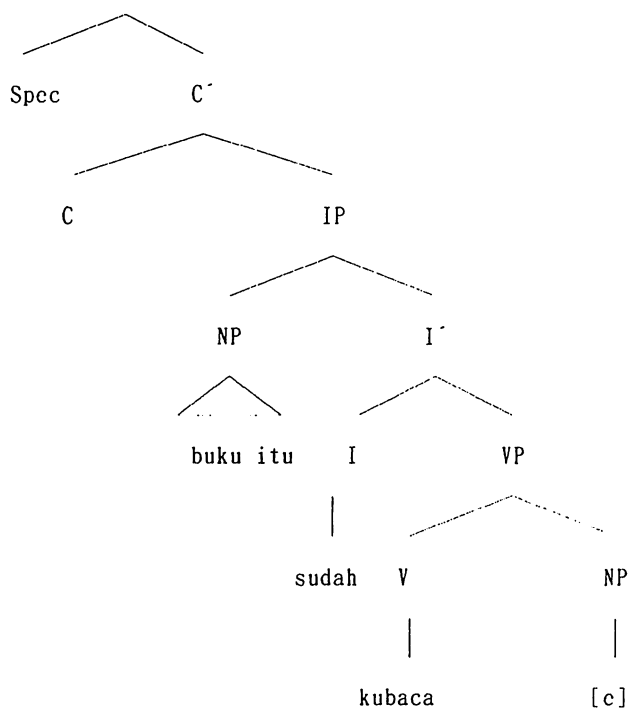
この様な動詞が被動者に先行する構文とは別に、人称形動詞は、被動者を焦点化して、動詞の前に置く(76)の様な構文が可能である。しかし、この焦点化された被動者の前に助動詞が現れる(77)の様な形は認められない形である。

(76) Buku itu sudah kubaca.

(77) * Sudah buku itu kubaca.

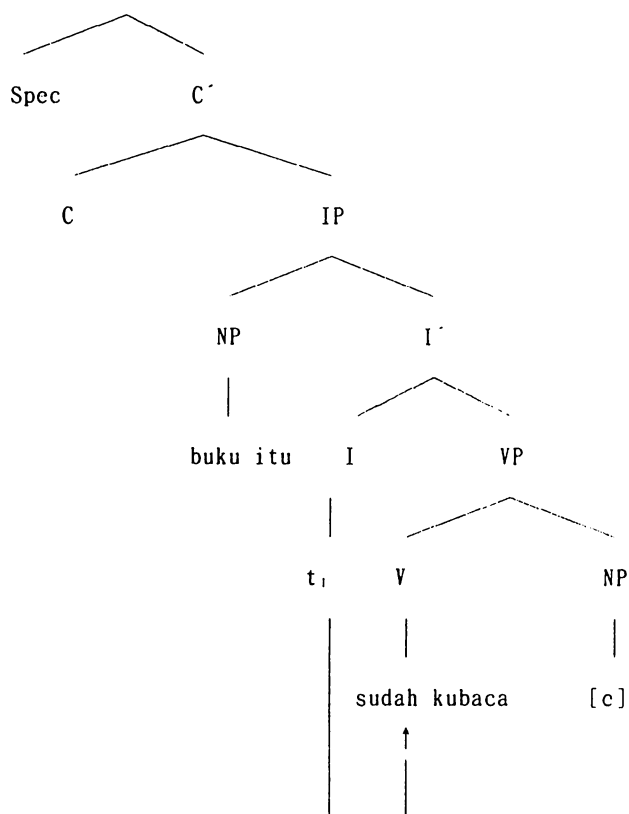
もし、(76)が(78)で図示される様な構造であると仮定すれば、ここで I N L 節点の下に現れている助動詞の sudah を上位の主要部である C の位置に移動させるのを阻む理由はないように思われる。

(78) CP



そうすると、(77)を排除する仕組みが必要になってくる。この問題を解決するには、(76)の構造が(78)のようになっているのではなくて、助動詞が屈折要素繰り下げ (I-lowering) によってV節点に移動してVと融合している(79)の様な構造を成していると考えれば解決される。

(79) CP



図(79)に於いて、助動詞`sudah`が移動した後に残された痕跡(t_i)は、LF部門でECP違反を回避するために、LFで元の位置へと上昇が起こると考えられる。この様に、(76)の構造が(78)ではなく、(79)であると考えれば、一度屈折要素繰り下げによりV節点に降りてきた助動詞が、LF部門での上昇操作を除いて、再び統語部門で逆の移動を行うことはできないので、(77)の文の非文法性は特別にこれを阻止するためだけの規則を設定せずとも説明がつくことになる。

3. 5. 助動詞類の特徴

これまで観てきた様に、INFL節点の下に出現する助動詞類は、その位置を移動させても意味に違いを生じないことが分かった。`me`-動詞の場合であれば、次の様に、主語の前後に現れることができる。

(80) `Dia sudah membaca buku itu.`

(81) Sudah dia membaca buku itu.

人称形の場合には、助動詞と動詞との位置関係は一定だが、被動者を焦点化して動詞の前に移動させても、文意に変更を来すことはない。つまり、次の両文の意味は変わらないのである。

(82) Berjaya ditangkapnya banduan itu.

(83) Banduan itu berjaya ditangkapnya.

terpaksaという語に就いても同様のことが言える。berjaya と同様、この語が現れる次の一組の文の意味に違いはない。

(84) Terpaksa dibebaskannya banduan itu.

(85) Banduan itu terpaksa dibebaskannya.

同じことは、me-動詞に就いても当て嵌まる。terpaksaが主語を軸として移動しても、文意に変更を来すことはない。次例を参照されたい。

(86) Polis itu terpaksa membebaskan banduan itu.

(87) Terpaksa polis membebaskan banduan itu.

これに対して、pandaiという語は次の例が示す様に、その位置を移動させると、意味を成さない文を生じさせることになる。

(88) Dia pandai memasak gulai kambing.

(89) *Pandai dia memasak gulai kambing.

terpaksaやberjaya とは違い、pandaiを人称形と一緒に使うことはできない。次例を参照されたい。

(90) *Pandai dimasaknya gulai kambing.

(91) *Gulai kambing (itu) pandai dimasaknya.

このことから、terpaksa, berjayaは他の助動詞が有する特徴を共有しているので、助動詞類に入る語であると見做せる。一方、pandaiはterpaksaやberjaya とは異なり他の助動詞類とは異なる振る舞いをするので、助動詞類には入らないと考えられる。

4. 結語

これまで観てきた様に、マレーシア語には、英語の定形節、不定形節の区別は存在しない。しかし、マレーシア語にはそれに替わるものとして、アスペクト節、非アスペクト節の区別が存在することが分かった。これに就いては、Ramli Haji Salleh(1990)でも同様の主張がなされている。Ramli Haji Sallehは、節中にアスペクトを表す助動詞(telah, sudah, akan, belum, pernah の類い)が出現可能かどうかを基準にして、節に二種類の区別ができると主張している。Ramli Haji Salleh による二種類の節の区別は次の様である。

A) アスペクト節 : b a h a w a

B) 非アスペクト節 : s u p a y a , b a g i

Ramli Haji Salleh が挙げている b a g i の例は次の様なものである。

(92) * Bagi John untuk akan pergi adalah susah.

Ramli Haji Salleh は、この文が認容されないのは、非アスペクト節である bagi 節の中に、アスペクトを表す助動詞である akan が現れているからであると主張している。Ramli Haji Salleh は挙げているが、agar も非アスペクト節の補文子であると言える。そして、supaya と同様にして、節中に法助動詞は現れるが、相助動詞は現れない。次例を参照されたい。

(93) * Abrahah bersetuju agar Umar akan menjaga kaabah itu.

(94) Abrahah berkata agar Umar mesti menjaga kaabah itu.

untuk は bagi を伴わずに現れることもあり、多くの場合は、次の様に、節中の主語は顕現しない。

(95) Kami datang berlima untuk menentang kekuatan tuan hamba.

(Drama Klasik Untuk Tahun 4, PP.19-20)

しかし乍ら、次の様に、untuk 節中に主語が出現することもある。

(96) Minta sedikit air Minah untuk Tok Nujum menilik nasib kita
hari ini. (Drama Klasik Untuk Tahun 4, P.7)

untuk 節内には、次の様に人称形も現れる。この場合、(97)、(98)の様に、被動者が動詞の後に置かれる形も、(99)の様に、被動者が動詞の前に置かれる形も両方出現する。

(97) Bukankah seekor pelanduk sedang menunggu untuk dibuat gulai
hari ini. (Drama Klasik Untuk Tahun 4, P.7)

(98) Kalau begitu cuba kau minta satu hidangan makanan yang istimewa untuk kita makan.

(99) Sekarang sampailah masanya untuk kau kumakan.

(Drama Klasik Untuk Tahun 4, P.10)

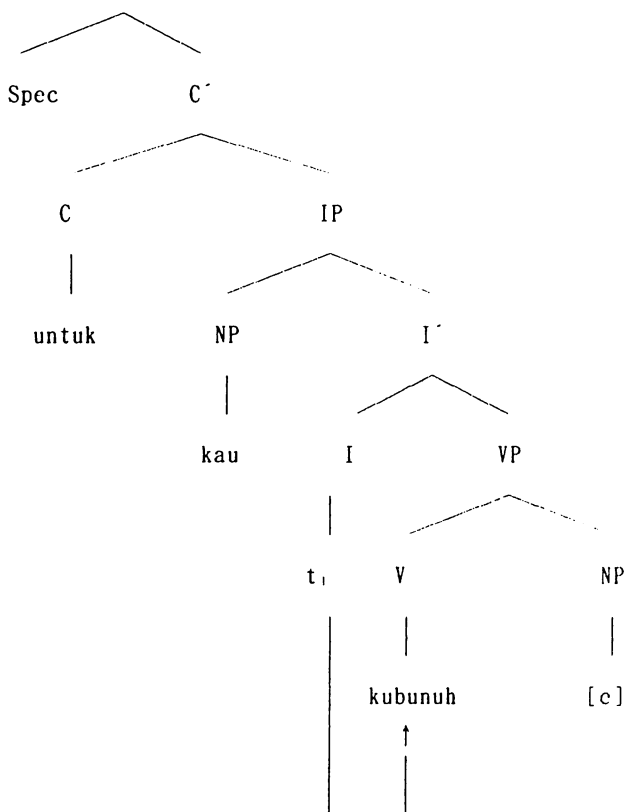
untuk 節には、相助動詞は出現しないので、I N F L 節点内のアスペクト素性が、m e - 動詞の主語や、人称形の前置した被動者に格付与を行っているということとはできない。マレーシア語は、動詞の形が主語と一致を示すということはないので、英語の場合の様な A G R (呼応要素) を I N F L の中に想定する訳にはいかないが、I N F L 中の何らかの素性が m e - 動詞の主格付与に関わっていると考えざるをえない。今この m e - 動詞の主格付与に関わる素性を Subject Case Assigner (以後 S C A と略記) と呼ぶことにすると、次の様な相助動詞が現れな

い場合であっても、INFL中のSCA素性が主格を付与することができる。

(100) Dia membeli buku itu scalam.

ここで問題となるのは、(99)の様なuntuk 節中の文頭要素、即ち“kau”に如何にして格を付与するのかということである。前に人称形構文では屈折要素繰り下げ(I-lowering)が生じていると仮定した。この前提に基づけば、“untuk kau kubunuh”のS構造は次の様であると考えられる。

(101) CP



この図から分かる様に、SCAを含むと仮定したINFLは繰り下げによって、動詞と融合しているので、もはやこの位置からkauを統率することはできない。INFLの主格付与能力は、接語代名詞のku-に吸収されたので、従って、kauに主格を付与することはもはやできないと考えられる。もし、untuk節が次の様であれば、人称形Vは直後の名詞句であるkauを統率しているので、格（おそらく能格）を付与できる。

(102) . . . untuk kubunuh kau.

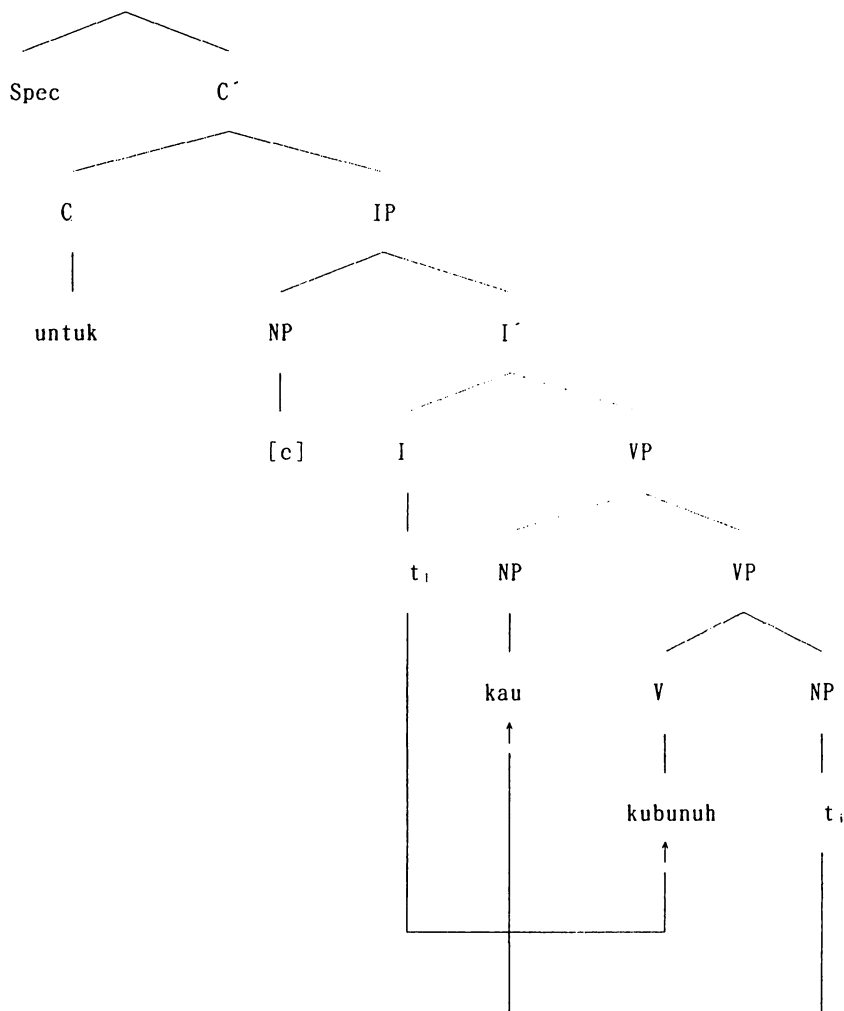
しかし、(101)の様に、kau が I P の指定部 (specifier) に位置していると考え、この位置は I N F L によって統率されていないので、主格は付与されないと考えなければならない。それと同時に、主格は接語代名詞の ku- に吸収されているので、再度 kau に主格を付与するというのは明らかに矛盾である。又、人称形は 1) 被動者が動詞の前にも後ろにも自由に現れ得る、2) 動作主が接語代名詞の形で現れるか、そうではなくても主語代名詞と動詞の語根との間に他の如何なる要素も介在させることができないという点に於いて、m e - 形動詞とは差異を示す。正保勇 (1991) で主張した様に、人称形構文が、m e - 形動詞とは異なり、能格構文であるとする、被動者である kau には主格ではなく、絶対格が付与されることになる。(102)の様に、人称形動詞が、kau を統率する位置にあれば、この kau に絶対格を付与することに何ら問題は生じないが。しかし、(101)の様な位置を kau が占めている場合には、先程も述べた如く、この位置に格を付与することはできない。動詞の右の位置からの格の搬送という手段も可能性としてはあるが、「 θ 基準」の面からも問題が生じることは、正保勇 (1991) で述べた通りである。そうすると、前置した被動者 kau に格を付与する手立てとしては、動詞の後の位置から V P への付加が考えられる。付加に関しては Chom-sky (1986) で述べられている次のような原則がある。

(103) 付加は、非項 (nonargument) である最大投射 (maximal projection) (即ち X'') に対してのみ可能である。

この原則から、項である N P や C P への付加は禁じられるが、V P は項となることはない、V P への付加はこの原則に抵触することはない。又、V P 中の N P 痕跡 (kau が移動したことによって生じた痕跡) は、次の (104) の樹系図が示す如く、V P の断片だけを越えているので、V P が障壁になることはない。

I P も独自に障壁になることはない、結局この移動は二つの障壁を越えてはいないので、「移動の際には二つ以上の障壁を越えてはならない」という下接の条件に抵触することもない。

(104) CP



参考文献

安藤貞雄，小野隆啓(1992). 『生成文法用語辞典』. 東京：大修館書店.

Chomsky, N. (1986). Barriers. Cambridge, Mass.: MIT Press.

Emonds, J. E. (1976). A Transformational Approach to English Syntax: Root Structure-Preserving, and Local Transformations. New York: Academic Press.

- Gan Kok Siong(1991). Kata kerja Bantu dalam Sintaksis Bahasa Malaysia.
Kuala Lumpur:Dewan Bhasa dan Pustaka.
- 原口庄輔, 中村捷(1992). 『チョムスキー理論辞典』. 東京: 研究社出版.
- 野地美幸(1990). 「A G RとVerbal Inflections」平河内健治 (編) 『生成文法の方位』. 東京: 松柏社.
- Pollock, J. Y.(1989). "Verb Movement ,UG and the Structure of IP".
in Linguistic Inquiry 20:365-424.
- Ramli Haji Salleh(1989). Fronted Constituents in Malay:Base Structures and Move Alpha in a Configurational Non-Indo-European Language. Kuala Lumpur:Dewan Bahasa dan Pustaka.
- (1990). "Nodus Infleksi Dalam Bahasa Melayu". in Jurnal Dewan Bahasa May 1990. Kuala Lumpur:Dewan Bahasa dan Pustaka.
- 正保勇(1991). 「マレーシア語の受動構文」『言語研究 I 』. 東京外国語大学語学研究所.

引用文献

- Jamalludin Othman(1990). Drama Klasik Untuk Tahun 4. Kuala Lumpur: Buku Must SDN. BHD.
- Koh Koon Tean(1993). 101 Muslihat Jilid 1. Kuala Lumpur:Edusystem SDN. BHD.

0. 従来のロシア語動詞の体（一般言語学的にはアспект）の研究は、いかにして多様な意味を盛り込んだ簡潔な体の規定を見いだすかをその目的としてきた。しかし、現在、そのような体の研究は、大幅な再検討が迫られ、新しい試みがなされつつある。

それについて我々はかつて触れるところがあった〔1〕ので、詳細については割愛し、以下に現在の研究の状況についての概略のみを述べよう。

1960年代までの研究は、一般に二項対立の原理と全一性の特徴をよりどころとするマスロフ、イサチェンコなどに代表されるブラハ学派系の研究者に対して、限界性 предельность の概念をよりどころとするヴィノグラードフの伝統に連なるソ連の研究者がいる、という図式になろう。

その中でボンダルコは、一応マスロフ、イサチェンコに連なるとされながらも、体の本質規定や接近法において両者とニュアンスを異にする。

マスロフ、イサチェンコらが、体を形態論の枠内で捉え、純粹に抽象的な理論モデルを構築しようとするのに対して、ボンダルコはより具体的な現実、文脈に対して適応力のあるものとして体を捉えようとする。そこで形態論のカテゴリーとしての体・時制に対して、アспект表現 аспектuality・時間表現 темпоральность という機能・意味のカテゴリー функционально-семантические категории を定立する。体はアспект表現の一部として捉えられている。

ここで興味深いのは、ソ連の研究の趨勢が体の規定に関する限りボンダルコの方向に向かっていることである。

アカデミヤ文法の記述を通してそれを示すならば、限界 предел の意味（70年版）から 限界によって限定された全一的動作（80年版）という限界と全一性の概念の折衷的概念への移行が行われたのである。

ところが近年意味に対する研究の進展にともない、このような体の研究方向に対する批判が生まれた。その代表的なものがグロヴィーンスカヤで、従来の規定すべてに矛盾が含まれていると指摘して、研究方法を示差的特徴などの特徴に基づくものから真に意味論に基づく方法にすべきであること、また体の不変的な意味の探求の前に個別的な意味を研究すべきであると指摘している〔2〕。

現在、体の研究者は、動詞の意味分類、体の対（ペア）など諸々の問題に取

り組んでいるが、つまるところ、研究は体の本質規定に対する見直し〔3〕、個別的な意味の再検討の問題に帰着するといえよう。

これが研究の現段階である。

1. ところで、上で個別的な意味と述べたが、一般に完了体、不完了体の意味には、抽象度の高い順に、一般的意味、個別意味、最後に意味・ニュアンスという3階層の意味が考えられる。

理論的には、研究は具体的な発話の個々の例から個別的な意味を抽出し、その個別的な意味をさらに抽象して、一般的な意味を得ることになる。またこうして得られた一般的な意味が、具体的な発話の状況におかれたときに現れるバリエーション的な意味が個別的な意味にほかならないのであるから、一般的な意味が抽出されてからは個別的な意味を矛盾なく導く具体的な状況の検証に向かうことになる。

ではまずこれから必要になる完了体の個別意味だけを、ラッスードヴァにならないマスロフ〔1〕の例で示そう。

1. конкретно-фактическое значение 具体的な事実の意味

Он повторил мне свой вопрос.

彼は私に質問を繰り返してくれた。

2. суммарное значение 一括化の意味

Он несколько раз повторил свой вопрос.

彼は数回自分の質問を繰り返した。

3. наглядно-примерное значение 例示的な意味

Если вы не поймете мое объяснение, я всегда могу повторить его вам.

もしも私の説明がお分かりにならないような場合には、私はいつでもあなたにそれを繰り返してあげましょう。

このうち、いうまでもなく、中心的な意味は1番の具体的事実の意味で、それ以外の意味はこの具体的事実の意味のバリエーションとされる。したがって、3番の例示的な意味は完了体の動詞の全形態に及ぶものではなく、数々の制限がある。

ではつぎに例示的な意味の定義、その現われの制限ないしは条件を見ていこう。

2. 例示的な用法・意味はロシア語では一見すると例外的な用法に感ずる。

反復の動作においてすら、完了体と不完了体との相違を明らかにできる西スラブ諸語とは異なり〔4〕、ロシア語においては完了体で表現された単一の動作が、一度反復されるや、一般に不完了体によって表現されるようになる。反復では圧

倒的に不完了体の頻度が高いからだ。しかし、完了体もある特定の場合には用いられる。それが一括化の意味と例示的な意味である。

その定義は研究者によって大同小異なので、いまは、シヴェードヴァのものを挙げよう。

「反復動作は特別な方法で提示しうる。多くのエピソードのうちの一つが他の、それと類似のものについて鮮明なイメージを与える例として選出される」[2, 94]

つぎに例示的な意味の現われる条件を見ていこう。ラッスードヴァが興味深い例を挙げている[3, 84]。

下の1)から5)は、文が完了体の具体的な事実の意味から例示的な機能 функцииへ移行する様を表している。ラッスードヴァを要約すると、

1) Обратитесь к моему брату, он вам поможет.

1)は具体的な一回の動作を表している。

2) Обратитесь к моему брату, он вам всегда поможет.

2)では補足的な意味ニュアンスを指摘しにくい。不完了体を用いた он вам всегда будет помогать.とは同じでない。完了体の方は、全一的な反復動作を表す(過去時制ではこれはありえない)のに対して、不完了体の方は結果の意味があいまいになるからである。

3) Если вам понадобится, обратитесь к моему брату, он вам поможет.

3)は完了体に典型的な文脈である。もし必要がある場合にはいつでもという反復動作でも、具体的な一回動作でも構わない。完了体は全一的な動作を名指し、文脈がその意味内容をはっきりさせる。

4) Он очень добрый человек, он вам всегда поможет.

4)と5)とは、文脈の影響で完了体の形態の時間的な内容が拡大して、叙法的(法的 modal)な意味(可能性の意味)・彩りが現われている。

5) Он каждому поможет.

ちなみに、ラッスードヴァの例示的な意味の定義は「反復されたり、通常の、日常的な обычное動作が具体的な例で提示される」[3, 85]となる。

例示的な意味の現われる機構については、彼女は、下のように説明する。

過去時制においては、不完了体は、過程の観念が排除されるところでは、反復を示した。それ以外の場合には、動詞以外のものが反復を表せば、動作の反復は一般的な事実の意味の不完了体が表した。一般的な事実の意味は全一性の観念を許容するので、全一性的な反復も不完了体が表す。

未来時制でも事情は同じある。過程の意味が排除されるところでは、不完了体が反復を示す。ただ未来時制においては一般的な事実の意味は制限され、意図という法的な意味が補足的に付随しやすい。そこで全一的、限界的な動作の反復を示すさいに完了体が広く用いられる。〔3, 84-85〕

これを図示すると下のようになる。

過去時制

不完了体	過程の意味	→ 非反復
	過程の観念が排除	→ 反復
	一般的な事実の意味	反復の非動詞的な指標なし
	一般的な事実の意味→動作の反復	反復を表す非動詞的な指標
完了体	はこのようなときには例外的〔3, 86〕で下の場合が唯一である。	

Он никогда не выбросил ни одной нужной бумаги.

通常の、習慣的な性質 обычное свойство

不完了体 - 動作は実際に生じている

完了体 - 実現の可能性を話し手が確信している。

未来時制

不完了体	過程の観念が排除	→ 反復
	一般的な事実の意味制限	(意図)の意味と結合多し
完了体	→ 反復	全一的、限界的な動作の反復

以上が ラッスードヴァの説明である。彼女以外には、我々の知るかぎりにおいて、合理的な説明をしていない。

ここから完了体を反復の意味で用いる条件があることがわかるが、その条件とは一体どんなものであろうか。

文脈との関係で例示の意味は、体の意味ではなく文脈の持つ意味ではないかという疑問が生ずるかも知れないが、文脈の意味ではないとラッスードヴァは言う。もしも文脈の持つ意味だとするならば、同一文脈では完了体、不完了体のいずれを用いても例示の意味になるはずであるが、以下にみるように事実是这样でないからである〔5〕。

Если вы хотите, я могу объяснять вам грамматику на вашем родном языке.

お望みなら文法をあなたの母語で説明してあげますよ。

Если вы не поймете мое объяснение по-русски, я всегда могу объяснить то же самое на вашем родном языке.

かりに私の説明がロシア語でお分かりにならないような場合には、いつでも

全く同じことをあなたの母語で説明してあげますよ。

不完了体を用いた場合には、動作の恒常的・規則的反復の意味が表わされるが、完了体の場合には、潜在的には生ずる可能性がありながらも、ある一定の条件・場合がなければ起こらない、逆に言うならばその要件を満たせば必ず起こりうるような、偶発的な可能性に基づく反復の意味が表現される。

3. 従来、多くの研究者が例示的な用法の現われる条件を挙げているが、断片的なのでそれを整理していこう。例や条件はラッスードヴァ [3,85]、ロバーノヴァ [4,169-171] シヴェードヴァ [2,96] を中心にして、他の研究に述べられているものも現段階で可能な限り拾っていく。

例示的な意味の現われる条件

1) 語彙

動詞、副詞、状況語: нет-нет да и, (вдругがついていることが多い)、

того и жди, того и гляди, всегда, вечно, иногда, никогда, порой, иной раз, время от времени, изредка, случаться, бывать: разве что: бывало: каждый

Кругом безлюдье. Разве что случайный прохожий появится на дороге.

Бывает, что в самую неподходящую минуту забудешь все нужные слова.

Брат хорошо знает математику и решит любую задачу.

Он упрямый. Никогда никому не уступит.

С ней трудно иметь дело. Она вечно обижается. Да, действительно: того и жди обидится.

ここで示唆に富むのは、ラッスードヴァ、ロバーノヴァ [4,169-171] が不規則的な反復の意味を示すものという注をつけていることである [3,85]。

2) 文脈 - 先行・後続の関係にあるか、(短時間で) 交代する 2つ以上の動作

то~, то~, разве что

結果のニュアンスを持つ文、接続詞 иを用いて列挙する文、その他

Попросишь его - он всё сделает. 頼めば - 彼はただちにすべてをやってく
[3,86] れます。

Чуть объяснишь - она все сразу поймет. ちょっと説明すれば、彼女はたち
[3,86] どころにすべてを理解します。

3)ある人と、ものの動作の習慣的な、典型的 обычное,типичноеな動作

всегдаと普遍人称文によって、一般的な性質が強調されることもある。

Он в игре не участвовал, но любил смотреть, как играют другие:
встанет рядом и не отходит.

Она хорошая хозяйка. Всегда угостит чем-нибудь вкусным.

4)完了体現在・未来形は長引く動作を背景にした短時間の動作の伝達、反復動作の順序を示すとき、不完了体現在あるいは過去形としばしば結び付く。

Изредко сани наедут на молодую елку, темный предмет оцарапает руки то-
каря, мелькнет перед его глазами, и поле зрения опять становится
белым(А.Чехов) [3,86] [6]

5)動作は過去ないしは現在時制に関係する。

6)不定形の場合

- уметь、любить、нравиться、случаться：способен：умение、желание、манера、привычка、право、лень、способность：любительなどは、語彙にすでに反復の意味が含まれており、それ以上余分な文脈はいらない [2,97-98]
- 完了体の動詞は、時々 время от времени, от случая к случаю 現われる主体の特徴、特質、本性 свойство を名付ける。

Он любит погулять вечером. 不意に、時々現われる特徴・傾向

Он любит гулять вечером. 主体の恒常的な特徴

限定持続の意味を保つ 接頭辞 -по があることが多い、これは語結合に
смягчающий характер を付与する

Он любит побыть в тишине. Моя подруга любит поболтать.

さて、例示的な用法は、ジャンルとしては文学作品、会話に現われるが、例示的な用法の完了体を不完了体に変えても基本的な意味は変わらない。ただ文体的な彩り、つまり鮮明さ、ダイナミックさ、表現力などが失われるだけである。

a) Она хорошая хозяйка. Всегда угостит чем-нибудь вкусным.

彼女はよくできた主婦です。いつだって何かしらおいしいものを御馳走してくれる（可能性が高い）

b) Она хорошая хозяйка: всегда угощает чем-нибудь вкусным.

彼女はよくできた主婦です。いつだって何かしらおいしいものを御馳走してくれるんです（現実に行っている）

a)では実現の可能性を話し手が確信しているだけであるが、b)では、動作は

実際に生じている

а) Он любит погулять вечером. かれは晩にちょっと散歩するのが好きだ。

б) Он любит гулять веером. かれは晩に散歩するのが好きだ。

а) 不意に、時々現われる潜在的な主体の可能性、傾向を表すのに対して、

б) では、主体の恒常的な特徴を表している。

他に、ロバーノヴァら [4,169-171] は、完了体未来形によって表される意味として不可能な動作

Ребенок этого не поймет: зачем вы ему это говорите?

や、可能性のある動作を挙げている。

Как нехорошо получилось. Скажут, что мы сделали это нарочно

まずいことになってしまった。ぼくたちがそれをわざとしたと言われるかも知れない。

以上見てくると、具体的な事実の意味以外のすべてが例示的な用法とされるという感じを受ける。また上に挙げた例のそれぞれが截然と区別されるものか否かという疑問も生じるのである。

それに今まで我々は無前提に、多回性、反復性、習慣性、日常性などという言葉を用いてきたが、例示的な意味の分析に移る前に、いまロシア語の動詞との関連で動作の多回性、反復性とは何かを考えてみなければならない。

完了体による反復の意味は、同じ反復といっても、不完了体による反復の意味、たとえば、下のものとは異なるのである。

Он открывал окна несколько раз в день, потому что любил свежий воздух.

彼は一日に数回窓を開けた、すがすがしい空気を好んだので。

ここでは、動作は現実には反復されている。時制を変えて、現在（未来）形にした場合でも、完了体による反復は時間的な定位性のない反復であり、そこに確信、推測などの法的な意味が入る可能性がある。

а) Она хорошая хозяйка. Всегда угостит чем-нибудь вкусным.

彼女はよくできた主婦です。いつだって何かしらおいしいものを御馳走してくれる。

б) Она хорошая хозяйка: всегда угощает чем-нибудь вкусным.

彼女はよくできた主婦です。いつだって何かしらおいしいものを御馳走してくれるんです。

а) の完了体では可能性が高い動作が述べられているが、б) の不完了体の文では動作は現実に行なわれている。

ここで我々は、完了体による反復は時間的な定位性のない反復であり、不完了体によるものはそれ以外と規定できる。しかし、それは実際の言語活動では、いかなる機能を果たすのであろうか。

そもそも一般に動作の反復の意味には周期的な反復、通常（習慣的な）の反復、継続的な反復、高頻度の反復、低頻度の反復、偶（散）発的な反復、ゼロ回の反復、さらに文脈によるものがあるとされている[5,53-54]。

近年これらの問題に関して、より言語事実に即した方法と思える研究がなされてきている。それがグロヴィーンスカヤと例のレイノネンの研究である。

4. グロヴィーンスカヤ[5]は、一般に音韻論に始まる手法、つまり「全一性」なり「限界の意味」といった特徴をメタ言語として体を記述する方法を否定し、動詞の語義解釈から体の意味に接近しようとした[5,28]。この方を本格的に採用したのはヴェジェヴィツカ[7,2231-2249]で、これは、下のような記述で体のペアの意味分析を行なうものである。

Ян умер. = Ян перестал жить.

Ян умирал. = Ян последовательно проходил состояния такого ряда состояний, что если бы он прошел все состояния этого ряда состояний, то умер бы.

それに対してレイノネン[6,117]は scenario structures シナリオ構造を援用して、反復の意味、散発的反復などを分析しようとする。シナリオ構造とは、先行の出来事が明記されない implication 伴立に基づく構造である。ここには、先行の出来事は明記されないが、その出来事が起こる任意の場合について述べる広い量詞表現 a universally quantified expression があり、後続の出来事もそのようなすべての場合におけると想定される構造をいう。

She kills beetles. という文は下のようなシナリオ構造を持つのである。

$\forall t \forall x$ (she performs act x at $t \supset x$ is an act of killing a beetle)

Every time she does something (for a hobby), it is to kill a beetle.

このシナリオ構造を用いることにより、反復と叙想法、反復と総称表現 generics、抽象と具象、反復と配分などの問題を分析していく[7]。

ヴェジェヴィツカとレイノネンの方法がいかなる関係にあるか、またどの程度のこの方法の限界については検討の余地がある、しかし、截然としなかった例示の意味・用法の分析に有効性を発揮する可能性があることは見て取れる。

これらの分析の有効性についての検討は今後の課題としたい。

注

※〔〕は注を、〔〕は文献を示す。括弧内の初めの数字は、注、文献の番号を、後ろの数字はその注、文献に挙げられた参考文献のページをさす。

(拙稿は研究ノートないし資料紹介の性質を持つものである。)

1. 特に、拙論「完了体のいわゆる例示の意味によせて(1)」『ロシア語研究

№1』1988年。これとは別に以下もある。

拙論「完了体の例示的な意味と普遍的な意味の問題によせて」『ロシア語研究
№6』1993年。

拙論「現代ロシア語における動詞完了体による反復性と例示の意味の表現の問題によせて」『東京外国語大学論集 48』1994年。

2. 特に、〔5,7〕を参照。

3. そもそも不変的な意味について言うならば、その存在に否定的な態度を取る研究者と肯定的な態度を取る研究者、のみならず、従来立てられた不変的な意味の定義を、同一対象に体する異なった側面から見ているに過ぎないとして、ことごとく正しいと認める意見すらでている。

Шатуновский И.Б. Семантика вида: к проблеме ниварианта.-в кн.:Русистика
сегодня.М.,1993.のp59参照。

4. スラヴ諸語における動作の反復性を概括した Mønnesland S.〔8,54〕は説明をほとんどしていないが、下表を挙げている。

		-全一的		+	全一的	
	-反復		1...--...		2	o
	+	反復		3...---...		4 ...ooo.

原語は それぞれ、-total非全一的見方 + total全一的見方

-iterative非反復 + iterative 反復である。

Mønnesland自身、この区分が大雑把であると断りをつけている。

5. Бондарко〔9,56-57〕(とそれを引用したマスロフ)は、不完了体の動詞にもこの用法があると述べている。

Бондарко А.в., Буланин Л.Л. Русский глагол. Л.,1967.стр.609.

Маслов Ю.С. Очерки по аспектологии.Л.,1984.стр.81.

6. 上述の拙論「現代ロシア語における動詞完了体による反復性と例示の意味の表現の問題によせて」で、この場合の例示的な用法・意味は時間的な側面から、他の場合と区別されるべきことを述べた。

7. 拙論「完了体の例示的な意味と普遍的な意味の問題によせて」『ロシア語研究 Ⅲ6.』1993年。「現代ロシア語における動詞完了体による反復性と例示的意味の表現の問題によせて」『東京外国語大学論集 48』1994年。では、Comrie [9, 2-9] の時間軸を援用して我々も Leinonen に近い考えに到達している。

文献

1. Маслов Ю.С. Глагольный вид в современном болгарском литературном языке.- В сб.: Вопросы грамматики болгарского литературного языка. М., 1959.
2. Шведова Л.Н., Трофимова Т.Г., Пособие по употреблению видов глагола для работы с филологами-русистами. М., 1987.
3. Рассудова О.П. Употребление видов глагола в современном русском языке. М., 1982.
4. Лобанова Н.А., Слесарева И.П. Учебник русского языка для иностранных филологов. М. 1980.
5. Гловинская М.Я. Семантические типы видовых противопоставлений русского глагола. М., 1982.
6. Leinonen M. 1982. *Russian Aspect, "Temporal'naja Lokalizacija", and Definiteness/Indefiniteness*. Helsinki.
7. Wierzbicka A. 1967. *On the Semantics of the Verbal Aspect in Polish*. - In: To Honor Roman Jakobson. Essays on the Occasion of his Seventieth Birthday. Mouton, The Hague-Paris.
8. Monnesland S. 1984. *The Slavonic frequentative habitual : Aspect Bound A voyage into realm of Germanic, Slavonic and Finno-Ugrian aspectology*. Dordrecht.
9. Comrie, B. 1985. *Tense*. Cambridge University Press.

等位構造における 法助動詞の意味解釈について

馬場 彰

0. はじめに

生成理論研究において、英語の時制・法助動詞・相などの助動詞システムをめぐる議論は最初期から散発的に行われてはきたが、研究の前面に姿を現したのは1970年代後半である。ところが1980年代に入っていわゆるGB理論が登場すると、研究者の目が普遍文法を構成する原理や下位体系（たとえば、統率理論、束縛理論、格理論、境界理論、 θ 理論、制御理論など）の研究に専ら向けられるようになり、助動詞研究は一時的に停滞することになる。しかし、1980年代後半にいたってXバー理論が拡張され、I（時制・一致）やC（補文標識）などの機能範疇も主要部として句を構成できるという考えが導入され、さらには Chomsky (1991) や Pollock (1989) などが主張する Split Infl Systemの枠組みが採用されるにおよんで、助動詞システムの研究は普遍文法研究において最大のトピックの一つとなってしまったのである。

文の成分構造がXバー理論によって厳密に規定されるようになり、また、動詞句削除に代表される削除規則がPF（音形）部門に委ねられたり、LF（論理形式）部門で法助動詞の意味解釈が議論されることがなくなってきたことなどがわざわざいって、1970年代後半の議論において主要な話題となっていた問題点がかえって議論しにくくなったのも事実である。本稿では、当時の議論で未解決の問題点のいくつかを指摘して、多少の試案を提示してみたいとおもう。

1. 英語の等位構造においては、二番目の等位項の動詞句を、一番目の等位項の動詞句と同一であるという条件下で削除することが可能である。同一要素の削除を保証するためには、しばしば *too* や *as well* などの支えになる語や句を補うことが多く、次に示すようにそれらの支えがないと非文になってしまう場合すらある。

- (1) a. John left and Bill did _____ *(*too/as well*).
b. John is tall and Mary is _____ *(*too/as well*).
(Hornstein 1994: 469)

英語の時制・法助動詞・補助動詞の順序関係には厳しい制約が課されているが、「助動詞→時制＋（法助動詞）＋（完了相の補助動詞）＋（進行相の補助動詞）＋（受動の補助動詞）」（括弧内の要素は随意的要素）という助動詞要素の生成規則によって、理論的にはすべての助動詞連鎖が生成できることは周知の事実である。これらの助動詞要素を任意

に組み合わせて、かつ等位構造を作ると、次に示すようにさまざまな削除現象が観察できる。

(2) Those guys would have been working until six, and these guys

(a) would have been _____ too.

(b) would have _____ too.

(c) would _____ too.

(Baltin 1978: 173)

生成理論では、「文法規則は構成素に対してのみ適用される」という暗黙の合意があるので、当然のことながら、(2)の下線部分はそれぞれ構成素を成していると考えざるをえない。しかし、もし助動詞導入の規則が、「助動詞→時制+(法助動詞)+(完了相の補助動詞)+(進行相の補助動詞)+(受動の補助動詞)」という平板な規則であるならば、上の合意に基づく限り(2)の動詞句削除の現象を説明することが困難になる。そこで提案されたのが、助動詞の展開には時制と法助動詞のみを考え、他の補助動詞類はすべて動詞句の中の要素として取り扱い、かつ「動詞句→動詞+動詞句」という反復構造を生成する規則を提案することによって、各補助動詞が別々の最大投射(すなわち動詞句)に所属することを保証したのである。

ところが、以上の枠組みによってすらも説明できない現象が残ってしまった。

(3) Sam might have been at the scene of the murder, but Bill

(a) couldn't have been _____.

(b) couldn't have _____.

(c) *couldn't _____.

(Akmajian/Wasow 1975: 236)

(4) John must have been using drugs, and Bill

(a) must have been _____ too.

(b) must have _____ too.

(c) *must _____ too.

(Akmajian/Wasow 1975: 235)

(3. c)と(4. c)はともに、一般化された動詞句削除規則によって生成可能であるが、しかし、容認不可能とされている。これらの事実を説明するために動詞句削除規則そのものに制約を加える方法は、文法理論の一般性を弱めることにつながり、決して好ましい解決案とは言えないであろう。だからと言って、Sag (1976) のように「助動詞→時制+(法助動詞)+(完了相の補助動詞)」という具合に句構造規則に改変を加えてみても、疑問文の主語・助動詞倒置の現象ですらうまく説明できないのであるから、むしろ失うものが

多すぎる。この問題は、1970年代の代表的な助動詞研究である Emonds (1976)、Iwakura (1977)、Akmajian/Steele/Wasow (1979)、Arimura (1979) などでも取り扱えなかったし、1980年代のGB理論でもやはり取り扱えないであろう（と言うより、そもそもこのような問題は、GB理論の中ではまともに議論されていないのである）。ただ、馬場（1980）では、この問題について、DeCarrico (1980)の論考を紹介しながら解決の糸口を多少模索している。しかし、馬場（1980）では説明が不十分だった点がいくつもあるので、ここで再度取り上げてみることにしよう。

2. 法助動詞を含んだ等位構造において動詞句削除規則を適用すると、非文になる場合があることはすでに (3. c) と (4. c) で示したが、この現象に関して類例を示しながら、DeCarrico (1980) が面白い提案をしている。

(5) a. Modal Hierarchy:

	I (possibility)	II (probability)	III (certainty)
Modals	may might could	should ought to	must have to will

b. Definition of Semantic Contradiction:

Semantic Contradiction arises if a null VP is in the scope of a MH item A, and its antecedent is in the scope of a MH item B which is lower on MH than A.

- c. Leonard will leave and George will _____ too.
- d. Leonard will leave and George might _____ too.
- e. Leonard might leave and George might _____ too.
- f. *Leonard might leave and George will _____ too.
- g. Mary must have lost the marathon race and John must have _____ too.
- h. Mary must have lost the marathon race and John may have _____ too.
- i. Mary may have lost the marathon race and John may have _____ too.
- j. *Mary may have lost the marathon race and John must have _____ too.

(DeCarrico 1980: 6-17)

(5. f) と (5. j) は動詞句削除規則で生成できるはずであるが、両者とも非文とされている。DeCarrico は、各々の節の法助動詞の意味特徴に着目して、非文となる (5. f) と (5. j) の場合だけが、先行する節の法助動詞より後続する節の法助動詞の方が力が強い、つまり (5. a) に示す Modal Hierarchy においてより上位のクラスに属する、と主張した。

つまり、DeCarricoは、(5. f)と (5. j)を意味論的におかしいとして排除しているのである。この意味論的原理を、DeCarricoは (5. b)のように定式化している。また、DeCarricoの言う Modal Hierarchyとは、法助動詞のいわゆる 'epistemic' な用法の場合に見られる蓋然性のランキングを述べたものであることは明らかである。

Modal Hierarchyの尺度にしたがって実例を見てみると、たしかに、非文である (5. f)と (5. j)の場合だけが「低→高」の順序になっている。

- (5) c. III→III
- d. III→I
- e. I→I
- f. * I→III (「低→高」)
- g. III→III
- h. III→I
- i. I→I
- j. * I→III (「低→高」)

事実を正しく捉えている点では、有用な一般化と言うことができようが、しかし、そもそものランキングが「高→低」の順序だと許されて、その逆の「低→高」になると許されないのか、についての原理的考察は行われていない。ゆえに、このままでは、説明的原理のレベルに到達しているとは言えないであろう。

また、DeCarricoの挙げた (5. g-j)の等位構造の第二等位項の場合、must/mayのあとにhaveがあるので、通例は 'epistemic' と解釈されることも幸いしたようである。残念ながら、DeCarricoはそのことに気づいていない。しかも、(4. c)では、一見したところ、同じランキングのmustがともに用いられているので、許されるはずであるが、実際には非文である。

(3. c) については、どう対応できるであろうか。might/couldはともにランキングIであるが、couldn'tのように否定形になると、意味的にはむしろIIIの「確信性」に近くなるとも言えるので、結果的に「低→高」となってしまう、違反してしまうと考えられよう。しかし、それだったら、(3. a)も (3. b)も同様に排除されてしかるべきである。

要するに、DeCarricoの枠組みでは、1970年代後半に問題とされた言語事実を十分には説明できないのである。

それでは、馬場 (1980) では、たとえば (4. c)についてどう対処したであろうか。まず形式文法の立場から、動詞句削除については、定形節では条件を満たす限り自由に動詞句削除を適用してよい、と考える。さらに、完了相の補助動詞haveが存在する場合、意味解釈規則を適用すると通例 'epistemic' のmustの意味に解釈されるが、もしhaveまで削除されると、mustのようなIIIの「確信性」に属する法助動詞では、とくに 'root' の意味に解釈されやすいという傾向性があるのではなかろうか。その結果、(4. c)において、両等位項の法助動詞の意味上の不一致が生じてしまうのである。このことをもう少し一般化して述

べると、削除を含む等位構造においては、法助動詞は 'epistemic' は 'epistemic' 同士、'root' は 'root' 同士の組み合わせしか許されないような、認知上の制約がある、ということになるであろう。そして、それが保証されたあとで始めて、Modal Hierarchyに基づく意味論的チェックがなされるということになる。

3. 上で述べた認知上の制約について、一つのヒントになる考え方を紹介しておきたい。Lightfoot (1982)は、精神のモジュール構造を論じた際の実例として、次のようなおもしろい実例を示している。

- (6) a. John persuaded Mike to fix his bicycle.
b. John persuaded Mike to fix his bicycle and
Fred persuaded Bill to fix his bicycle.
(Lightfoot 1982: 44)

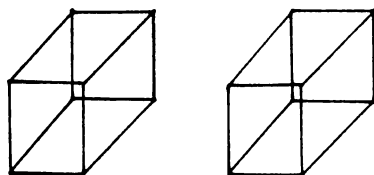
(6. a)において、代名詞 hisは、JohnとMikeのどちらも指しうる（つまり、同一指示的でありうる）が、(6. b)のように等位構造化すると、もし最初の hisが主語のJohnを指すと解釈したら、二番目の hisも主語のFredを指すと解釈される。逆に、最初の hisが目的語のMikeを指すと解釈したら、二番目の hisも目的語のBillを指すと解釈される。つまり、文法的には4通りの解釈の可能性があるにもかかわらず、意味解釈上は2通りしか許されないのである。これは、等位構造においては知覚の方略上の平行性が保持されねばならない、と言い換えてもよいであろう。Lightfootは、この原理がさらに次の場合にも働いていると考える。

- (7) a. John must do the shopping.
b. John must do the shopping and Sam must _____ too.
(Lightfoot 1982: 45)

すなわち、mustには 'epistemic' と 'root' の意味があって、(7. a)では2通りの解釈が可能であるが、(7. b)のように等位構造化になると、前者が 'epistemic' であれば、後者も 'epistemic'、前者が 'root' であれば、後者も 'root' の解釈になる。ここでも、解釈上は4通りの可能性があるにもかかわらず、現実には2通りの解釈しか許されない、ということが生じている。

そこで Lightfootは、文法のモジュールをできる限り簡潔で一般性の高いものとどめながら、他方、知覚の方略という認知上のモジュールを立てて、以上に示したような解釈上の役割を担わせよう、と提案したのである。そして、そのような認知上の傾向性の裏付けとして 'Necker Cubes' の考え方を提示する。

- (8) Necker Cubes:



上の図形は右も左も単独には、どの面を手前に突き出ていると見るかによって、それぞれ2通りに見える可能性があるが、しかし、(8)のように並べて見ると、両者とも同じ面が突き出ているとしか見えない。すなわち、4通りの可能性のうち、2通りしか認知できないのである。

第2節の最後で述べた認知上の平行性というのは、‘Necker Cubes’のことにほかならなかったということになる。ただし、(4. c)のことを考え合わせると、(7. b)において、はたして‘epistemic’の解釈が素直に出てくるかどうかは再考の余地があるだろう。いずれにせよ、等位構造における法助動詞の意味解釈という一見したところ小さな問題が、期せずして文法のモジュール構造に深く関わっていることが明らかになった。

(1995年2月16日)

References

- Akmajian, A. and T. Wasow (1975) “The Constituent Structure of VP and AUX and the Position of the Verb *Be*,” *Linguistic Analysis* 1: 205-245.
- Akmajian, A., S. M. Steele and T. Wasow (1979) “The Category AUX in Universal Grammar,” *Linguistic Inquiry* 10: 1-64.
- Arimura, K. (1979) “The Internal Structure of VP and AUX,” *Studies in English Literature* 56: 297-315.
- 馬場彰 (1980) 「最近の助動詞研究の諸問題」『岡山大学文学部紀要』1: 137-155.
- Baltin, M. (1978) *Toward a Theory of Movement Rules*, MIT doctoral dissertation.
- Chomsky, N. (1991) “Some Notes on Economy of Derivation and Representation,” in *Principles and Parameters in Comparative Grammar*, R. Freidin ed., pp. 417-454, The MIT Press, Cambridge, Massachusetts.
- DeCarrico, J. (1980) “A Counterproposal for Opaque Contexts,” *Linguistic Analysis* 6: 1-20.
- Emonds, J. (1976) *A Transformational Approach to English Syntax*, Academic Press, New York.
- Hornstein, N. (1994) “An Argument for Minimalism: The Case of Antecedent-Contained Deletion,” *Linguistic Inquiry* 25: 455-480.
- Iwakura, K. (1977) “The Auxiliary System in English,” *Linguistic Analysis* 3: 101-136.
- Lightfoot, D. (1982) *The Language Lottery*, The MIT Press, Cambridge, Massachusetts.
- Pollock, J.-Y. (1989) “Verb Movement, Universal Grammar, and the Structure of

IP," *Linguistic Inquiry* 20: 365-424.

Sag, I. (1976) *Deletion and Logical Form*, MIT doctoral dissertation.

中国語アスペクト研究ノート

望月 圭子

0 はじめに

中国語の時間表現システムの全体像を画いた論文、著作は、筆者のみた限りではないように思う、そこで、《中国大百科全書—語言・文字》の‘アスペクト範疇’の項を次に引用してみる：

テンスという範疇は、動作（或いは状態）の時間を表すが、アスペクトという範疇は、動作（或いは状態）の過程を表す、即ち進行中であるのか、すでに完了しているのか、過程全体を指しているのか、そうではなくて開始或いは終結を特に指しているのか、多回発生するのか、一回だけ発生するのか、断続的であるのか、瞬間的であるのかなどを表す、

……（ロシア語についての説明を中略）……

中国語には、形態を伴ったテンスという範疇はない、一部の文法学者は、中国語には、アスペクトという形態を伴った範疇があると考えている、例えば、〈着〉は進行相を、〈了〉は完了相を表すなどがそうである、しかし、このような分類は精密さを欠いている、例えば〈台上坐着主席团〉（壇上に議長団が坐っている）の中の〈着〉が表しているのは、ある種の静止的状态であるが、〈屋頂上蓋着一層厚厚的雪〉（屋根に厚い雪が積もっている）の中の〈着〉が表しているのは、動作が残した状態である、一方〈了〉はどうかと言えば、〈了〉は〈做了一件好事〉（一つ好い事をした）のように、確かに完了相の機能を持っているが、時には〈了〉と〈着〉の区別が大変むずかしい場合もある、例えば、〈开着窗户睡觉〉（窓を開けたまま寝る）の〈着〉と、〈开了窗户睡觉〉（窓を開けて寝る）の〈了〉は、このような文脈ではほとんど同じ意味である、そこで中国語文法学者はアスペクトという範疇を採用せず、これらの語を動詞の語尾あるいは語気詞として処理している、（以下省略）

この解説は、残念ながら不正確、不明瞭である、中国の中学及び高校で使われている学校文法体系では、〈了〉〈着〉〈過〉をアスペクトを表す‘動態助詞’としている、だから、この解説中の‘一部の文法学者’という表現は適当ではない、また学校文法体系の解説書には、‘動態助詞’以外に‘時体助詞’というのが挙げられており、これも例文から判断して、アスペクト助詞と考えられる、しかし、一方、大学での教材として使われている12種類の《現代漢語》では、アスペクトという範疇をほとんど取り上げていない、これは筆者には、意外だった、その原因は、アスペクトの実体が捉えられていないため、取り上げようがなかったのではないだろうか、要するに現在のところ、テンスとアスペクトを区別する必要がある

るのかどうか、あるとすればどう区別したらよいのか、区別する必要がないとすればどのような範疇を考えたらよいのか、現在のところ意見が錯綜状態にあるものと考えられる、ちなみにコムリー（1988, p. 11）は次のように述べている：

「アスペクトは場面の内的な時間構成をとらえる、さまざまなし方である」というのが一般的な理解である、

本稿は本来アスペクトについて書かなければならないのだけれども、中国においても上述のような状況だし、筆者も今のところ新しい意見を述べる自信もないので、アスペクトに関する事項の紹介や、それに対する意見などを軽い気持ちで述べてみる、従って本稿は全体にまとまりのないものになるが、ご了承願いたい、

1 ‘時相’ (phase) について

陳平氏 (1988, p. 143) は、現代中国語の時間体系の主要部分として、対等関係にある次のような三種類があるとしている：

- 1) 文の‘時相’ (phase) 構造：文の純命題的意味に内在する時間的特徴であって、主として述語動詞の語彙的意味によって決定される、その他の文成分の語彙的意味も選択と制約の機能を持っており、中でも目的語と補語の機能が大きい、
- 2) 文の時制 (tense) 構造：事象が起きた時間を指定し、その時点と発話時点（あるいは発話時点と異なる基準時点）間の時間軸上の相対的位置を表す、
- 3) 文の相 (aspect) 構造：事象のある時間における特定の状態を表す、

このうち、1) の‘時相’という範疇は、中国語にとっても日本語にとっても、また英語にとってもあまりなじみのない範疇のように思われる、従って陳平氏の説明だけでは‘時相’の内容がよくわからないので、いろいろの著書、論文を見たところ、湯廷池氏 (1992, p. 96-99) に‘動貌標誌’ (aspect marker) と‘動相標誌’ (phase marker) についての例文を挙げての記述があるのをみつけた、少し長くなるが、湯氏の説明を以下に引用する：

中国語においての動作の到達、完成、処置、停留などを表す‘動相標誌’（例えば＜到＞＜完＞＜掉＞＜好＞＜光＞＜盡＞＜得＞＜住＞＜完＞＜消＞＜及＞＜著＞＜過＞＜起＞など）と‘動貌標誌’（例えば＜了＞＜著＞＜過＞など）は次の点で異なる：

- 1) 前者は常に本来の声調で発音する（例えば＜了 liǎo 3 声＞＜著 zháo 2 声＞

<過 guò 4 声>, しかし後者は常に軽声で発音する (例えば <了 le 軽声> <過 guò 軽声>),

- 2) 動詞と‘動相標誌’の間には、可能・不可能を表す<得><不>を入れることができる (例えば<看得到(みる)・看不到(みない)><完得了(終われる)・完不了(終わらない)><賽得過(勝てる)・賽不過(勝てない)>のに対して、動詞と動貌標誌の間にはそれができない、
- 3) もし両者が同時に出現するときには、動相標誌は常に動貌標誌の前に現われる (例えば<聽到了聲音了, 看完了書了>, 動相標誌は動詞の意味の空洞化によってできたものであり、統語機能の面では動貌標誌と同様に単独では使えない‘粘着’ (bound form) であり、意味機能の面ではもはや動作或いは行為を示さず、ただ‘動相’ (phase) を示すだけである、‘行動動詞’ (例えば<看>) が動相標誌と合体してできた‘述補式動詞’は、意味類型の面では‘行動動詞’ (actively verb) ではなく、‘完成動詞’ (accomplishment verb, 例えば<看完>) 或いは‘終結動詞’ (achievement verb, 例えば<看到>) に属してしまう、従って、‘述補式動詞’は持続を表す‘期間補語’と一緒に使うことができない、次の例文を比較してみよう：

- a 他看書看了三個小時, (<看>は‘行動動詞’) (彼は三時間本を読んだ)
b ? 他看完書看完了三個小時, (<看完>は‘完成動詞’)
c * 他看到書看到了三個小時, (<看到>は‘終結動詞’)

ここで、陳平氏の説明と湯廷池氏の記述を重ね合わせてみると、phase (陳氏の‘時相’、湯氏の‘動相’) の意味が明らかになってくる、まとめると、次のように言えるのではないだろうか：

主として述語動詞の語彙的意味特徴 (例えば、継続できるかどうか、終点があるかどうかなど) による文の状況類型 (situation type, 例えば状態、活動、終了、成就などで、いずれも時間と関係がある) の決め方

2 この<的>は何助詞？

<的>はいろいろな機能を持った厄介な助詞である、この厄介さを説明するため、《実用漢語語法大辞典》P287にある‘時間助詞’の項を要約して紹介する：

宋玉柱は中国語には少なくとも二つの‘時間助詞’が存在すると言っている、<的>

と＜来着＞がそうであるが、＜的＞の例として以下の例を挙げる：

- ① 老爺哪一天從鉾上回來的？（お爺ちゃんは何日に鉾山から帰ってきたの）
- ② 你在哪兒學的蒸包子呀？（君はどこで包子を蒸すのを覚えたの）
- ③ 他昨天晚上什麼時候回來的？（彼は昨日の晩何時に帰ってきたのだ）

宋玉柱はこれらの＜的＞を次の理由で‘時間助詞’と言っている：

- 1) ①の＜的＞を外すと「間もなく帰って来る」という非過去の意味になる。
- 2) ③の＜的＞を外すと「*彼は昨日の晩何時に帰るのだ」という意味になり、矛盾が生じる。
- 3) ＜的＞は現在時を表す＜現在＞などの副詞や、未来時を表す＜明天＞などの副詞と共に起して、＜*我現在來的＞＜*明天什麼時候回來的？＞のように言うことは絶対にできない。

（＜来着＞についての説明は引用省略）

②については、上記辞典には何の説明もないが、趙元任 (1976, p. 397) の説明を援用すると、次に挙げる⑥（②と同様の用法）は④が⑤の真似をした結果生まれた表現で、それが今ではすっかり定着した表現になっているということである。

- ④ 他是昨兒出醫院的。（彼は昨日退院したのです）
- ⑤ 他是昨兒來的。（彼は昨日来たのです）（動詞の直後に＜的＞が付いているのに注意）
- ⑥ 他是昨兒出的醫院。（彼は昨日退院したのです）（⑤と同様動詞の直後に＜的＞が付いているのに注意）

ここで注意しなければならないのは、＜*…了的＞という組合せはできない、という点である。＜了＞が完了を表し、＜的＞が過去を表すとするなら、英語でいうところの過去完了になるはずだが、そうはならない。その理由は何なのか、興味のそそられる問題である。

＜*我買了的書＞と言えないのはこのためかもしれない。これは、今後の課題である。

②や⑥を見ると、＜的＞が述語と目的語の間に入っている。しかし＜的＞は主語と述語の間に入ることもある：

- ⑦ 他的不去是有道理的。（彼の行かないのは理由があるのです）

ただし、これは補文の中だけに限られ、＜*他_レ的不去＞のように独立した文では使えない、＜_レ的＞のこのような用法は英語の of や日本語の「の」を＜_レ的＞で訳していることが影響していると思われる。もちろん古い中国語の「之」が現代中国語では＜_レ的＞に替わることの影響も大きいと思う。またもともとは南方方言だと言われているが、今では共通語として定着している次のような表現もある：

⑧ 還是去的好。(やはり行ったほうがよい)

これまで見てきたように、＜_レ的＞の用法は複雑多岐で、これをどう処理したらよいのかは大問題である。ちなみに＜_レ的＞は、単語の使用頻度ではトップの座を占めている。

3 終わりに

陳平氏は論文の最後で次のような悲鳴を上げている：

現代中国語の時間体系の全貌は、目下のところ我々にはほとんど知られていない、＜了＞＜着＞＜過＞など助詞の錯綜して複雑な用法や、複雑多岐な意味は、しょっちゅう多くの懸案をもたらし、際限のない困惑をもたらしている。

陳平氏の論文は全体の11%がテンス、6%がアスペクトに当てられ、80%以上が、‘時相’にあてられており、これはアスペクトの研究が進んでいないことを示している。同氏は文中で、今後、続々とテンス・アスペクトに関する論文を書きたいと述べているが、まだ発表されていないようなのは残念である。最近、『現在日語高級語法教程－ヴォイス・テンス・アスペクト・モダリティ』という本を手に入れた。本稿には間にあわなかったが、すべての例文に中国語訳が付いているのでこの本を活用し、対照研究という観点から研究を進めていきたいと考えている。

(1995/2/15)

参考文献

- 陳高春・主編 1989. 『實用漢語語法大辭典』, 北京: 職工教育出版社.
- 陳平 1988. 「論現代漢語時間系統的三元結構」, 『中国語文』第6期, 401—422頁.
- Comrie, Bernard (山田小枝訳) 1988. 『アスペクト』, 東京: むぎ書房.
- 湯廷池 1992. 『漢語詞法句法四集』, 台北: 台灣學生書局.
- 中国大百科全書出版社編集部・編 1988. 『中国大百科全書一語言・文字』, 北京: 中国大百科全書出版社.
- 趙元任 (Chao, Y. R.) 1968. A Grammar of Spoken Chinese, Berkely and Los Angeles: University of California Press.

L'imparfait et l'aspect imperfectif en français

Yoichiro TSURUGA

1. Introduction

L'imparfait présente le procès sous l'aspect imperfectif, inaccompli. Les phrases du genre : *Pierre lisait quand Marie est entrée* est bien compréhensible. Au moment où Marie est entrée, Pierre n'avait pas terminé sa lecture, mais il avait déjà commencé la lecture. "L'imparfait montre, comme disent les auteurs du *Bon usage*, un fait en train de se dérouler dans une proportion de passé, mais sans faire voir le début ni la fin du fait (...)." (M.Grevisse et A.Goosse, 1986, p.1290) Mais parmi les emplois variés de l'imparfait, il y en a qui semblent assez différents de l'exemple donné ci-dessus, justement du point de vue de l'aspect. Dans *Nous sortions à peine qu'un orage éclata* (*ibid.*), par exemple, le procès *sortir* était-il en train de se produire? Ou encore, dans *Tout changeait à cinq heures par l'arrivée de Desaix* (*op.cit.*, p.1291), peut-on dire que la relation entre *Tout changeait* et *à cinq heures* soit, du point de vue temporel et aspectuel, comparable à celle qui existe entre *Pierre lisait* et *quand Marie est entrée*? C'est le premier problème qui sera discuté ci-dessus. Ensuite il y a le problème de la concordance des temps. La phrase *Il m'a dit* : "*Je travaillais hier chez moi.*" sera réécrite au discours indirect comme *Il m'a dit qu'il travaillait la veille chez lui*. Et dans celle-ci, si l'on met le verbe *a dit* au plus-que-parfait, ce sera *Il m'avait dit qu'il travaillait la veille chez lui*. Dans la première phrase réécrite, on peut toujours mettre en question la relation qu'il y a entre *Il m'a dit* et *il travaillait*, mais aussi celle entre *la veille* et *il travaillait*.

Les deux problèmes donnés ci-dessus ont quelque chose de commun. C'est que l'imparfait a un point temporel plus ou moins explicite avec lequel il est simultanée. Nous nous proposons, dans cet article, de jeter un coup d'œil à ces problèmes et essayons aussi d'explicitier quelle relation il y a entre ces problèmes et l'aspect imperfectif que nous considérons comme la plus importante caractéristique de l'imparfait.

2. Quelques emplois de l'imparfait

Il y a des verbes qui ont un sens conclusif comme *atteindre*, *entrer*, *sortir*, etc. et il y en a aussi qui sont non conclusifs comme *dormir*, *habiter*, *travailler*, etc. Et quand les verbes non conclusifs sont mis à l'imparfait, ils expriment naturellement un état.

(1) *Madame d'Epinay aimait bien ses amis, elle les servait avec beaucoup de zèle.* (J.-J.Rousseau, exemple cité par R.-L.Wagner et J.Pinchon, 1962, p.361)

C'est la description d'un état où peut se produire un événement. Ceci est bien naturel. C'est plutôt quand les verbes conclusifs sont mis à l'imparfait qu'il peut y avoir des problèmes.

- (2) *Le facteur passait tous les jours à 8 heures.* (exemple cité par H.Bonnard, "L'imparfait", 1973, p.2544)

Ce qu'il faut remarquer dans cette phrase-ci, c'est que *passait* ne signifie pas *était en train de passer*. *Passait* est imperfectif, mais chaque passage qui a eu lieu tous les jours était bien "perfectif". L'imperfectif est bien reflété en ce que le nombre de jours de passage n'est pas limité. L'énoncé (2) représente ce qu'on appelle aspect itératif, mais remarquons que l'itératif n'est pas réservé à l'imparfait.

- (3) *Il y a six ans, l'armée française débarquait sur les côtes de Provence* (exemple cité par H.Bonnard, *ibid.*)
 (4) *Vingt jours avant moi, le 15 août 1768 (...), naissait dans une autre île, (...) l'homme qui a mis fin (...).* (R.-L.Wagner et J.Pinchon, *op.cit.*, p.361)
 (5) *On choisissait les temps d'orage; et, pour ces parties hasardeuses, on s'embarquait le matin, une heure avant l'aube.* (Stendhal, exemple cité par R.-L.Wagner et J.Pinchon, *ibid.*)

Les trois exemples, ci-dessus, sont donnés comme ceux qui expriment des procès ponctuels. Dans (3), il ne s'agit pas de débarquements fréquents ni d'un débarquement qui était en train de se faire. Il s'agit bien d'un débarquement qui a eu lieu mais qui est exprimé sous l'aspect imperfectif. Mais peut-être selon le contexte, *débarquait* de (3) serait interprété aussi comme *était en train de débarquer*. Dans (4) aussi, il s'agit d'une naissance qui a eu lieu une fois. Dans (5) aussi, il est question de procès ponctuels. Il ne s'agit pas du choix qui durait ni de *on était en train de s'embarquer*. Les exemples suivants sont plus décisifs.

- (6) *Louis Gillet, qui mourait à Paris le 1er juillet, a laissé une œuvre considérable.* (exemple cité par H.Sten, dans R.L.Wagner et J.Pinchon, *op.cit.*, p.361)
 (7) *Le même homme qui au lendemain de la mort de sa mère se livrait à la débauche la plus honteuse a tué pour des raisons futiles et pour liquider une affaire de mœurs inqualifiable.* (A.Camus, *L'Eranger*, Paris, Gallimard, Le Livre de Poche, 1957, p.141)

Dans (6), il ne s'agit pas de Louis Gillet qui était en train de mourir le 1er juillet. Louis Gillet est mort et il a laissé une œuvre considérable. C'est bien un procès ponctuel qui est en question. Il en va de même pour (7). Il ne peut pas s'agir de l'homme qui était en train de se livrer à la débauche. Le procès en question appartient au passé et ce procès est mis à l'imparfait. Mais cet imparfait n'exprime pas un procès durable comme c'est souvent le cas (cf. l'exemple (1)). On peut bien sûr dire : *Le même homme qui au lendemain de la mort de sa mère s'est livré à la débauche la plus honteuse a tué...* Le problème est

donc plutôt de savoir quelle différence il y a entre les deux énoncés, l'un avec l'imparfait et l'autre avec le passé composé.

R.-L.Wagner et J.Pinchon reconnaissent que l'imparfait convient aussi à l'expression d'un procès ponctuel concernant l'exemple (5) et continuent comme suit:

"Avec des verbes de SENS PERFECTIF, la désinence d'imparfait crée une légère discordance qu'il convient d'interpréter. Dans les exemples du type: *En 1802, naissait à Besançon...* l'imparfait suggère que le fait évoqué n'a pas épuisé toute son importance C'est une forme de mise en relief: (...)." (*op.cit.*, p.361)

Et en parlant de l'exemple (6), ils disent "(...) *mourait*, manière de dire moins objective et moins banale que *mourut*, évoque en plus la durée de l'agonie. L'écrivain confère à *Mourir* une valeur imperfective."(*ibid.*)

D'abord, dans *On choisissait les temps d'orage...*, ils reconnaissent que *choisissait* exprime un procès ponctuel, et ensuite qu'en interprétant *En 1802, naissait...*, l'imparfait *naissait* évoque non seulement le fait de naître au passé(cf. *naquit*) mais aussi une mise en relief. Ils reconnaissent là donc une valeur marquée. Et concernant l'exemple (6), ils disent que l'emploi de l'imparfait dans le contexte en question est moins banal. En effet, du point de vue de la nature perfective du verbe *mourir*, on espérerait un temps perfectif, passé simple ou passé composé. Et ils reconnaissent finalement qu'une valeur imperfective est marquée dans *mourait* de (6). Nous pensons qu'il n'y a pas de différence fondamentale entre les deux imparfaits de (5) et de (6). L'imparfait est un temps imperfectif, mais le problème est qu'il semble d'un côté exprimer positivement la durée, l'état durable (soit l'aspect inaccompli) et de l'autre l'exprimer moins positivement. Dans (6), les auteurs de la *Grammaire française classique et moderne* reconnaissent la valeur imperfective positivement exprimée et ils disent même que cela évoque la durée de l'agonie. Selon cette interprétation, s'il s'agit, dans (6), de la mort subite, on ne pourrait pas utiliser l'imparfait. Or cela ne semble pas être le cas: *Louis Gillet, qui mourait subitement à Paris le 1er juillet, a laissé une œuvre considérable* est acceptable. D'ailleurs, l'explication donnée par ces auteurs des exemples (5) et (6) semble incohérente. Dans (6), si l'on compare *mourait* et *mourut* et si on se limite à ces parties seules, on serait forcé de trouver une explication fondée sur l'aspect imperfectif de l'imparfait. Mais si l'on tient compte d'un contexte plus large que la forme verbale, il semble possible de trouver une interprétation plus cohérente. Par exemple, dans (6), après *mourait*, le passé composé *a laissé* est utilisé. Ne peut-on pas dire que contrairement à l'explication de Wagner et Pinchon, l'accent n'est pas mis sur *mourait* (surtout pas sur son aspect imperfectif) mais plutôt sur le passé composé *a laissé* de la proposition principale. L'imparfait *mourait* constitue en quelque sorte l'arrière-plan et le passé composé *a laissé*, le premier plan. En termes linguistiques, ce seraient "non marqué" et "marqué". Cette explication n'est pas directement valable pour (5) qui n'ont que deux imparfaits du même emploi.

Mais selon notre analyse, pour avoir une compréhension suffisante de l'imparfait du genre de (5), il faut un contexte plus large où on trouve un temps perfectif qui est en contraste avec l'imparfait en question.

Dans les phrases (6), etc., le complément temporel précise la situation et la forme même de l'imparfait n'indique que le passé. La valeur ponctuelle est sentie grâce à la combinaison de divers compléments, mais cette valeur n'est pas mise en relief. L'imparfait représente, en quelque sorte, le passé en général (et non telle ou telle valeur particulière de la forme imperfective qu'est l'imparfait). C'est comme le présent qui représente le procès même (cf. le présent historique et le présent utilisé au sens de futur, etc.). C'est dans ce sens que A.Martinet appelle l'imparfait simplement "passé". Citons un passage de sa *Grammaire fonctionnelle du français*, 1979.

"Le monème 'passé' place le procès dans le flux du temps révolu au moment de l'acte de parole. Il ne comporte aucune autre spécification: *Il pêchait le thon*. Par opposition au 'prétérit' (=passé simple), cerné (...), il se définit comme 'non limité'.

(...) la présentation de la situation et des circonstances au moment où un événement s'est produit: *La forêt s'étendait à perte de vue*, (...). On rattache à cette valeur descriptive certains emplois du "passé", en particulier dans des biographies, dans des comptes rendus de manifestations ou autres: *Le 17 mai 1960, à peine âgé de 25 ans, il décrochait un doctorat d'état*, *A la mi-temps, les verts menaient par 8 à 3... à ce moment Molino s'emparait du ballon et marquait un but. Les manifestants se réunissaient... Une heure plus tard, le cortège s'ébranlait*. On peut y voir l'utilisation d'un monème qui rejette indistinctement l'ensemble des procès dans le passé: la distinction entre la situation et l'événement particulier étant suffisamment exprimée dans le contexte, par les indications de date ou d'horaire, il n'est pas nécessaire de l'exprimer encore, dans le syntagme verbal, par des monèmes particuliers." (*op.cit.*, pp.106-107.)

Nous pensons qu'on peut expliquer avec le "passé" non marqué les exemples (3) - (7) mais il semble y avoir des cas où on devrait reconnaître une valeur plus ou moins positivement marquée, du point de vue des valeurs stylistiques particulières.

(8) *Il vint, en effet, et ayant examiné la perle, il la refusait avec mille regrets pour la peine.* (exemple cité par H.Bonnard, 1973, p.2545.)

(9) *Lorsque le notaire arriva avec M.Geoffrin (...), elle les reçut elle-même et les invita à tout visiter en détail. Un mois plus tard, elle signait le contrat de vente et achetait en même temps une petite maison bourgeoise.* (Maupassant, exemple cité par H.Bonnard, *ibid.*)

Dans (8), par exemple, on ne peut pas négliger le contraste entre *vint* et *refusait*. Et dire simplement que *vint* est un prétérit "marqué" et *refusait*, un passé "non marqué" ne semble pas pouvoir expliquer le contraste en question. Mais si on met *refusa* au lieu de *refusait*, on a l'impression de la continuation d'une série d'événements. On peut dire qu'en utilisant le passé non marqué, on pourrait arrêter cette continuation. Il est clair qu'on ne peut pas recourir à d'autres passés marqués.

Il y a des cas où on sent non seulement la valeur ponctuelle mais aussi une certaine mise en relief marquée, et aussi des cas où on peut négliger ce genre d'effets. Et si, par exemple, dans l'énoncé du genre *Une minute plus tard, le train déraillait*, on peut reconnaître, selon le contexte, les trois valeurs suivantes: 1. le train était en train de dérailler, 2. le train aurait déraillé, 3. le train déraillait (avec valeur plus ou moins ponctuelle) (H. Bonnard, *op.cit.*, p.2545), cela signifie que les différences qu'on peut reconnaître ne sont que des effets de sens. En général, ces effets de sens sont dus aux contextes très variés. Ces effets peuvent être interprétés, dans un cas, surtout par rapport à des formes temporelles perfectives constituant des premiers plans "marqués", dans l'autre, toujours par rapport à celles, perfectives, qu'on peut difficilement considérer comme des premiers plans. Pour la valeur 2., ci-dessus, il faudrait une combinaison de facteurs contextuels (ce problème ne sera pas traité ici). Avant de finir ce chapitre, remarquons que cet emploi de l'imparfait dit narratif, ou pittoresque, etc. gagne d'abord les romanciers, ensuite les historiens et les journalistes, mais qu'il est étranger au français parler (cf. H. Bonnard, *op.cit.*, p.2550).

3. Quelques problèmes de la concordance des temps

La concordance des temps, surtout celle de l'imparfait, est souvent négligée dans les ouvrages de grammaire traditionnelle du français. Ainsi, dans P. Imbs, *L'Emploi des temps verbaux en français moderne*, Paris, Klincksieck, 1960, aucune mention n'est faite sur la concordance des temps de l'imparfait dans le chapitre qui y est consacrée. R. L. Wagner, J. Pinchon, *Grammaire du français classique et moderne* est un cas plutôt rare. Ils disent:

"Parce qu'un imparfait du style indirect ou indirect libre peut correspondre à un présent ou à un imparfait du style direct, cette forme verbale a parfois une valeur ambiguë:

Il disait qu'il voulait partir le lendemain.

[L'imparfait *voulait* peut aussi bien être la traduction de *je veux* ou de *je voulais* partir demain.]" (*op.cit.*, p.366)

En récrivant l'énoncé donné ci-dessus au discours direct, on aura (a) *Il disait: "Je veux partir demain."* ou bien (b) *Il disait: "Je voulais partir demain."* Dans (b), *voulais* représente un procès qui précède *disait*. Mais ce fait temporel ne peut pas être respecté dans le discours indirect, et c'est plutôt l'aspect imperfectif qui est respecté. Si, en respectant le côté temporel, on dit (c) *Il disait qu'il avait voulu partir le lendemain*, cet énoncé-ci ne correspond plus à celui de départ. C'est plutôt *Il disait: "J'ai voulu partir demain."* qui correspond à (c). Et c'est toujours l'aspect perfectif qui est respecté dans cette concordance.

(10) (...) *je le regardais lorsque le directeur m'a parlé de lui. Il m'a dit que souvent ma*

mère et M.Pérez allaient se promener le soir jusqu'au village, accompagnés d'une infirmière. Je regardais la campagne autour de moi. (A.Camus, op.cit., p.25.)

Dans (10), les procès *regardais* et *a parlé* de la première phrase appartiennent à la même sphère temporelle. Mais dans la seconde, il n'y a pas de concordance de temps entre *a dit* et *allaient*, ce qu'on comprend seulement grâce au contexte lointain qui permet de savoir que *ma mère* est déjà morte au moment où *il m'a dit*. Au discours direct, ce sera : *Il m'a dit: "Souvent votre mère et M.Pérez allaient se promener le soir ...*

(11) *L'un des hommes qui entouraient la voiture s'était laissé dépasser aussi et marchait maintenant à mon niveau. (A.Camus, op.cit., pp.25-26.)*

Le plus-que-parfait *s'était laissé* n'exprime pas un procès qui est antérieur à celui de l'imparfait *entouraient*, et c'est plutôt le procès de l'imparfait qui précède celui du plus-que-parfait. Mais ils appartiennent à la même sphère temporelle. Le procès du second imparfait *marchait*, pourtant, vient après celui du plus-que-parfait. Comme on l'a vu ci-dessus, l'imparfait a souvent un point temporel par rapport auquel il se situe. Et ce point peut se situer un peu partout. Autrement dit, l'imparfait peut se situer partout dans le passé, que ce soit à un point de passé indiqué par un passé simple ou par un plus-que-parfait. Et le procès mis à l'imparfait peut se situer à un point de passé qui est même antérieur à un point indiqué par un plus-que-parfait. Le procès mis à l'imparfait dans une subordonnée appartient souvent à la même sphère temporelle que le procès de la proposition principale. Mais cela n'empêche pas, bien sûr, le procès en question d'être antérieur à celui de la principale. Le procès mis à l'imparfait peut choisir son point de repère, et il n'y a que le contexte qui nous permette de dire par rapport à quel repère il se situe.

4. Conclusion

Récapitulons ce qui est discuté ci-dessus. D'abord il faut remarquer que l'imparfait n'exprime pas nécessairement une situation ou un procès durables. La clef de l'imparfait dit narratif est en ce que le procès ponctuel est indiqué par l'imparfait qui est un temps imperfectif. On peut dire que c'est plutôt l'imperfectif qui est moins "marqué" que le perfectif. Dans beaucoup de cas, il semble donc que le décalage qu'il semble y avoir entre l'imperfectif et le procès conclusif perfectif puisse s'effacer si l'on considère, dans ces cas-là, que l'aspect fortement imperfectif n'est pas manifeste. Si le côté ponctuel est plus ou moins fortement senti grâce aux compléments circonstanciels de temps, etc. et que le procès même est mis simplement au passé en général au lieu d'être mis positivement à l'imperfectif, il n'y a plus aucun décalage. Autrement dit, la valeur imperfective de l'imparfait n'est pas nécessairement positivement manifeste. Cela ne signifie pourtant pas que l'imperfectif ne soit pas la plus importante caractéristique de l'imparfait. Car, justement, c'est cet aspect imperfectif qui correspond au passé "non marqué", au passé en

général qui peut remplacer, si besoin est, toutes sortes de temps du passé. Le fait que l'imparfait remplace tout temps du passé signifie qu'il peut appartenir à toute sphère temporelle du passé, ce qui explique le fonctionnement de l'imparfait dans les phénomènes de concordance des temps.

Bibliographie

- BONNARD, Henri : "L'aspect", *Grammaire et linguistique, Grand Larousse de la Langue Française*, tome III, Paris, Larousse, pp.266-269.
 --- : "L'imparfait", *op.cit.*, pp.2543-2551.
 --- : "Les passés", *op.cit.*, tome V, pp.4039-4050.
 GREVISSE, Maurice : *Le Bon usage*, 12e éd. refondue par A.Goosse, Paris-Gembloux, 1986.
 IMBS, Paul : *L'Emploi des tems verbaux en français moderne. Etude de grammaire descriptive*, Paris, Klincksieck, 1960.
 MARTINET, André : *Grammaire fonctionnelle du français*, Paris, Didier, 1979.
 WAGNER, Robert : *Grammaire du français classique et moderne*, Paris, Hachette, 1962.
 LÉON, PINCHON, Jacqueline

ドイツ語基本動詞分析データ（Ⅰ）

在間 進

黒田 廉

本稿では、基本動詞 1300 語をもとにして次の 2 点から分類整理を行った。

- （１）完了形を sein によって形成する動詞
- （２）分離前綴 ab-, an-, auf-, aus- を伴う動詞

（１）の作業は在間が、（２）の作業は黒田が担当した。今後は、分離動詞リストを完成させつつ、たとえば

- ◆ 単一動詞
- ◆ -n 型動詞
- ◆ 絶対自動詞
- ◆ 他自動詞
- ◆ 非分離動詞
- ◆ 様態の語句を伴う動詞
- ◆ zu 不定詞句、daß 文をとる動詞

などの観点から、基本動詞 1300 語を分類整理する予定である。

I はじめに

§ 1 完了形の作り方

1. 完了時制の人称変化は、完了不定詞をもとにして行う。たとえば、

getanzt haben (tanzen「踊る」の完了不定詞)

gekommen sein (kommen「来る」の完了不定詞)

2. 現在完了の人称変化は、完了助動詞 haben/sein を現在人称変化させることによって、過去完了の人称変化は、完了不定詞の haben/sein を過去人称変化させることによって、未来完了の人称変化は、完了不定詞 + werden をもとにし、werden を現在人称変化させることによって行われる。

〔現在完了〕

ich habe		wir haben	
du hast	...getanzt	ihr habt	...getanzt
er hat		sie haben	
ich bin		wir sind	
du bist	...abgefahren	ihr seid	...abgefahren
er ist		sie sind	

〔過去完了〕

ich hatte		wir hatten	
du hattest	...getanzt	ihr hattet	...getanzt
er hatte		sie hatten	
ich war		wir waren	
du warst	...abgefahren	ihr wart	...abgefahren
er war		sie waren	

〔未来完了〕

ich werde		wir werden	
du wirst	...過去分詞	ihr werdet	...過去分詞
er wird	+haben/sein	sie werden	+haben/sein

§ 2 haben と sein の使い分け

完了の助動詞として、haben と sein の2つが用いられるが、大半の動詞は完了の助動詞として haben を用い、一部の自動詞のみが sein によって完了形を作る。したがって、完了の助動詞 haben と sein の使い分けは自動詞においてのみ問題になる。

1. sein によって完了形を作る自動詞

完了の助動詞として haben を用いるか sein を用いるかは主に意味的要因に基く。sein によって完了形を作る自動詞は次の3グループである。

(イ) 場所の移動を表す自動詞

abfahren 出発する ausgehen 外出する fahren 乗物で行く
gehen 行く kommen 来る laufen 走る

Der Gast ist pünktlich gekommen.

客は時間どおりに来た。

Die Kinder sind zu Bett gegangen.

子供は寝に行った。

Die Mutter ist ausgegangen, um einzukaufen.

母親は買い物に出掛けた。

(ロ) 状態変化を表す自動詞

aufstehen 起きる aufwachen 目覚める heilen 治る
schmelzen 溶ける sterben 死ぬ werden ..になる

Die Blume ist verblüht.

その花は萎んだ。

Die Kerze ist erloscht.

ろうそくが消えた。

Der Autoreifen ist geplatzt.

自動車のタイヤが破裂した。

Der Patient ist heute nacht gestorben.

その患者が今夜亡くなった。

Der Kranke ist aufgestanden.

その病人が起き上がった。

Er ist von dem Lärm aufgewacht.

彼は騒音で目がさめた。

(ハ) 特殊な動詞

sein/bleiben/begegnen/gelingen/geschehen などは例外的に sein に

よって完了形を作る。

Er ist lange Zeit im Ausland gewesen.

彼は長い間外国にいた。

Er ist im Zimmer geblieben.

彼は部屋の中に留まった。

Ich bin ihm gestern zweimal begegnet.

私は彼に昨日二度出会った。

Es ist bei diesem Unfall nicht viel geschehen.

この事故は大したことはならなかった。

Es ist mir nicht gelungen, ihn zu überzeugen.

彼を納得させることが私にはできなかった。

【注】-----

完了の助動詞として haben をとるか sein を取るかは、動詞の表わす意味内容に基づくもので、一部の動詞は、意味用法に応じて haben によっても sein によっても完了形を作る。これらには、次のようなタイプがある。

(a) 移動性に焦点を当てて表現する場合には sein によって、行為性に焦点を当てて表現する場合には haben (あるいは sein) によって完了形を作る動詞：

Er hat zwei Stunden geschwommen.

彼は2時間泳いだ。

Er ist an das andere Ufer geschwommen.

彼は向う岸まで泳いだ。

(b) 「移動」の用法の他に、他動詞的用法を持つ動詞：

Die Kinder sind in die Stadt gefahren.

子供達は乗物に乗って町へ行った。

Der Lehrer hat ein neues Auto gefahren.

先生は新しい自動車を運転した。

(c) 「状態変化」の自動詞的用法の他に、haben によって完了形を作る他動詞的用法を持つ動詞 (他動詞的用法は、当該の状態変化を引き起こすことを表す)：

Eis ist geschmolzen. 氷が溶けた。

Die Blume ist abgebrochen. 花は折れた。

Er hat die Blume abgebrochen. 彼は花を折った。

Die Sonne hat das Eis geschmolzen.

太陽は氷を溶かした。

なお、基礎語が sein によって完了形を作る複合・派生動詞（たとえば durchgehen, eingehen, loswerden）は、他動詞でも、基礎語と同じように sein によって完了形を作る。

Ich bin mit ihm eine Wette eingegangen.

私は彼と賭けをした。

II 完了形を sein によって作る動詞リスト

助動詞 sein によって完了形を作る自動詞として、（イ）場所の移動を表す自動詞と、（ロ）状態変化を表す自動詞があるとされるが、実際的にこのような基準で sein と haben の使い分けが可能であるかを調査するための第1歩としてここに完了形を sein によって作る動詞をリスト化して示す。なお、意味用法に関係なくつねに完了形を sein によって作る動詞に関してはそのまま用法を載せるが、意味用法に応じて使い分けがある場合は〔完了 sein〕〔完了 haben〕のように示す。

【A】

abbrechen

①〔完了sein〕折れて取れる：

Der Zweig ist abgebrochen.

②〔完了haben〕突然止まる、中断する：

Die Musik bricht ab.

abfahren

①（人が）乗り物で出発する；（乗り物が）発車する：

Der Zug fährt in vier Minuten ab.

②〔スキーで〕滑降する：

Er ist glänzend abgefahren.

abkommen

①<von et3>（本来の方向3から）それる：

Der Wagen kam von der Fahrbahn ab.

②<von et3>（計画など3を）諦める：

Er ist ganz von seinem Plan abgekommen.

③（仕事などから）手を離す：

Kannst du nicht mal für eine halbe Stunde abkommen?

④ (習慣などが) すたれる:

Diese Sitte ist heute ganz abgekommen.

abreisen

旅行に出る:

Er ist nach Köln abgereist.

abreißen

① (糸、ボタンなどが) ちぎれる、ちぎれ取れる:

Mir ist der Knopf abgerissen.

② (会話などが) 中断する:

Das Gespräch ist plötzlich abgerissen.

absteigen

① <von et3> (乗り物など3から) 降りる:

Er steigt vom Fahrrad ab.

② 《場所の語句と》 (…に) 泊まる、投宿する:

In welchem Hotel bist du abgestiegen?

abstürzen

① 墜落する:

Ein Flugzeug ist abgestürzt.

② 断崖をなしている:

An dieser Stelle stürzt der Berg ab.

abweichen

① <von et3> (…3から) それる、外れる:

Er ist vom Kurs abgewichen.

② <von et3> (…3から) 異なる:

Unsere Ansichten weichen in dieser Frage voneinander ab.

abziehen

① 退却する:

Die Truppen sind aus den Stellungen abgezogen.

② (煙・水などが) 排出される、流れ出る:

Der Rauch zieht durch den Schornstein ab.

angehen

①《口語》始まる：

Wann geht das Theater an ?

② 燃え出す：

Das Feuer geht nicht an.

③ <gegen et4> (…4に) 立ち向かう：

gegen eine Krankheit angehen

④ 許容できる、がまんできる：

Die Hitze geht gerade noch an.

ankommen

① 到着する：

Der Zug kommt um 8 Uhr an.

② (車などが) 近づいて来る：

Der Wagen kam in großem Tempo an.

③ 受け入れられる：

Der Schlager ist gut angekommen.

④ <gegen j4/et4> (…4に) 対抗できる：

Er kam gegen die Vorurteile nicht an.

⑤ <auf et4/j4> (…4) 次第である；重要である：

Es kommt auf dich an, ob wir morgen abreisen.

anschlagen

①〔完了haben〕(時計・鐘などが) 鳴り出す；

(犬が)〔警戒して〕ほえる：

Die Turmuhr hat zwölfmal angeschlagen.

②〔完了sein〕激しくぶつかる、打ち当たる：

Er ist mit dem Kopf an die Wand angeschlagen.

③〔完了haben〕(薬などが) 効く：

Die Kur hat nicht angeschlagen.

anschwellen

① ふくれ上がる：

Die Adern auf seiner Stirn schwellen an.

②（程度が）増える（☆ 否定的な意味合いで）；

Die Arbeit schwillt immer mehr an.

ansteigen

①（道などが）上り坂になる；

Die Straße steigt allmählich an.

②（温度などが）上がる；（数量が）増える；

Die Temperatur steigt weiter an.

antreten

① 整列する；

Die Schüler sind der Größe nach angetreten.

②（仕事などのために）現れる、出て来る；

Sie sind pünktlich zum Dienst angetreten.

anwachsen

①（植物が）根づく；（移植した皮膚などが）生えつく；

Die verpflanzten Bäume sind gut angewachsen.

②（量）絶えず増える、膨張する；

Das Wasser wächst an.

aufbleiben

① 寝ずに起きている；

Sie sind die ganze Nacht aufgeblieben.

②（戸・窓などが）開いたままになっている；

Das Fenster soll noch aufbleiben.

aufblühen

①（花が）開く、開花する；

Die Rose ist aufgeblüht.

②（国などが）栄える、興隆する；

Handel und Gewerbe blühen auf.

③（人が）元気になる、健康になる；

Sie blüht allmählich wieder auf.

aufbrechen

自〔完了sein〕

① (花・つぼみなどが) 開く：

Die Knospen brechen auf.

② ぱっくり口を開ける：

Die Wunde bricht wieder auf.

③ 出発する、出かける：

Sie sind vor einer Stunde aufgebrochen.

auffallen

① 目立つ、人目を引く：

Seine Abwesenheit fiel nicht auf.

② <j3> (…3の) 注意を引く：

Er ist mir sofort aufgefallen.

③ 〔あるものの上に〕落ちる：

auf den Boden auffallen

aufgehen

① (天体が) のぼる：

Der Mond ist aufgegangen.

② (ドアなどが) 開く、あく：

Das Fenster geht nur schwer auf.

③ (結び目などが) ゆるむ：

Der Knoten ging immer wieder auf.

④ (つぼみが) ほころびる；発芽する：

Die Knospe geht auf.

⑤ 〔酵母菌によって〕膨れる：

Der Kuchen ist nicht aufgegangen.

⑥ (計算で) 割り切れる：

Die Division geht auf.

⑦ <j3> (…3に) 明らかになる、わかるようになる：

Mir ist erst jetzt der Sinn deiner Bemerkung aufgegangen.

⑧ <in et3> (…に) 没頭する、熱中する：

Sie ging ganz in ihrem Beruf auf.

aufkommen

① 起こる、発生する；(うわさなどが) 広まる：

Ein Gewitter kommt auf.

② 起き上がる；健康になる：

Er kam nur noch mit Mühe vom Boden auf.

③ <für j4/et4> (…4の) 経済上の責任を負う、賠償<補償>する：

Er muß für den Schaden aufkommen.

④ <gegen j4/et4> (…4に) 逆らえる、張り合える、対抗できる
(☆ ふつう否定詞と)：

Wir kommen gegen ihn nicht auf.

⑤ (金が) 集まる.

aufschlagen

① [完了sein] <auf et4> (…4に) 激しくぶつかる

Er ist mit dem Hinterkopf auf das <dem> Pflaster aufgeschlagen.

② [完了sein] (炎が) 燃え上がる：

Flammen schlugen hoch auf.

③ [完了haben] (値段が) 上がる：

Die Miete hat wieder aufgeschlagen.

④ [完了haben] 値段を上げる.

Der Kaufmann schlägt erheblich auf.

aufstehen

① [完了sein] (座っている・寝ている状態から) 立ち<起き>上がる：

Der Gestürzte stand mühsam auf.

② [完了sein] 起床する：

Er steht jeden Tag um 5 Uhr auf.

③ [完了 sein] 反乱を起こす、立ち上がる：

Das Volk stand gegen die Unterdrücker auf.

④ [完了 haben] 《口語》開いたままである：

Die Tür hat die ganze Nacht aufgestanden.

⑤ [完了 sein] (予言者が) 出現する.

aufsteigen

① (自転車・馬などに) 乗る：

Er steigt auf das Fahrrad auf.

② (山などに) 登る：

zum Gipfel aufsteigen

- ③ (煙などが) 立ちのぼる、(飛行機などが) 舞い上がる、
(星などが) 昇る：

Rauch steigt aus dem Schornstein auf.

- ④ (考え・疑惑などが) 生じる：

Angst stieg in ihm auf.

- ⑤ 出世する、昇進する：

Er ist zum Direktor aufgestiegen.

aufstoßen

- ① [完了haben] げっぶをする：

Sie hat laut aufgestoßen.

- ② [完了haben/sein] <j3> (飲み物などが…3に)

おくびくげっぶ>をさせる：

Das Bier stößt mir leicht auf.

- ③ [完了sein] <auf et4> (…4に) ぶつかる：

Er ist mit dem Kopf auf die Kante aufgestoßen.

- ④ [完了sein] (水底などに) 突き当たる：

Das Schiff ist aufgestoßen.

- ⑤ [完了sein] <j3> (…3の) 目にとまる、注意をひく：

Mir ist nichts Verdächtiges aufgestoßen.

aufwachen

目が覚める：

Ich bin heute früh aufgewacht.

aufziehen

- ① 公衆の前に姿を現す：

Die Wache ist aufgezoogen.

- ② 近づいて来る：

Ein Gewitter zieht auf.

aufbrechen

- ① 脱走する：

Der Häftling ist wieder ausgebrochen.

- ② (正しいコースから) それる：

Der Wagen bricht beim Bremsen leicht aus.

③（火事・戦争などが）急に起こる：

Ein Streik ist ausgebrochen.

④<in et4> 突然（…4の）状態に陥る、突然（…4）し出しす：

Er brach in Zorn aus.

ausfallen

①（歯・髪などが）抜ける：

Die Haare fallen aus.

②（催し物などが）中止になる：

Das Konzert fiel aus.

Der Unterricht fällt heute aus.

③（機械などが）故障する：

Die Klimaanlage ist ausgefallen.

④（参加者などが）突然欠席する：

Zwei Kollegen fallen wegen Krankheit aus.

⑤《様態の語句と》（～という）結果になる：

Die Arbeit fällt gut aus.

ausgehen

①（用事・レジャーのために）外出する：

Wir gehen oft zum Essen aus.

②（火・ランプなどが）消える：

Plötzlich ging das Licht aus.

③<j3/et3>（蓄え・忍耐力などが…3から）無くなる；
（髪などが）ぬける；（色が）あせる：

Ihm sind die Zigaretten ausgegangen.

④《様態の語句と》（～の結果に）終わる：

Die Geschichte geht tragisch aus.

⑤<von et3>（…3から）出発する、仮定する：

Er ist von falschen Vorraussetzungen ausgegangen.

⑥<von j3>（…3に）由来する：

Der Plan ging vom Lehrer aus.

⑦<von et3>（光・においなどが…3から）発散する、
（道などが…3を）出ている：

Von der Rose geht ein zarter Duft aus.

⑧<auf et3>（…3を）目指す：

Er geht nur auf Gewinn aus.

auskommen

①<mit et3> (…3で) 足りる、間に合う：

Er kommt mit seinem Gehalt nicht aus.

②<ohne j4/et4> (…4なしで) 済ませる：

Er kommt ohne dich nicht.

③<mit j3> (…3と) 仲よくする：

Mit ihm kann man nicht auskommen.

ausscheiden

① 問題にならない、除外される：

Diese Möglichkeit scheidet aus.

②〔役職・団体などから〕退く：

Er ist aus dem Amt ausgeschieden.

③《スポーツ》予選で敗退する、途中で失格する：

Die Mannschaft schied in der Vorrunde aus.

aussteigen

(乗り物から) 降りる (反 einsteigen)：

Der Zug hielt, und wir stiegen aus.

！《比喩》Er wollte aus dem Projekt aussteigen.

ausziehen

① 引っ越しをする、(住居などを) 引き払う (反 einziehen)：

Am 31. März müssen wir ausziehen.

② (遠くへ) 出かける；(列をなして) 出て行く：

Er zieht auf Abenteuer aus.

【B】

begegnen

〔完了 sein；ただし④は haben〕

①<j3/et3> (…3に) 〔予期せずに〕会う、出くわす：

Ich bin ihm kürzlich begegnet.

②<j3> (…3の) 身に起こる、ふりかかる：

Ihr ist ein Unglück begegnet.

③<j3>《様態の語句と》(…3に～の態度で)接する、あしらう：

Er begegnete ihr höflich.

④<et3>(…3に)対処する、あしらう：

Er begegnet allen Schwierigkeiten mit Umsicht.

bersten

①裂ける、ひび割れる：

Beim Erdbeben barsten die Wände.

②<vor et3>(…3のあまり)はじけそうになる：

Er barst fast vor Lachen.

biegen

《空間の語句と》～を曲がる；円を描く：

Das Auto ist um die Ecke gebogen.

blättern

①〔完了 haben〕<in et3>(本など3の)ページをめくる：

Er blättert in einem Buch.

②〔完了 sein〕(薄片となって)はげ落ちる：

Der Kalk blätterte von den Wänden.

bleiben

①《場所の語句と》～にとどまる：

eine Woche in Köln bleiben

！《場所の語句を伴わず、時間の語句と》

Ich kann nicht länger bleiben.

②《状態の語句と》いつまでも～のままである：

Er wird dir treu bleiben.

③<bei et3>(引き続き…3に)とどまる：

Er blieb bei seiner Meinung.

④残る：

Jetzt bleibt nur noch eins zu tun.

brausen

〔完了 haben；ただし③は sein〕

①(風・波などが)ごうごう音をたてる、荒れ狂う：

Das Meer braust.

② シャワーを浴びる：

Ich brause jeden Tag.

③《口語》（乗り物が）大きな音を立てて突き進む、
ばく進する：

Der Zug ist über die Brücke gebraust.

brechen

〔完了 sein；ただし③④は haben〕

① 折れる、砕ける、こわれる：

Die Äste brechen unter der Last des Schnees.

②《場所の語句と》（～から）〔勢いよく〕現れる：

Die Sonne bricht durch die Wolken.

③<mit j3>（…3との）関係を断つ、縁を切る：

Er hat mit ihr gebrochen.

④ 吐く：

Nach dem Essen mußte er mehrmals brechen.

bummeln

①〔完了 sein〕ぶらつく、ぶらぶら歩く；飲み歩く：

Wir sind durch die Straßen gebummelt.

②〔完了 haben〕だらだら仕事をする、怠ける：

Er hat im ersten Semester viel gebummelt.

【D】

dasein

①〔あるところに〕ある、存在する：

Der Brief muß doch dasein.

②〔あるところに〕いる、出席している、来ている：

Ist jemand da ?

davonkommen

〔危険などを〕逃れる：

Er ist mit einer kleinen Verletzung davongekommen.

davonlaufen

走り去る、逃げ去る：

Seine Frau ist ihm davongelaufen.

donnern

〔完了 haben；ただし②④は sein〕

①《雷のような》大きな音をとどろかせる：

Die Kanonen donnern.

②《方向の語句と》轟音をたてて移動する：

Der Zug ist über die Brücke gedonnert.

③《口語》《方向の語句と》（～を）勢いよく叩く：

mit der Faust auf den Tisch donnern

④《口語》《方向の語句と》（～に）勢いよくぶつかる：

Er ist mit dem Auto gegen einen Baum gedonnert.

⑤《口語》雷を落とす：

Er hat furchtbar gedonnert.

dringen

①《方向の語句と》（水などが）しみ通る；

〔障害などを排除しながら〕押し進む：

Wasser dringt in die Stube.

②<in j4>（…4に）しつこく迫る：

Er drang in mich mit Fragen.

durchkommen

①〔ある場所を〕通り抜ける：

Der Bus kommt durch die enge Straße nicht durch.

②〔危機などを〕切り抜ける；〔試験などに〕合格する：

Der Patient ist durchgekommen.

③（光などが）通って来る；（水などが）浸透する：

Die Sonne kommt durch die Wolken durch.

④《口語》<mit et3>（…3で）暮らしていく：

Er kommt mit seinem Stipendium kaum durch.

⑤《口語》<mit et3>（…3を）やり通す：

Ich komme mit der Arbeit nicht durch.

⑥《口語》電話が通じる：

Ich bin vorhin nicht durchgekommen.

⑦《口語》（ニュースなどが）放送される：

Eben ist eine wichtige Meldung durchgekommen.

【E】

eilen

①〔完了sein〕《方向の語句と》（～へ）急いで行く：

Er ist zum Arzt geeilt.

②〔完了haben〕（手紙・注文などが）急を要する、急ぐ：

Dieser Brief eilt sehr.

einbrechen

①（どろぼうなどが）押し入る：

Ein Dieb ist in den Keller eingebrochen.

！《完了haben のこともある》

Bei ihm hat man eingebrochen.

②（敵などが）強引に侵入する：

Der Gegner ist in unsere Stellung eingebrochen.

③ くずれ落ちる：

Das Gewölbe ist eingebrochen.

④（表面が割れて）下に落ちる：

Er ist auf dem Eis eingebrochen.

⑤（夜明け・夜などが）突然始まる：

mit einbrechender Nacht

⑥《口語》（予期しない）敗北を喫する。

eindringen

①<in et4>（水などが…4に）しみ込む：

Das Wasser drang in den Keller ein.

②<in et4>（どろぼうなどが…4に）侵入する：

Der Dieb drang durch ein Fenster in das Haus ein.

③<auf j4>（…4に）襲いかかる：

Zwei Männer drangen mit Messern auf ihn ein.

einfahren

（汽車・船などが）入る、入って来る：

Das Schiff fuhr in den Hafen ein.

einfallen

①<j3> (…3の) 念頭に浮かぶ、思いつく：

Sein Name fällt mir nicht mehr ein.

②(建物などが) 崩壊する；(屋根などが) 陥没する：

Die alte Mauer ist eingefallen.

③<in et4> (…4に) 侵入する；(光などが…4に) 差し込む；

(合唱・演奏など4に) 途中から加わる：

Der Feind fiel in unser Land ein.

④(季節・気象現象などが) 突然始まる：

Der Winter fällt ein.

eingehen

①<auf et4> (問題など4を) 取り上げる、取り組む：

Ich bin auf seinen Vorschlag nicht eingegangen.

②<auf j4> (…4に) 理解を示す、耳を傾ける：

Wir konnten auf ihn nicht eingehen.

③(郵便物などが) 到着する、届く：

Briefe sind eingegangen.

④(布地が) 縮む：

Der Stoff ist beim Waschen eingegangen.

⑤(店などが) つぶれる：

Das Geschäft ist eingegangen.

⑥(主に動物が) 死ぬ；(植物が) 枯れる：

Der Hund ist an der Staupe eingegangen.

参照：<et4> (…4の) 関係に入る

(☆ 完了の助動詞として sein をとることが多い)：

eine Ehe eingehen

einlaufen

①(船が) 入る、入って来る：

Das Schiff ist gerade einlaufen.

②(水などが) 流れ込む(☆ 主にlassen と)：

Sie läßt Wasser in die Wanne einlaufen.

③(郵便物などが) 到着する(☆ 主に会社などで)；

(苦情などが) 舞い込む：

Täglich laufen Zuschriften ein.

④〈布地などが〉縮む：

Die Vorhänge sind beim Waschen eingelaufen.

einschlafen

① 眠り込む、寝入る：

Er schlief sofort ein.

②〈手足などが〉しびれる：

Mein Bein ist eingeschlafen.

einsteigen

①〔乗り物に〕乗り込む、乗る：

Er stieg in den Bus ein.

②<et4>〈建物など4に〉〔よじ登って〕忍び込む：

Der Dieb ist durch ein Fenster ins Haus eingestiegen.

③<in et4>〈事業など4に〉参加する、参画する：

Er will in das Geschäft einsteigen.

eintreffen

①〈待っていたものが〉到着する：

Die Gäste treffen um 3 Uhr ein.

②〈予想などが〉的中する、現実になる：

Meine Befürchtungen sind eingetroffen.

eintreten

①〔ある場所に〕入る：

Er ist in das Zimmer eingetreten.

②〈政党・協会などに〉入る、会員になる：

Er ist kürzlich in einen Klub eingetreten.

③〈出来事などが〉起こる、生じる、始まる：

Unvorgesehene Umstände sind eingetreten.

④<für j4/et4>〈…4の〉味方をする、支持する：

Er ist sehr für mich eingetreten.

einziehen

①〔新居などに〕移る、入居する：

Sie sind gestern in das neue Haus eingezogen.

② 行進しながら入って来る：

Die Sportler ziehen in das Stadion ein.

③ (水分などが) しみ込む：

Das Regenwasser zieht in den Boden ein.

enden

① [完了haben] 終わる

(☆ 時間的にも空間的にも)：

Der Vortrag endet gegen 20 Uhr.

② [完了haben] 《様態の語句と》(～の) 結末になる：

Das Stück endet tragisch.

③ [完了haben/sein] 死ぬ：

Wie ist er geendet ?

④ [完了haben] <auf et4> (…4で) 終わる：

Das Wort "Ende" endet auf e.

entgegenkommen

① <j3> (…3の方へ) 向かって来る、出迎える：

Komm mir bitte ein Stück entgegen !

② <j3/et3> (…3に) 譲歩する、歩み寄る：

Wir sind bereit, Ihnen darin entgegenzukommen.

③ <j3> (…3の) 希望<要望・計画など>に合う：

Dein Vorschlag kommt mir sehr entgegen.

entstehen

① 発生する、生まれる、起こる：

Wie ist Leben auf der Erde entstanden ?

② (結果として) 生じる：

Es werden für Sie keine Kosten entstehen.

erlöschen

① (火・あかりが) 消える：

Die Kerze ist erloschen/erlöscht.

② (感情・情熱などが) さめる、薄れる、消え失せる：

Sein Interesse erlöscht mit der Zeit.

③（契約などの）有効期間が切れる；（流行病などが）絶える：

Der Anspruch erlöscht nach einem Jahr.

erscheinen

①《場所の語句と》（～に）姿を見せる、現れる：

Er erschien plötzlich in der Tür.

②（書籍などが）出版される、発行される：

Dieses Buch wird im Herbst erscheinen.

④<j3>《様態の語句と》（…3に～であるように）思われる：

Seine Erklärung erscheint mir unverständlich.

⑤<j3>（神・亡霊などが…3に）現れる：

Er ist ihr im Traum erschienen.

erschrecken

驚く、こわがる：

Ich erschrak über seine Worte.

erstaunen

驚く：

Er ist erstaunt darüber.

ersticken

窒息して死ぬ：

Er ist an Erbrochenem erstickt.

ertrinken

溺れ死ぬ、溺死する：

Das Mädchen ist im Fluß ertrunken.

erwachen

①目をさます、目覚める：

Er ist von dem Lärm erwacht.

②（意識・不信などが）生じる、よみがえる：

Sein Mißtrauen erwachte.

erwachsen

〔しだいに〕生じる、生まれる：

Daraus wird kein Vorteil erwachsen.

explodieren

爆発する：

Eine Mine explodierte.

【F】

fahren

①（人が）乗り物で行く：

Er fährt mit dem Zug nach Bonn.

②（乗り物が）走る：

Unser Auto fährt schnell.

③（特に車を）運転する：

Er fährt gut.

④（突然すばやく）動く：

aus dem Bett fahren

⑤ <über et4>（…4を）拭（ぬぐ）う、なでる：

Er fuhr sich³ mit der Hand über die Augen.

fallen

① 落ちる：

Die Blätter fallen.

② 転ぶ、倒れる：

Er fällt über einen Stein.

③（価格・温度などが）下がる、低くなる：

Die Preise fallen.

④ 戦死する：

In dem Gefecht ist sein Vater gefallen.

⑤《方向の語句と》（人が～へ）勢いよく動く：

Sie fiel ihm um den Hals.

⑥《方向の語句と》（嫌疑・注意などが…4に）向けられる；

（光などが～へ）さし込む：

Auf ihn fiel der Verdacht.

⑦ <an j4/et4>（…4の）ものになる：

Das Haus fällt nach seinem Tod an die Stadt.

⑧ <auf et4> (日付・時期などが…4に) 当たる、ぶつかる：

Das Fest fällt auf einen Sonntag.

⑨ <in et4> (ある状態4に) 落ち込む：

Er fällt in tiefen Schlaf.

⑩ <in et4> (…4の) 範囲内に入る：

Das fällt in mein Fach.

⑪ (道などが) 下りになる；(コート・髪の毛などが) 垂れ下がる：

Das Gelände fällt leicht.

⑫ (制度などが) 廃止される；(障害などが) 除去される；

(都市などが) 陥落する：

Das Tabu ist gefallen.

feigen

(風などが) 吹き抜ける：

Der Wind fegt durch die Straßen.

fliegen

① (鳥・飛行機などが) 飛ぶ：

Die Schwalben fliegen nach Süden.

② [飛行機で] 飛ぶ：

Fährst du mit der Bahn, oder fliegst du ?

③ 《方向の語句と》 [飛行機などで] 飛んで行く：

Bis Berlin fliegt man etwa zwei Stunden.

④ (物が投げられたりして) 飛んで行く<来る>：

Ein Stein flog durchs Fenster.

⑤ たなびく、はためく：

Die Fahnen fliegen im Wind.

⑥ 《口語》 放逐される：

Der Schüler flog von der Schule.

⑦ 《口語》 落ちる：

Sie ist von der Leiter geflogen.

⑧ 《口語》 <auf j4> (…4に) 魅惑される：

Auf ihn fliegen alle Mädchen.

fliehen

逃げる、逃走する：

Der Verbrecher ist ins Ausland gefohlen.

fließen

① (液体が) 流れる:

Das Wasser fließt.

《場所を主語にして》

Diese Quelle fließt nicht mehr.

② (交通などが) よどみなく流れる:

Der Verkehr fließt ungehindert.

flüchten

逃げる、逃亡する:

Er ist ins Ausland geflüchtet.

folgen

① [完了sein] <et3/j3> (…3に) ついて行く:

Ich bin ihm heimlich gefolgt.

② [完了sein] <j3> (…3の) 後を追う:

Er folgte der Mutter ins Haus.

③ [完了sein] <et3/j3> (…3を) [理解しながら] ついて行く:

Das Kind folgt mit Interesse dem Unterricht.

④ [完了sein] <et3/j3 (マタハ auf et4/j4)>

(時間的に…3/4の) 後に来る:

Dem Winter folgte ein schönes Frühjahr.

⑤ [完了sein] <aus et3> (…3から) 推測される、結論として出る:

Daraus folgt, daß..

⑥ [完了sein] <et3> (…3に) 従う:

Ich folge seinem Rat.

⑦ [完了haben] <j3> (…3の) 言うことをきく、言うとおりにする:

Das Kind folgt immer der Mutter.

fortgehen

① 立ち去る:

Er ist ohne Gruß fortgegangen.

② (状態などが) [今まで通りに] これからも続く:

So kann es nicht fortgehen.

frieren

- ①〔完了haben〕寒く感じる、凍える：

Ich habe sehr gefroren.

《身体部分を主語にして》

Die Füße frieren mir.

- ②〔完了sein/haben〕凍る、凍結する：

Das Wasser ist gefroren.

- ③〔完了sein〕《非人称で》ひどく冷える、霜がふる：

Heute nacht hat es stark gefroren.

【G】

gedeihen

- ① すすく成長する、繁殖する：

Die Kinder gedeihen prächtig.

- ② 進捗する：

Die Sache ist so weit gediehen, daß..

gehen

- ①《方向の語句と》（～へ）行く、（～の所へ）出かける：

Wohin gehst du?

- ②《方向の語句と》《規則的に～に》行く、通う：

Das Kind geht in die Schule.

- ③ 歩く（反 fahren）：

Wenn ich nicht mitfahren kann, gehe ich zu Fuß.

！《道程などを表す語句と》

einen Kilometer gehen

！《非人称で、再帰的に》

Es geht sich gut in diesen Schuhen.

- ④<an et4>（…4を）始める：

Er geht an die Arbeit.

- ⑤ 去る、立ち去る：

Ich muß jetzt leider gehen.

- ⑥ 辞職する：

Er geht nächste Woche.

- ⑦（汽車・バスなどが定期的に）運行する：

Heute geht kein Zug mehr.

- ⑧《方向の語句と》(窓・戸などが～の)方に向いている、
(～に)面している：

Das Fenster geht auf den Garten.

- ⑨《方向の語句と》(～に)達する：

Der Rock geht bis an die Knien <bis zu den Knien>.

- ⑩ <über et4> (…4を) 超える：

Das geht über seine Kräfte.

- ⑪ <gegen j4/et4> (非難などが…4に) 向けられている；
(原則など4に) 反する：

Dieser Vorwurf geht gegen dich.

- ⑫《口語》《方向・場所の語句と》(～に) 入る；
(ひっからずに～を) 通る：

In diesen Saal gehen 400 Menschen.

- ⑬ (機械などが) 作動する、機能する：

Die Uhr geht richtig.

- ⑭ (風などが) 吹く； (ドアなどが) 動く：

Der Wind geht stark.

- ⑮《状態の語句と》(事が～の状態) 経過する：

Das Geschäft geht gut.

- ⑯ (事が) なんとかうまくいく、可能である：

Das geht nicht.

- ⑰ <vor sich> (事が) 進展する：

Wie geht das vor sich ?

◆《非人称》es geht j3 ～

Wie geht es dir?

! es geht

Wie hat dir der Film gefallen ? — Es geht !

gelangen

- ①《方向の語句と》(～に) 達する、届く：

Durch diese Straße gelangt man zum Bahnhof.

- ② <zu et3> (…3を) 獲得するに到る：

Er gelangte zu Ruhm.

- ③ <zu et3> (…3) されるに到る

(☆ zu の後ろに動作名詞を伴い、受動の意味になる)：

Der Vertrag gelangt morgen zum Abschluß.

gelingen

〈j3〉(…に) 成功する：

Ihm gelingt alles, was er anfängt.

！《zu不定句を主語にして》

Es ist mir gelungen, ihn zu überzeugen.

geraten

①《方向の語句と》(予期しない状態へ) 陥る；

(予期しないことに) 巻き込まれる：

Er gerät in Angst.

②《方向の語句と》(予期しないところへ) 入りこむ：

Wohin bin ich hier geraten?

③(料理などが) うまくゆく、成功する：

Der Kuchen ist gut geraten.

④(実などが) よく実る、(子供が) よく成長する：

Das Getreide ist gut geraten.

⑤〈nach j3〉(…に) 似てくる：

Das Kind ist nach dem Vater geraten.

geschehen

①(事が) 起こる、生じる：

Es ist ein Unglück geschehen.

②〈j3〉(…の) 身にふりかかる、起こる：

Dem Kind ist bei dem Unfall nichts geschehen.

③(事が) なされる(☆しばしば話法の助動詞を伴い)：

Es muß doch etwas geschehen.

④《非人称；es geschieht um et4 の形式で》(…が) 失われる：

Jetzt ist es um seine Ruhe geschehen.

gleiten

①《場所の語句と》(～を) すべる、すべって行く：

Er gleitet mit Schlittschuhen übers Eis.

②《場所の語句》(～から) すべり落ちる：

Er glitt aus dem Sattel.

【H】

hauen

〔完了haben〕

①《まれに不規則変化；口語》〈j3〉《方向の語句と》（…3の～を）なぐる：

Er hat ihr ins Gesicht gehauen.

②《口語》〈auf j4〉（…4に）〔武器などで〕なぐりかかる：

Die Polizisten hieben mit dem Schlagstock auf die Demonstranten.

③《まれに不規則変化》《口語》〈auf et4〉（…4の上を）叩く：

Er haut mit der Faust auf den Tisch.

④〔完了sein〕〈an et4/auf et4〉（…4に）〔ころんで〕ぶつける：

Er ist mit dem Kopf an die Wand ?gehaut.

heilen

（傷・病気が）治る：

Die Wunde ist von selbst geheilt.

herauskommen

①〔中から外へ〕出て来る：

Die Schüler kommen aus der Klasse heraus.

②（新製品が）市場に出る；（新しい作品が）発表される：

Wann soll der neue Wagentyp herauskommen?

③（音・映像などが）はっきり出る：

Die tiefen Töne kommen bei diesem Apparat nicht gut heraus.

④〈bei et3〉（…3において…の）結果になる：

Bei der Addition kommt eine hohe Summe heraus.

⑤（くじが）当たる：

Meine Losnummer ist herausgekommen.

⑥《口語》〈mit et3〉（…3を）言い出す：

Endlich kam er mit der Wahrheit heraus.

⑦《口語》（隠し事などが）漏れる、露見する：

Wenn das herauskommt,...

⑧《口語》《様態の語句と》（発言などが～の形で）表現される：

Der Vorwurf kam zu scharf heraus.

hereinkommen

〔こちらへ〕入って来る：

Wie bist du hereingekommen?

herkommen

① こちらへ来る：

Komm einmal her!

② 《場所の語句と》（～に）由来する、（～の）出である：

Wo kommen Sie her?

hervortreten

① 《場所の語句と》（～から）歩み出て来る、出現する：

Er trat aus dem Dunkel hervor.

② 〔不自然に〕突き出る：

Die Adern traten an seinen Schläfen dick hervor.

③ <mit et4>（…3で）世間にデビューする、有名になる：

Er ist kürzlich mit einem neuen Roman hervorgetreten.

hetzen

① 〔完了sein〕急ぐ、急いで行く：

zum Bahnhof hetzen

② 〔完了haben〕扇動する、けしかける：

Er hetzt gegen den Chef.

hinausgehen

① 歩いて外に出て行く：

Geh hinaus!

② 《方向の語句と》（～に）面している：

Das Fenster geht nach Süden hinaus.

③ <über et4>（…4を）越えている：

Das geht über meine Kräfte hinaus.

hinfallen

倒れる、転倒する：

Er rutschte aus und fiel hin.

hingehen

①〔あるところに〕行く：

Wir wollen zu ihm hingehen.

②〔時が〕過ぎ去る：

Das Jahr ging hin, ohne daß etwas geschah.

③《口語》我慢できる程度である：

Seine Leistungen gehen gerade noch hin.

hinken

①〔完了haben〕びっこをひく：

Seit seinem Unfall hinkt er.

②〔完了sein〕(ist)《方向の語句と》(～に)びっこをひいて行く：

Nach dem Sturz ist er zum Arzt gehinkt.

③〔完了haben〕適切でない：

Der Vergleich hinkt.

hüpfen

びよんびよん跳ぶ：

Das kleine Mädchen hüpfte auf einem Bein.

【I】

irren

①〔完了sein〕《方向の語句と》(～を)〔当てもなく〕さまよう：

Sie irrten von einem Ort zum andern.

②〔完了haben〕思い違いをする：

Jeder kann mal irren.

【J】

jagen

①〔完了haben〕狩りをする：

Er jagt zur Zeit in Afrika.

②〔完了sein〕《方向の語句と》(～へ)急ぐ、疾走する：

Er ist auf dem Rad zum Bahnhof gejagt.

③〔完了haben〕〈nach et3〉(…3を)追い求める：

Er jagte sein Leben lang nach Ruhm.

【K】

keuchen

① あえぐ、息をきらす：

Er keuchte unter der Last.

② 《方向の語句と》（～を）あえぎながら行く：

Wir keuchten über den Berg.

klettern

① よじ登る<降りる>（☆方向の語句によって動きが上方か下方かが決まる）：

auf den Baum klettern

aus dem Bett klettern

② （気圧計・物価などが）上昇する：

Die Preisen klettern.

knicken

へし折れる：

Beim Sturm knickten die Bäume wie Strohhalme.

kommen

① 〔話し手のところへ〕来る：

Er ist mit dem Zug gekommen.

② 収容される：

Er kommt in die Nervenheilanstalt.

③ （季節などが）やって来る；（夜明けなどが）訪れる：

Der Winter kommt jetzt mit Riesenschritten

④ 《口語》（物が）置かれる、しまわれる：

Das Geschirr kommt in den Schrank.

⑤ （物が）届く、届けられる；置かれる：

Für dich ist ein Brief gekommen.

⑥ 現れる、生じる：

Die Sonne kommt durch den Nebel.

⑦ 続いて現れる：

Die Hauptsache kommt noch.

⑧ 由来する：

Sein Kopfweh kommt vom Wetterumschwung.

⑨ <in et4> (…4の状態に) 落ちいる、到る：

Er kam in höchste Gefahr.

⑩ <zu et3> (…3に) 到る、(…3を) 手に入れる：

Er kam zur Erkenntnis, daß..

！《非人称で》

Es kommt bald zum Streit.

⑪ <um et4> (…4を) 失う：

Er ist um sein Vermögen gekommen.

⑫ <auf et4/hinter et4> (…4に) 思い出す、思いつく、気づく：

Ich kam nicht auf seinen Namen.

⑬ <j3> 《様態の語句と》 (…3に～のように) 思える：

Die Einladung kommt mir etwas zu spät.

⑭ 《方向の語句+ zu 不定句と》 (～ということに) なる：

Ich kam zwischen die beiden zu sitzen.

krachen

①〔完了haben〕 (メリメリ、バリバリ) 音をたてる：

Die Dielen krachten bei jedem Schritt.

②〔完了haben〕 突然轟音をたてる：

Der Donner kracht.

③〔完了sein〕 《方向の語句と》 (～に) ドシンと音をたててぶつかる：

Der Wagen krachte gegen eine Mauer.

！《非人称で》

Es hat gekracht.

kriechen

① 這う、這って行く：

Eine Schlange kriecht.

② (乗り物が) 這うように進む：

Der Zug kriecht auf den Berg.

【L】

landen

① (飛行機などが) 着陸する、着地する (反 starten)：

Das Flugzeug ist soeben gelandet.

② (船などが) 接岸する ; (人が) 上陸する :

Das Schiff landete pünktlich im Hafen.

③ 《口語》《場所の語句と》(～に) 行き着く :

Schließlich landete ich im Kino.

laufen

自

① 走る、かける :

Sie lief, so schnell sie konnte.

② 《口語》歩く、散歩する :

Das Kind kann noch nicht laufen.

③ 《方向の語句と》(～の方へ) 動く、(乗り物が～へ) 移動する :

Das Schiff läuft in den Hafen.

④ 流れる :

Das Regenwasser lief in den Keller.

⑤ (容器が) 漏る :

Der Wasserhahn läuft.

⑥ (機械などが) 動く、作動する :

Der Motor läuft ruhig.

⑦ (映画が) 上映中である :

Welche Filme laufen zur Zeit im Kino ?

⑧ (事態が) 進展する、進行中である :

Die Sache läuft nach Plan.

⑨ (契約などが) 有効である :

Der Vertrag läuft zwei Jahre [lang] .

【M】

marschieren

行進する、行軍する (☆特に軍隊に関して) :

Die Soldaten marschieren über die Brücke.

mißlingen

(計画などが) 失敗する (反 *gelingen*) :

Der Versuch ist mißlungen.

mitgehen

① 一緒に行く：

Darf ich mitgehen ?

② (授業・講演などを) 関心を持って聞く、魅了される：

Die Zuschauer gingen begeistert mit.

mitkommen

① 一緒に来る：

Warte, ich komme noch bis zum Bahnhof mit !

② 《口語》〔遅れないで〕ついて行く：

Sie gehen so schnell, ich komme nicht mit.

【N】

nachgehen

① (時計が) 遅れる (反 vorgehen)：

Die Uhr geht drei Minuten nach.

② <j3/et3> (…3の) 後をついて行く、跡を追う：

Er ist der Spur im Schnee nachgegangen.

③ <et3> (問題など3を) 究明しようとする：

Er ging diesem Problem nach.

④ <et3> (仕事などに) 専念する：

Er geht nur seinem Vergnügen nach.

⑤ <jt3> (出来事などが…3の) 心に残る：

Seine Worte gehen ihr lange nach.

nachkommen

① 後から来る <行く>：

Geht schon voraus, ich komme gleich nach.

② 〔遅れずに〕ついて行く：

Bei diesem Tempo kann ich nicht mehr nachkommen.

③ <et3> (命令・義務など3を) 守る、(要求など3を) 満たす：

Ich kann seinen Forderungen nicht nachkommen.

nahe

近づく：

Der Sommer nahte [sich4] schon seinem Ende.

【P】

passieren

① (不幸な出来事などが) 起こる:

Dort ist ein Unglück passiert.

② <j3> (…3の) 身にふりかかる:

Mir ist etwas Unangenehmes passiert.

plätschern

① [完了 haben] (水などが) びちゃびちゃ音を立てる:

Die Wellen plätschern.

② [完了 sein] (小川などが) さらさら流れる:

! Der Bach plätschert durch die Wiese.

③ [完了 haben] (水の中で) びちゃびちゃする:

Die Kinder plätscherten in der Badewanne.

platzen

① 破裂する、爆発する; (縫い目が) ほころびる:

Ein Luftballon platzt.

② 《口語》 (計画などが) だめになる:

Unser Urlaub ist geplatzt.

【R】

radfahren

① [完了sein] 自転車に乗る:

Sie fährt gern Rad.

② [完了haben/sein] 《俗》上役にベコベコする.

ragen

[完了haben/sein]

そびえる:

Der Turm ragt stolz zum Himmel.

rasen

① [完了sein] 《口語》疾走する、ばく進する:

Das Auto ist gegen eine Baum gerast.

② [完了haben] 怒り狂う、暴れる:

Er hat vor Zorn gerast.

rauschen

①〔完了haben〕（小川・風などが）ザワザワ音を立てる：

Die Blätter rauschen im Wind.

②〔完了sein〕《方向の語句と》（～へ）ザワザワと音を立てて動く＜流れる＞：

Das Wasser rauscht in die Wanne.

regnen

①〔完了haben〕《非人称》雨が降る：

Es regnet in Stroömen.

！《方向の語句と》

Es regnet an die Fenster.

！《Es regnet et4 の形式で；…4が雨のように降る；殺到する》：

Es regnete Steine.

②〔完了sein〕雨のように降る（☆物を主語にして）：

Blüten sind vom Baum geregnet.

reifen

①（果実などが）熟す：

Die Äpfel reifen.

②（人が）成熟する：

Er ist durch die Erlebnisse gereift.

③（計画などが）具体化する：

Langsam reifte in ihm der Gedanke auszuwandern.

④《非人称》霜が降りる：

Heute nacht hat es gereift

reisen

旅行する、旅をする：

Sie ist viel gereist.

reißen

①〔完了sein〕裂ける、切れる、ちぎれる：

Das Papier reißt leicht.

②〔完了haben〕<an et3>(…3を)引っ張る:

Der Hund reißt heftig an der Leine.

reiten

〔完了sein/haben〕

①〔動物、特に馬に〕乗る:

Er ist/hat früher viel geritten.

rennen

〔完了haben/sein〕

① 走る:

Er rannte zur Polizei.

②《方向の語句と》(～に)ぶつかる:

Er rannte gegen einen Laternenpfahl.

rollen

〔完了sein〕

① 転がる:

Die Kugel rollt.

②《方向の語句と》(～へ)転がって行く:

Der Ball ist auf die Straße gerollt.

③《方向の語句と》(車輪の付いた乗り物が)

ゆっくり進行する:

Das Flugzeug rollt in die Startposition.

④〔完了haben〕(船が)ローリングする:

Das Schiff rollt.

⑤〔完了haben〕(雷鳴などが)とどろく:

Der Donner hat gerollt.

rücken

〔完了sein〕

① 少し動く、ずれる:

Können Sie ein bißchen nach links rücken?

②〔完了haben〕<an et3>(…3を)ちょっと動かす、ずらす:

Er rückt an dem Zeiger der Uhr.

③《方向の語句と》(軍隊が)移動する:

Die Truppen rücken ins Feld.

rudern

〔完了sein/haben〕

① ボートをこぐ：

Sie ist gestern über den See gerudert.

② (水鳥が) 泳ぐ：

Die Ente rudert mit ihren Füßen.

rutschen

① すべる、スリップする：

Er ist auf dem Schnee gerutscht.

② すべり落ちる；ずり落ちる：

Das Kind rutschte vom Stuhl.

③ 《口語》わきへ動く、席をつめる：

Könnt ihr ein wenig rutschen ?

④ 《口語》小旅行をする。

rütteln

① 〔完了 haben〕 〈an et3〉 (…3を) 揺する：

Er rüttelte ungeduldig an der Tür.

② 〔完了 haben〕 がたがた揺れる (☆ 物を主語にして)：

Der Wagen hat auf dem holprigen Pflaster gerüttelt.

③ 〔完了 sein〕 がたがた揺れながら行く：

Der Wagen ist über das holprige Pflaster gerüttelt.

【S】

sausen

① 〔完了haben〕 (ザワザワなどと) 音を立てる：

Der Wind saust in den Bäumen.

！ 《非人称で》

Es sauste mir in den Ohren.

② 〔完了sein〕 うなりをあげて進む：

Die Kugel sauste durch die Luft.

schaukeln

①〔完了haben〕ぶらんこで遊ぶ：

Die Kinder schaukelten auf dem Hof.

②〔完了haben〕（左右前後に）揺れる；身体を揺り動かす：

Das Boot schaukelt auf den Wellen.

! im Schaukelstuhl schaukeln

③〔完了sein〕揺れながら進む：

Der Wagen schaukelte über die holprige Straße.

scheitern

〔完了 sein〕

失敗する、挫折する、不成功に終わる（☆ 人も事も主語になる）：

Das Experiment scheitert.

schieben

①〔完了haben〕＜mit et3＞（…3を）やみで取引する：

Er schiebt mit Waffen.

②《口語》〔完了sein〕〔足をひきずるようにして〕のそのそ歩く.

schießen

①〔完了haben〕〔銃などで〕撃つ、射撃する；〔弓などで〕射る：

Er schießt gut.

②〔完了 sein〕勢いよく進む、飛び出す＜上がる＞：

Eine Rakete schießt in die Luft.

③〔完了 sein〕（水などが）ほとぼしる：

Das Wasser schießt aus der Leitung.

③〔完了sein〕 勢いよく成長する：

Die Pilze schossen in einer Nacht aus dem Boden.

schlagen

①〔完了haben〕たたく、うつ、なぐる：

auf den Tisch schlagen

②〔完了haben〕＜mit et3＞（羽・手足など3を）ばたばた動かす：

Der Vogel schlägt mit den Flügeln.

③〔完了haben〕（脈が）打つ；（心臓が）鼓動する：

Der Puls hat heftig geschlagen.

④〔完了haben〕（さよなき鳥などが）さえずる、鳴く：

Die Nachtigallen schlagen die ganze Nacht.

⑤〔完了haben〕（時計などが）時を打つ：

Die Uhr schlägt richtig.

！《非人称で》Es schlägt neun.

⑥〔完了sein〕（人が）ぶつかる：

Er ist mit dem Kopf gegen die Tür geschlagen.

⑦〔完了haben/sein〕（物が）打ちつける、打ち当たる：

Die Wellen schlagen ans Ufer.

⑧〔完了haben〕〔当たって〕がたがた音を立てる：

Das Fenster schlägt im Wind.

⑨〔完了sein〕突然生じる：

Die Röte schlug ihr ins Gesicht.

⑩〔完了sein〕<nach j3>（…3に）似て来る、似る：

Er ist ganz nach seinem Vater geschlagen.

⑪《口語》〔完了sein〕<j3 auf et4>（…3の内臓など4に）ダメージを与える、こたえる：

Die Nachricht ist ihm auf den Magen geschlagen.

schleichen

そっと歩く、音を立てずに動く：

Die Schnecke schleicht.

schlüpfen

① するりと入る<出る>、すり抜ける：

Die Maus schlüpft ins Loch.

②<in et3>（衣類3を）さっと着る、（靴3を）履く：

Er schlüpfte in den Mantel<in die Schuhe>.

③<aus et3>（衣類・靴3を）さっと脱ぐ：

Er schlüpfte aus dem Mantel<aus den Schuhen>.

schmelzen

（熱で）解ける、溶解する：

Das Eis ist in der Sonne geschmolzen.

schneien

①〔完了haben〕《非人称》雪が降る：

Es schneit ununterbrochen.

②〔完了sein〕（雪のように）舞い落ちる：

Die Blütenblätter schneiten von den Bäumen.

schrecken

驚く：

Er schreckt/schrickt aus dem Schlaf.

schwanken

①〔完了haben〕 揺れる：

Die Gläser schwanken im Wind.

②〔完了haben〕 決心がつかない：

Ich schwanke noch, ob ich es tun soll.

③〔完了sein〕《方向の語句と》（～へ）よろめきながら行く<来る>：

Der Betrunkene schwankte aus der Kneipe<nach Hause>.

schwärmen

①〔完了haben〕 群がる、群れをなす：

Die Mücken schwärmen um die Laterne.

②〔完了sein〕 集団で歩いて行く：

Die Wanderer sind durch den Wald geschwärmt.

③〔完了haben〕 <für et4/j4>（…4に）熱中する、心酔する：

Er schwärmt für Blondinen.

④〔完了haben〕 <von et3>（…3のことを）夢中になって話す：

Sie schwärmten von Wien.

schweben

①〔完了haben〕（空中などを）漂う、浮かぶ：

Wolken schweben am Himmel.

②〔完了sein〕《方向の語句と》（～へ）漂って<浮かんで>いく：

Wolken schweben nach Süden.雲が南に流れている

③〔完了haben〕《場所の語句と》（～に）宙吊りになっている：

Die Gondel schwebt an einem Seil über dem Abgrund.

④〔完了haben〕《状態の語句と》（～の状態に）ゆれている：

Er schwebt noch in Lebensgefahr.

⑤〔完了haben〕（手続き・事件などが）進行中<係争中>である：

Die Sache schwebt noch.

schwellen

① 腫れる、ふくらむ：

Die Füße schwellen.

schwerfallen

<j3> (…3にとって) つらい、困難である：

Die Arbeit ist ihm schwergefallen.

schwimmen

① 〔完了 sein/haben〕 泳ぐ：

Er hat/ist zwei Stunden geschwommen.

② 〔完了 sein〕 泳いで行く；競泳に出る：

Er ist über den Fluß geschwommen.

③ 〔完了 haben〕 〔水に〕 浮く、浮かんでいる：

Kork schwimmt.

④ 〔完了 sein〕 漂う、浮遊する、浮んで行く：

Die Leiche ist stromabwärts geschwommen.

⑤ 《口語》 〔完了 haben〕 水浸しになる：

Der Fußboden schwamm.

⑥ 〔完了 sein〕 <in et3> (…3に) したっている：

Sie schwimmt im Glück.

⑦ 《口語》 〔完了 sein/haben〕 (芝居・試験などで)

しどろもどろになる：

Der Schauspieler ist heute geschwommen.

schwinden

① (除々に) 減る、無くなる：

Die Vorräte schwinden.

② (時間が) 過ぎ去る：

Der Sommer schwindet.

③ 《方向の語句と》 (～から) 消えて行く：

Sein Name ist mir aus dem Gedächtnis geschwunden

schwingen

①〔完了haben〕 振れ動く、揺れる：

Das Pendel schwingt hin und her.

②〔完了sein/haben〕〈in et3〉(…3の中に) 響く：

In seinen Worten schwingt Angst.

segeln

①〔完了sein〕 帆走する：

Er segelt den ganzen Vormittag.

②〔完了sein/haben〕《方向の語句と》(～へ) 帆走して行く：

Er ist nach Italien gesegelt.

③〔完了sein/haben〕 グライダーで滑空する (= segelfliegen)：

stundenlang segeln

④〔完了sein〕 (鳥が) 滑るように飛ぶ：

Der Adler segelt hoch in der Luft.

sein

①《名詞的述語と》(…で) ある：

Er ist ein guter Arzt.

Es ist 3 Uhr.

②《形容詞的述語と》(…で) ある：

Dieser Platz ist frei.

Es ist mir kalt.

③《前置詞句的述語と》(…で) ある：

Er ist ohne Arbeit.

④ 存在する：

Gott ist.

⑤《場所の語句と》(…に) いる、ある：

Er ist in Berlin.

⑥《zu 不定句と》(可能性を表して) …されうる；(必然性を表して)

…されねばならない：

Das Buch ist leicht zu lesen.

setzen

〔完了sein/haben〕

①〈über et4〉(…4を) 飛び越す、飛び越える：

Das Pferd setzt über den Graben.

② <über et4> (川など4を) [ボートなどで] 渡る :

über den Rhein setzen

sinken

① (ゆっくりと) 下降する, 下がる :

Der Ballon sinkt allmaehlich.

② (船・天体などが) 沈む :

Das Boot ist gesunken.

③ 崩れ落ちる :

Sie sank ohnmaechtig zu Boden.

④ (度量・価値が) 下がる、減る (反 steigen) :

Die Preise sinken.

sitzen

[完了haben/sein]

① (人が) すわっている :

Er sitzt bequem in einem Sessel.

② (鳥が) とまっている :

Auf dem Baum sitzt eine Amsel.

③ 《口語》 刑務所に入っている :

Er hat jahrelang gesessen.

④ 《口語》 《場所の語句と》 (～に) 住み着いている :

Wir sitzen seit Jahren auf dem Lande.

⑤ 《場所の語句と》 (～のところに) ある ; 取りつけられている :

Die Haken sitzen zu hoch.

⑥ 《場所の語句と》 (～の) 議席を持っている :

Er sitzt im Parlament.

⑦ 《口語》 しっかり暗記されている :

Der Text sitzt jetzt endlich.

⑧ (服装などが) ぴったり合う :

Der Anzug sitzt gut.

⑨ 正しい位置にある :

Die Schrauben sitzen noch nicht.

⑩ 《口語》 (射撃などが) 命中する :

Der Schlag auf die Backe saß.

⑪ (めんどりが卵を) 抱いている :

Die Henne sitzt.

sitzenbleiben

〔完了sein〕《口語》

① 落第する：

Er ist zweimal sitzengeblieben.

② 〈結婚相手が見つからず〉売れ残る：

Die älteste Tochter blieb sitzen.

③ 〈auf et3〉(…3の) 買い手が見つからない：

Der Kaufmann ist auf seiner Ware sitzengeblieben.

spazierengehen

散歩をする：

Wir gehen jeden Tag spazieren.

springen

〔完了sein/haben〕

① 〔完了sein〕 跳ぶ、はねる：

Die Katze sprang vom Dach.

② 〔完了sein〕 はずむ、とびはねる：

Der Ball springt gut.

③ 〔完了sein〕 〈aus et3〉(…3から) 湧き出る、とび散る：

Eine Quelle springt aus dem Felsen.

④ 〔完了sein〕 〈von/aus et3〉(…3から) 突然とれる、はずれる：

Der Knopf sprang von der Jacke.

⑤ 〔完了sein〕 (特に陶器が) 割れる、ひびが入る：

Die Schüssel ist gesprungen.

⑥ 〔完了sein〕 《口語》 急いで行く：

Bitte spring rasch zum Bäcker!

spritzen

① 〔完了sein/haben〕 噴出する、ほとぼしる：

Das Fett hat gespritzt.

② 〔完了haben〕 水をはねかける：

im Wasser spritzen

③ 〔完了sein〕 《口語》《方向の語句と》(～へ) 急いで行く：

Ich spritze mal zum Bäcker.

④〔完了haben〕《非人称；口語》霧雨が降る：

Es spritzt nur ein bißchen.

spülen

①〔完了sein／haben〕《方向の語句と》（～へ）打ち寄せる：

Hin und wieder spülte eine Welle ans Ufer.

②〔完了haben〕〔トイレで〕水を流す：

Vergiß nicht zu spülen !

stampfen

①〔完了haben〕ドシンドシンと足踏みをする：

Er stampfte vor Zorn mit dem Fuß<mit den Füßen> auf den Boden.

②〔完了sein〕《方向の語句と》（～へ）ドシンドシン音を立てながら動く：

Er stampfte durchs Zimmer, daß die Wände wackelten.

③〔完了haben〕（機械などが）ドスンドスンと規則的に音を立てながら動く：

Die Maschine stampfte.

starten

①《スポーツ》スタートをする；レースに出場する：

bei einem Wettkampf starten

②（飛行機が）離陸する；（ロケットが）発射される：

Das Flugzeug ist pünktlich gestartet.

steckenbleiben

はまり込んで動けない、ひっかかって取れない：

Der Wagen ist im Schlamm steckengeblieben.

stehen

〔完了haben／sein〕

①（人が）立っている：

Das Kind kann schon allein stehen.

②（物が）立ててある、建っている：

Die Flasche soll stehen, nicht liegen.

③《様態の語句と》(…の)状態である：

Die Weiche steht falsch.

④(機械などが)止まっている：

Die Uhr steht.

⑤書きとめてある、書かれてある：

Sein Name steht nicht in der Liste.

⑥<j3>(…3に)似合う、ふさわしい：

Das Kleid steht dir schlecht.

⑦<bei j3>(…3)次第である：

Die Entscheidung darüber steht ganz bei Ihnen.

⑧<mit j3>(…3との)関係は(…)だ：

Wie stehst du mit dem Chef?

⑨<zu j3/et3>(…3の)側につく、(…3を)守る；
(…3に対して)ある意見を持っている：

Er steht auch jetzt noch zu ihm.

⑩<es steht mit j3/et3 (マタハ um j4/et4)>

《様態の語句と》(…3/4に関して)状態は(…)だ：

Es steht nicht zum besten mit seiner Gesundheit.

stehenbleiben

①(人が)立ち止まる：

Sie bleibt vor jedem Schaufenster stehen.

②(機械などが)止まる、動かなくなる：

Plötzlich ist die Uhr stehengeblieben.

③置いたままにしておく、置き忘れられる：

Hier ist ein Schirm stehengeblieben.

④そのまま残しておく；そのまま残っている：

Hier kann der Wagen aber nicht stehenbleiben.

steigen

①(歩いて)登る：

auf einen Berg steigen

②《方向を表す語句と》

a.《到着点を表す語句と》

(…へ)乗る，入る：

aufs Fahrrad steigen

b. 《出発点を表す語句と》（… から）降りる、出る；

aus dem Zug steigen

③（空中を）上昇する、上がる；

Der Ballon steigt immer weiter.

④（涙などが）溢れる；

Die Tränen steigen ihr in die Augen.

⑤（数値・程度が）上がる、高まる（反 fallen）；

Die Preise steigen.

⑥＜in et3＞（…において）上がる、高まる：

Das Grundstück steigt im Wert.

sterben

① 死ぬ、死亡する：

Er ist gestern nacht gestorben.

② ＜für j4/et4＞（…4のために）命を投げ出す：

für das Vaterland sterben

③（文化・自然が）滅びる、（植物が）枯れる：

Die Bäume sterben.

steuern

①《方向の語句と》（船などが）（～の方向へ）進む：

Die Jacht steuert in den Hafen.

②《口語》《方向の語句と》（～に向かって）進む：

Er ist zum Ausgang gesteuert.

stolpern

① つまずく：

Er stolperte und fiel hin.

②《方向の語句と》（～へ）よろめきながら行く：

Er stolperte zum Ausgang.

③ ＜über et4＞（表現4が）理解できず詰る：

Er ist über ein Wort gestolpert.

stoßen

①〔完了haben〕＜auf j4/et4＞（…4に）偶然にでくわす：

In der Stadt stieß er zufällig auf einen alten Bekannten.

②〔完了sein〕〈an/gegen et4〉(…4に) ぶつかる：

Ich bin an den Stuhl gestoßen.

③〔完了haben〕(動物が) 角で突く：

Die Kuh stößt mit den Hörnern nach ihm.

④〔完了sein〕〈zu j3〉(…3に) 合流する：

Wir werden wieder zur Gruppe stoßen.

⑤〔完了sein〕〈auf et4〉(…4に) 突き当たる、通じている：

Die Straße stößt auf den Marktplatz.

⑦〔完了haben〕〈an et4〉(…4に) 接している：

Sein Zimmer stößt an den Garten.

streben

①〔完了sein/haben〕《方向の語句と》(～へ) ひたすら進む：

Sie strebten nach Hause.

②〔完了haben〕〈nach et3〉(…3を) 求める：

Er hat immer danach gestrebt, seinem Leben einen Sinn zu geben.

streichen

①〔完了haben〕《方向の語句と》(～を) なでる：

Die Mutter strich dem Kind über den Kopf.

②〔完了sein〕《方向の語句と》(…を) うろつく、さすらう：

Die Katze strich ihm um die Beine.

④〔完了sein〕《方向の語句と》(…へ) 延びている：

Das Gebirge streicht von Osten nach Westen.

strömen

①〔液体・気体が〕勢いよく流れる：

Wasser strömte aus der Leitung.

②〔人々が〕いっせいに入って<出て>行く：

Die Menschen strömen aus dem Kino<in den Saal>.

stürzen

①〔勢いよく〕落ちる、転落する、墜落する：

Das Flugzeug stürzte ins Meer.

②〔勢いよく〕転ぶ、転倒する：

Er ist auf der Treppe gestürzt.

③ (水などが) 勢いよく流れ落ちる:

Das Wasser stürzt über die Felsen.

④ 《方向の語句と》 (～へ) 突進して行く; 飛び出す、飛び込む:

Er ist aus dem Haus gestürzt.

⑤ (岩壁などが) 急な下り傾斜になっている:

Die Felsen stürzten steil ins Meer.

【T】

tanzen

〔完了haben/sein〕

① 踊る、ダンスをする:

Sie haben die ganze Nacht getanzt.

② 〔完了sein〕 (踊るように) はね回る:

Die Kinder tanzten vor Freude durch das Zimmer.

tauchen

① 〔完了sein/haben〕 水中に潜る:

Die Ente taucht.

② 〔完了sein〕 〈in et4〉 (…4へ) もぐる:

ins Wasser tauchen

③ 〔完了sein〕 〈aus et3〉 (…3から) 浮び上がる:

Das U-Boot ist aus dem Wasser getaucht.

tauen

① 〔完了haben〕 《非人称》 露がおりる:

Heute nacht hat es getaut.

③ 〔完了sein〕 (雪・氷などが) 溶ける:

Das Eis ist getaut.

! 《非人称で》

Es hat heute getaut.

toben

① 〔完了haben〕 (自然が) 荒れ狂う:

Das Meer tobt.

② 〔完了haben〕 (子供などが) 騒ぐ:

Sie haben den ganzen Tag getobt.

③〔完了sein〕《方向の語句と》（～を）はしゃぎ回る：

Sie sind durch den Garten getobt.

③〔完了haben〕 暴れる；熱狂する：

Die Menge tobte vor Begeisterung.

treffen

①〔完了haben〕（弾などが）当たる、命中する：

Der erste Schuß hat nicht getroffen.

②〔完了sein〕 <auf j4/et4>（…4に）出会う、遭遇する、ぶつかる：

Sie trafen auf starken Widerstand.

treiben

〔完了sein/haben〕

①《場所の語句と》（～を）漂う、流される：

Das Boot treibt auf dem Fluß.

②（植物が）発芽する、（芽が）出る；（酵母などが）発酵する：

Die Knospen treiben.

treten

①〔完了sein〕《方向の語句と》（～へ）歩いて行く＜歩み出る＞：

Er tritt ans Fenster.

②〔完了sein/haben〕《方向の語句と》（～を）〔無意識に〕踏む、踏み入れる、踏みつける：

Er ist auf seine Brille getreten.

③〔完了haben〕 <auf et4>（…4を）〔意識的に〕踏む：

auf das Gaspedal treten

④〔完了haben〕 <gegen/an/in et4>（…4を）蹴る：

Er trat voller Wut gegen die Tür.

⑤〔完了haben〕 <nach j3>（…3に向かって）蹴る：

Das Kind hat nach mir getreten.

⑥〔完了haben〕（馬などが）蹴る：

Vorsicht, das Pferd tritt!

⑦〔完了sein〕 <j3>《方向の語句と》（…3の～に）浮かぶ：

Der Schweiß trat ihm auf die Stirn.

⑧〔完了sein〕 <in et4>（…4に）入る：

Er tritt heute in sein 40. Lebensjahr.

trocknen

〔完了sein/haben〕

乾く：

Die Wäsche ist/hat schnell getrocknet.

tropfen

①〔完了sein〕（液体が）したり落ちる：

Das Blut tropfte auf den Boden.

②〔完了haben〕（水道栓などが）滴をたらす：

Der Wasserhahn tropft.

turnen

〔完了haben〕

① 体操をする：

Er turnt gut.

③〔完了sein〕《方向の語句と》（子供たちが～へ）敏捷な身のこなしで進む：

Die Kinder turnten auf den Baum.

④〔完了haben〕《場所の語句と》（子供たちが～を）走り回る：

Die Kinder turnten am Gelände.

【U】

übereinkommen

〔完了sein〕

<mit j3> 《zu 不定句》（…3と～で）意見が一致する：

Ich bin mit ihm übereingekommen, die Zusammenarbeit zu erweitern.

übergehen

〔分離〕

①《方向の語句と》（向こう側へ）移る：

ins feindliche Lager übergehen

②<in et4>（…4の）所有に移る：

Das Geschäft ist in andere Hände übergegangen.

③<zu et3>（…3へ）移行する：

Man geht zur Automatisierung über.

④ <in et4> (…4の) 状態へ除々に変化する：

Das Fleisch ist in Fäulnis übergegangen.

übrigbleiben

残っている、余っている：

Von dem Geld ist nichts übriggeblieben.

umdrehen

〔完了sein/haben〕向きを変える、Uターンする：

Wir drehten um.

umgehen

《分離》

① (病気などが) 広がる, (うわさなどが) 広まる：

Die Grippe geht um.

② (幽霊が) 出る：

Hier im Schloß sollen Gespenster umgehen.

③ <mit et3/j3> 《様態の語句と》 (…3を～に) 扱う：

Er geht mit seinen Sachen sehr liederlich um.

④ <mit et3> (計画など3を) 抱いている：

Ich gehe mit dem Gedanken um, mir ein Auto zu kaufen.

umkehren

ひき返す：

Auf halbem Wege mußten wir umkehren.

umlaufen

〔分離〕

① (紙幣などが) 出回る；(うわさ・情報が) 広まる：

Eine Menge Falschgeld läuft um.

② 回転する (☆主に現在分詞で)：

ein umlaufendes Rad

umsteigen

① 乗り換える：

Ich muß in Frankfurt umsteigen

②《口語》<auf et4> (…4に) くら替える：

Er ist auf Philosophie umgestiegen.

umziehen

〔分離〕

引っ越しをする：

Wir sind vorigen Monat umgezogen.

untergehen

①(太陽・月などが)〔水平線・地平線に〕沈む：

Die Sonne geht unter.

②(船などが)〔水中に〕沈む：

Das Boot ist untergegangen.

③ 滅亡する；墮落する：

Dieses Reich ist vor etwa tausend Jahren untergegangen.

④<et3> (…3の中に) 消えていく：

Seine Hilferufe gingen im Lärm unter.

【V】

verkehren

①〔完了haben/sein〕《状況の語句と》(バス・汽車などが～の状態で) 運行<運航>する：

Der Omnibus verkehrt alle 10 Minuten.

②〔完了haben〕<mit j3> (…3と) 交際をする：

Ich verkehre nicht mehr mit ihm.

③〔完了haben〕<in/bei et3> (…3に)〔客として〕出入りする：

Er verkehrte lange bei uns.

verlaufen

①《様態の語句と》(～の状態)経過する：

Die Reise verlief gut.

②《様態の語句と》(線状のものが～の状態)延びている：

Der Weg verläuft durch den Wald.

③《場所の語句と》(～に)消える：

Die Spur verlief im Sand.

④(絵の具・インクなどが)にじむ：

Die Tinte verläuft auf dem schlechten Papier.

verreisen

旅行に出かける、旅に出る：

Wir müssen morgen verreisen.

verschwinden

① 見えなくなる：

Die Sonne verschwand hinter den Bergen.

② なくなる、消え失せる：

Meine Handtasche verschwindet.

③ 《口語》そっと立ち去る：

Er ist gleich nach der Besprechung verschwunden.

④ 見劣りがする：

Er verschwindet neben dem Vater.

verunglücken

事故にあう、遭難する：

Beim Aufstieg auf den Eiger verunglückten zwei japanische Bergsteiger.

verzweifeln

絶望する：

Er verzweifelte am Leben.

vorausgehen

① 先に〔立って〕行く：

Ihr könnt vorausgehen, ich komme nach.

② 〈j3/et3〉(…3よりも) 以前に生じる：

Dem Streit sind mehrere Mißverständnisse vorausgegangen.

vorgehen

① 前へ〔進み〕出る：

nach der Reihe an die Tafel vorgehen

② 〈他人よりも〉先に行く：

Bitte geh schon vor, ich komme gleich nach.

③ (時計などが) 進む (反 nachgehen) :

Die Uhr geht [zehn Minuten] vor.

④ 《場所の語句と》 (〜で) 進行しつつある、起こりつつある :

Er begriff nicht, was um ihn herum vorging.

⑤ 優先する :

Die Gesundheit geht vor.

⑥ 《様態の語句と》 (〜の) 行動をとる、対処する :

Wie sollen wir hier vorgehen ?

vorkommen

① (ふつう良くないことが) 起こる :

Es ist öfter vorgekommen, daß der Motor versagt hat.

② 《場所の語句と》 (〜に) 見出される、存在する :

In dem Text kommen viele Fehler vor.

③ 《口語》 前に出る :

Sie kamen langsam vor.

④ <j3> 《様態の語句と》 (…3に〜のように) 思われる :

Dieser Mann kommt mir bekannt vor.

! 《非人称的に》

Es kam mir vor, als hätte ich das schon einmal gesehen.

vorübergehen

① <an j3/et3> (…3の側を) 通り過ぎる :

Er ist an mir grußlos vorübergegangen.

② (嵐・休暇などが) 過ぎ去っていく :

Das Unwetter wird bald vorübergehen.

【W】

wachsen

① (人・植物などが) 育つ、成長する :

Das Kind wächst im Mutterleib.

② (数量が) 増える、ふくらむ :

Sein Vermögen wächst.

③ (程度が) 激しくなる :

Sein Ärger wächst immer mehr.

wackeln

①〔完了haben〕グラグラ<ガタガタ>する：

Der Tisch wackelt.

②〔完了haben〕（体の一部を）揺する：

Wackel nicht, steh ruhig !

③〔完了haben〕<an et3<mit et3>>（…3を）揺する、振り動かす：

Er wackelt mit den Hüften.

④〔完了sein〕よろよろ歩いて行く：

Die Enten sind zum Teich gewackelt.

wandeln

〔完了sein/haben〕

ゆったり歩く：im Park wandeln

wandern

① ハイキングをする；（健康のために長い距離を）歩く：

Sie sind heute drei Stunden gewandert.

②〔目的を持たず〕歩き回る：

Sie wandert im Zimmer hin und her.

③（物が）移動する：

Die Wolken wandern am Himmel.

wanken

①〔完了haben〕揺れる、揺らぐ：

Der Turm wankte und stürzte ein.

②〔完了sein〕《場所を表す語句と》フラフラ<ヨロヨロ>歩いて行く：

Der Betrunkene wankte nach Hause.

wechseln

①〔完了haben〕変わる、変化する：

Das Wetter wechselt ständig.

②〔完了sein〕場所を変える、移る：

Sie ist auf die andere Seite der Straße gewechset.

weichen

I ①《方向を表す語句と》（…から）離れる（☆否定詞を伴う）：

Sie wich nicht vom Bett des Kranken.

② <j3/et3> (…3に) 屈して退く; 場所を譲る:

Sie wichen der Gewalt.

③ (不安・緊張などが) 消え去る; (血の気が) 失せる.

II [完了haben/sein]

(液体の中で) 柔<軟>らかくなる:

Die Erbsen müssen eigige Stunden weichen.

werden

① 《名詞的述語と》 (…に) なる:

Er wird Arzt.

② 《形容詞的述語と》 (…に) なる:

Die Milch wurde sauer.

③ <zu et3> (…3に) なる:

Er wurde zum Dieb.

④ <aus j3/et3> (…3から) 生じる:

Aus Liebe wurde Haß.

⑤ 《口語》 (思ったように) うまく進捗する:

Das Projekt wird allmählich.

【W】

wiederkommen

① 帰って来る、戻って来る; 再びやって来る:

Ich werde morgen wiederkommen.

② また戻って来る (☆ 主語は事柄):

So eine gute Gelegenheit kommt nicht wieder.

wirbeln

① [完了haben] 渦をまく:

Das Wasser wirbelt.

② [完了sein] 渦をまいて舞い上がる<流れ落ちる>:

Schneeflocken wirbeln in die Luft.

③ [完了sein] 旋回しながら<くるくる回りながら>動く:

Sie wirbelten aus dem Zimmer.

④ [完了haben] (太鼓・ドラムが) 連打される:

Die Trommel wirbelt.

wischen

①〔完了haben〕 <über et4> (…4を) さっとなでる、ぬぐう：

mit der Hand über den Tisch wischen

②〔完了sein〕《方向の語句と》(…へ) さっと移動する：

Der Hund wischte aus dem Zimmer.

【Z】

zerbrechen

割れる：

Der Teller ist zu Boden gefallen und zerbrochen.

zerfallen

①(徐々に) 崩れる；(国などが) 崩壊する：

Die alte Mauer zerfällt zusehends.

②<in et4> (部分4に) 分かれる：

Die Abhandlung zerfällt in sechs Kapitel.

zerreißen

(紙などが) やぶれる、裂ける；(糸などが) 切れる：

Das Papier zerreißt.

ziehen

①〔完了haben〕 <an et3> (…3を) 引っ張る (→ I ②を参照)：

Der Hund zieht an der Leine.

②〔完了sein〕《方向を表す語句と》(…に) (一定のテンポで) 移動する：

Demonstranten zogen zum Rathaus.

③〔完了sein〕《方向を表す語句と》(…に) 引越しをする：

Wir wollen aufs Land ziehen.

④〔完了haben〕《非人称で》隙間風が入る：

Tür zu, es zieht！ドアを閉めて、隙間風が入るよ.

⑤〔完了haben〕(茶が) 出る：

Tee ziehen lassen

zugehen

①< auf j4/et4> (…4の方に) 向って行く：

Ich ging einige Schritte auf ihn zu.

②< j3> (…3の) 手元に届く：

Der Brief ist mir gestern zugegangen.

③《非人称で；様態の語句を伴い》《物事が…の状態で》経過する：

Auf dem Fest ging es lustig zu.

④（ドアなどが）閉まる、閉じる：

Der Koffer geht nicht zu.

zurückbleiben

①《場所の語句と》（…に）とどまる、後に残る：

Sie ist allein zurückgeblieben.

②（ついて行けずに）遅れる：

Der Läufer blieb weit hinter den anderen zurück.

③（能力・発育などで）遅れている：

Das Kind ist geistig zurückgeblieben.

④（結果として）後に残る；（後遺症が）残る：

Nur die Erinnerung blieb zurück.

zurückgehen

①（出発した地点に）戻る、引き返す；（商品などが）返送される：

Ich muß noch einmal ins Hotel zurückgehen.

② 後ろへ下がる、後退する：

Sie ging zwei Schritte zurück.

③< auf et4/j4> (…4に) 源がある、由来する：

Diese Redewendung geht auf Luther zurück.

④（熱などが）下がる；（痛みなどが）引く：

Das Fieber geht nur langsam zurück.

zurückkommen

① 戻って来る、帰って来る：

Wann kommt ihr von der Reise zurück？

②< auf et4> (…4を) 再び取り上げる：

auf ein Thema zurückkommen

zurücktreten

① 後ろへ下がる；（大水が）引く：

Bitte von der Bahnsteigkante zurücktreten !

② 辞職＜辞任＞する：

Der Minister ist nicht zurückgetreten.

③＜von et3＞（契約など3を）取り消す；（要求など3を）取り下げる．

zusammenbrechen

① 崩れ落ちる、倒壊する：

Die Brücke ist zusammengebrochen.

②（人が疲労などで）倒れる（☆精神的な意味でも用いる）：

Er ist infolge Überanstrengung zusammengebrochen.

③（交通などが）麻痺する；（攻撃などが）失敗する．

zusammenschmelzen

（雪などが溶けて）少なくなる；（蓄えなどが大半）なくなる．

Der Schnee ist in der Sonne zusammengeschmolzen.

zusammentreffen

① 出会う：

Wir trafen zufällig in der Stadt zusammen.

②（出来事が）同時に起こる、かち合う．

zuvorkommen

①＜j3＞（…3に）先んじる：

Er wollte bezahlen, aber ich bin ihm zuvorgekommen.

②＜et3＞（…3が起こる前に）必要な行動をとる：

Er ist meinem Wunsche zuvorgekommen.

【前綴 ab-】

abbrechen

I 他

- ① <et4> (…4を) 折〔り取〕る：

Er bricht einen Ast ab.

- ② <et4> (建物など4を) 取り壊す、取りはらう：

Er bricht das Zelt ab.

- ③ <et4> (仕事・交渉など4を) 突然中断する；(関係など4を) 絶つ：

Er brach seinen Urlaub ab.

II 自

- ①〔完了sein〕折れて取れる：

Der Zweig ist abgebrochen.

- ②〔完了haben〕突然止まる、中断する：

Die Musik bricht ab.

abfahren

I 自〔完了sein〕

- ①(人が) 乗り物で出発する；(乗り物が) 発車する：

Der Zug fährt in vier Minuten ab.

- ②〔スキーで〕滑降する：

Er ist glänzend abgefahren.

- ③《口語》拒絶される(☆ ふつう lassen と)：

Sie hat ihn ganz schön abfahren lassen.

II 他〔完了haben〕

- ① <et4> (…4を)〔車などで〕運び去る：

Aus dem Wald hat man Holz abgefahren.

- ② <et4> (…4を)〔車で〕巡回する；くまなく旅行する

(☆ 完了の助動詞に sein も用いる)：

In seinem Urlaub hat<ist> er ganz Österreich abgefahren.

- ③ <j3 et4> (…3の身体部分4を) [車などで] ひいて切断する:

Bei dem Unfall wurde ihm ein Arm abgefahren.

- ④ <et4> (…4を) [不注意な走行で] もぎ取る:

Er fährt den Rückspiegel vom Lastwagen ab.

- ⑤ <et4> (タイヤなど4を) [走行によって] すり減らす:

Er hat die Reifen schnell abgefahren.

abfinden

I 他

<j4 mit et3> (…4に…3で) 満足してもらう、うまく片をつける:

Wir konnten ihn mit Geld abfinden.

II 再

<sich4 mit et3>

(…3で) [仕方なく] 満足する、従う:

Ich habe mich mit meinem Schicksal abgefunden.

abgeben

I 他

- ① <et4> (手紙・小包など4を) 渡す、手渡す:

Der Briefträger gibt ein Paket beim Nachbarn ab.

- ② <et4> (手荷物・服など4を) 預ける:

Er hat seinen Mantel in der Garderobe abgegeben.

- ③ <j3 et4> (…3に…4を) 分け与える:

Er gibt ihr die Hälfte davon ab.

- ④ <et4> (役職・権限4を) 譲り渡す:

Der alte Bauer hat seinen Hof an seinen Sohn abgegeben.

- ⑤ <et4> (使用した物など4を) [安く] 売る:

Wir geben einen Gebrauchtwagen billig ab.

- ⑥ <et4> (部屋など4を) 貸す:

Er gibt das Zimmer an einen Studenten ab.

- ⑦ <et4> (熱など4を) 放出する:

Der Ofen gibt nur wenig Wärme ab.

II 再 <sich4 mit j3/et3> (…3と) 関わりを持つ:

Mit diesen Leuten geben wir uns nicht ab.

abhängen

I 自《不規則変化》〔完了haben〕

- ① <von j3/et3> (…3) に依存する：
Er hängt finanziell von seinem Vater ab.
- ② <von j3/et3> (…3に) よる、左右される：
Von dieser Entscheidung hing seine Zukunft ab.
Das hängt davon ab, wieviel Zeit er hat.
- ③ (肉が食べ頃になるまで) つり下げて置かれる：
Das Fleisch muß noch einige Tage abhängen.
- ④ 〔受話器を置いて〕電話をきる：
Sie hat plötzlich abgehängt.

II 他《規則変化》

- ① <et4> (掛けてある物4を) 取りはずす：
Er hängt ein Bild von der Wand ab.
- ② <et4> (車両など4を) 切り離す：
Der Speisewagen wird in Frankfurt abgehängt.

abholen

他

- ① <et4> (持って行くように用意された物4を) 取ってくる、受け取りに行く：
Er holte die Theaterkarten an der Kasse ab.
- ② <j4> (…4と) 〔約束の場所で会い〕連れて来る、迎いに行く：
Er holt den Freund vom Bahnhof ab.

abkommen

自〔完了sein〕

- ① <von et3> (本来の方向3から) それる：
Er kommt vom Weg ab.
《比》Er ist vom Thema abgekommen.
- ② <von et3> (計画など3を) 諦める：
Er ist ganz von seinem Plan abgekommen.
- ③ (仕事などから) 手を離す：
Kannst du nicht mal für eine halbe Stunde abkommen?
- ④ (習慣などが) すたれる：
Diese Sitte ist heute ganz abgekommen.

abkürzen

他

- ① <et4> (…4を) 短縮する：

Er lief quer über die Wiese, um den Weg abzukürzen.

- ② <et4> (単語など4を) 略語化する、略語で表す：

ein Wort<einen Namen> abkürzen

ablegen

他

- ① <et4> (服・帽子など4を) 脱ぐ：

Er legte Mantel und Hut ab.

《目的語なしで》

Bitte legen Sie ab !

- ② <et4> (…4を) 〔不用になって〕脱ぎ捨てる、もはや着ない：

Sie hat die Trauerkleidung abgelegt.

《過去分詞で》

abgelegte Kleidung

- ③ <et4> (…4を) 置く、しまう：

Wo soll ich das Päckchen ablegen ?

- ④ <et4> (悪習など4を) やめる、改める：

Er hat sein schlechtes Benehmen abgelegt.

- ⑤ 《特定の名詞と》

eine Prüfung ablegen 試験を受ける

ein Geständnis ablegen 告白をする

ablehnen

他

- ① <et4> (…4を) 断る、拒絶する：

Er lehnt den Vorschlag ab.

《zu 不定詞句と》

Er lehnt es ab, mitzukommen.

- ② <j4> (…4を) 認めない：

den Richter ablehnen

abmachen

他

- ① <et4> (…4を) 取り外す：
Er macht das Schild von der Tür ab.
- ② <et4> (…4を) 申し合わせる：
einen Termin abmachen
《過去分詞で》 Abgemacht!
- ③ <et4> (…4を) 処理する：
Können wir das nicht im guten abmachen?

abnehmen

I 他

- ① <et4> (…4を) 取り外す：
den Deckel abnehmen
Er nahm die Brille ab.
den Hörer abnehmen
- ② <j3 et4> (…3から…4を) 取り上げる：
Der Polizist wollte ihm den Ausweis abnehmen.
- ③ 《口語》 <j3 et4> (…3から…4を) 〔料金として〕要求する：
Er nahm ihr für die Reparatur 100 Mark ab.
- ④ <j3 et4> (…3の荷物・負担など4を) 引き受ける：
Er nahm ihr die Verantwortung nicht ab.
- ⑤ <j3 et4> (…3の…4を) 受け取る：
Sie wollte ihm die Blumen nicht abnehmen.
- ⑥ <j3 et4> (…3から…4を) 〔善意から〕買い取る：
Er hat uns die alten Sachen abgenommen.
- ⑦ <et4> (…4を) 〔認可できるかどうか〕検査する：
ein Fahrzeug abnehmen
- ⑧ <et4> (…4を) 写し取る：
die Fingerabdrücke abnehmen

II 自〔完了haben〕

- ① (体重が) 減る；やせる：
Er hat zusehends an Gewicht abgenommen.
- ② (程度・量などが) 減少する；(月が) かける：
Die Kälte nimmt ab.
Die Vorräte nehmen ab.
Der Mond nimmt ab.

abrechnen

I 他

- ① <et4> (…4を) 差し引く：

Die Steuer wird vom Lohn abgerechnet.

- ② <et4> (…4の) 決算をする：

die Unkosten abrechnen

II 自〔完了haben〕

- ① 貸し借りを精算する：

Wann können wir über unsere Ausgaben abrechnen ?

- ② 決着をつける：

Mit dem Kerl muß ich noch abrechnen.

abreisen

III 自〔完了sein〕

旅行に出る：

Sie reisen heute ab.

Er ist nach Köln abgereist.

abreißen

I 他

- ① <et4> (…4を) 引きはがす、もぎとる：

Er reißt ein Kalenderblatt ab.

Er riß ihr die Maske vom Gesicht ab.

- ② <et4> (建物など4を) 取り壊す：

Sie haben ein altes Haus abgerissen.

II 自〔完了sein〕

- ① (糸、ボタンなどが) ちぎれる、ちぎれ取れる：

Ein Faden reißt ab.

Mir ist der Knopf abgerissen.

- ② (会話などが) 中断する：

Das Gespräch ist plötzlich abgerissen.

absagen

他

- ① <et4> (計画4を) 取りやめにする、取り消す：

eine Veranstaltung absagen

- ② <j3 et4> (…3に…4の) 取り消し<取りやめ>を通知する：
Er sagte ihr seinen Besuch ab.
- ③ <et4> (…4の) 終了のアナウンスをする：
eine Sendung absagen

abschaffen

他

- ① <et4> (法律など4を) 廃止する、撤廃する：
die Todesstrafe abschaffen
- ② <et4> (所有物4を) 手離す：
Wir müssen den Hund abschaffen.

abschlagen

他

- ① <et4> (…4を) たたき落とす：
Nüsse mit einem Stock abschlagen
- ② <j3 et4> (…3の…4を) 断る、はねつける：
Er schlägt seinem Nachbarn eine Bitte ab.

abschließen

I 他

- ① <et4> (ドア・部屋など4を) かぎをかけて閉める；
Er hat das Fenster abgeschlossen.
- ② <j4/et4 von et3> (…4を…3から) 隔離する、遮断する：
Die Kabine des Weltraumschiffes ist hermetisch abgeschlossen.
《再帰的に》
Er schließt sich von der Umwelt ab.
- ③ <et4> (…4を) 完結する：
die Arbeit abschließen
das Studium mit dem Examen abschließen
- ④ <et4> (契約など4を) 結ぶ、(…4の) 契約を結ぶ：
Er hat eine Versicherung abgeschlossen.
- ⑤ <et4> (…4を) 締めくくる：
Ein Feuerwerk schloß die Feierlichkeiten ab.

II 自〔完了haben〕

- ① <mit et3> (…3で) 終わる：

Der Roman schließt mit einem Happy-End ab.

- ② <mit et3/j3> (…3との) 関係を清算する、絶つ：

Er hat mit ihr abgeschlossen.

abschneiden

I 他

- ① <et4> (…4を) 切り取る、切断する：

Sie schnitt ihm ein Stück Kuchen ab.

- ② <et4> (髪・爪など4を) 短くする：

die Haare abschneiden

- ③ <j3 et4> (…3から…4を) 奪い取る、さえぎる：

Er hat ihr den Weg abgeschnitten.

- ④ <et4> (…4を) 〔周囲から〕遮断する：

Das Dorf war vier Tage lang abgeschnitten.

II 自

- ① 近道をする：

Hier schneiden wir ab.

- ② 《様態の語句と》(～の) 成果を収める：

Er hat im Examen gut abgeschnitten.

abschreiben

I 他

- ① <et4> (…4を) 書き移す；清書する：

Ich habe den Aufsatz noch einmal sauber abgeschrieben.

- ② <et4> (…4を) 許可なく書き移す：

Er hat die Schularbeiten von seinem Nachbarn abgeschrieben.

- ③ 《口語》<et4/j4> (…4を) 〔ないものとして〕諦める：

Ich habe ihn schon seit langem abgeschrieben.

- ④ <et4> (鉛筆など4を) 書き減らす：

einen Bleistift abschreiben

II 再

<sich4> (鉛筆などが) 書き減る：

Die Feder hat sich stark abgeschrieben.

abschütteln

他

- ① <et4> (…4を) 振り落とす：

Er schüttelt den Schnee vom Mantel ab.

- ② <et4> (…4を) [物を降り落として] きれいにする：

Er hat das Tischtuch abgeschüttelt.

absehen

I 他

- ① <et4> (…4を) 予測する：

Das Ende der Kämpfe ist noch nicht abzusehen.

- ② 《es auf jn/et4 abgesehen haben の形で》(…4に) ねらいをつけている：

Sie hat es nur auf sein Geld abgesehen.

II 自

- ① <von et3> (…3を) 思いとどまる、見合わせる：

Wir bitten Sie, von einem Besuch abzusehen.

- ② <von et3> (…3を) 度外視する：

Wenn ich von der Erkältung absehe, ...

absenden

他

- ① <et4> (郵便など4を) 発送する：

Er sandte<sendete> sofort einen Brief ab.

- ② <j4> (使者など4を) 派遣する：

einen Boten absenden

absetzen

I 他

- ① <et4> (帽子・めがねなど4を) とる、取り外す：

Setz mal die Maske ab !

- ② <et4> (荷物など4を) 下へ置く：

Sie setzte den Koffer ab.

- ③ <j4> (同乗者4を) [ある場所で車から] 降ろす：

Könnten Sie mich bitte am Bahnhof absetzen?

- ④ <et4> (…4を) わきに置く：

Er setzte das Glas vom Mund ab.

- ⑤ <et4> (…4を) 沈積させる、沈殿させる：

Der Fluß setzt Schlamm ab.

⑥ <j4> (…4を) 解任する：

Der Minister wurde wegen seiner Verfehlungen abgesetzt.

⑦ <et4> (…4を) 削除する、とり止める：

ein Konzert vom Spielplan absetzen

II 自

① 中断する：

Mitten im Singen setzte sie ab.

② 《非人称で》(不愉快なことが) 起きる：

Es wird Schläge absetzen.

III 再

① <sich4> 沈殿する：

Schlamm setzte sich ab.

② <sich4> [他の国へ] 逃走する、逃亡する：

Er hat sich in den Westen abgesetzt.

③ <sich4 gegen et4/j4> 際立つ、目立つ：

Er wollte sich von den anderen absetzen.

absondern

I 他

① <j4> (…4を) 隔離する、分ける：

Häftlinge absondern

② <et4> (…4を) 分泌する：

Speichel absondern

II 再

<sich4 von j3> (…3から) 離れる、交際を断つ：

Er sondert sich von seinen Bekannten ab

abspannen

他

① <et4> (馬・牛など4を) [車から] はずす：

das Pferd abspannen

② <et4> (…4から) [馬・牛などを] はずす：

den Pflug abspannen

absperren

他

- ① <et4> (ある地域4への) 通行を遮断する、閉鎖する：

Die Unglücksstelle wurde abgesperrt.

- ② <et4> (ガス・水道など4の) 供給を止める：

das Gas absperren

absprechen

I 他

- ① <et4> (…4を) 取り決める：

Wir müssen die neue Maßnahme absprechen.

- ② <j3 et4> (…3に…4を) 認めない：

Er spricht uns Mut ab.

II 再

<sich4 mit j3> (…3と) 申し合わせをする：

Ich habe mich mit ihm abgesprochen.

abstammen

自 (☆現在完了形はまれ)

- ① <von j3> (…3の) 系統をひく：

Der Mensch stammt vom Affen ab.

- ② <von et3> (…3に) 由来する：

Dieses Wort stammt vom Lateinischen ab.

absteigen

自 [完了sein]

- ① <von et3> (乗り物など3から) 降りる：

Er steigt vom Fahrrad ab.

- ② 《場所の語句と》 (…に) 泊まる、投宿する：

In welchem Hotel bist du abgestiegen ?

abstellen

他

- ① <et4> (手に持っているもの4を) 下に置く；一時的にしまう：

Sie stellte den Korb ab.

- ② <et4> (機械など4の) 作動を止める；

(水・ガスなど4を) とめる：

das Radio abstellen

das Gas abstellen

③ <j4> (…4を) 派遣する：

Fünf Mann wurden zur Küchenarbeit abgestellt.

④ <et4 auf et4> (…4を…4に) 適合させる：

Das Programm wurde ganz auf den Publikumsgeschmack abgestellt.

abstimmen

I 自〔完了haben〕

投票する：

geheim abstimmen

II 他

<et4> (楽器など4の) 調子を合わせる、調整する：

Die Instrumente sind gut aufeinander abgestimmt.

III 再

<sich4 mit j3> (…3と) 意見を調整する：

Ich habe mich mit ihm abgestimmt.

abstürzen

自〔完了sein〕

① 墜落する：

Ein Flugzeug ist abgestürzt.

② 断崖をなしている：

An dieser Stelle stürzt der Berg ab.

abtrocknen

他

① <et4/j4> (…4を) ぬぐって乾かす、水気をとる：

das Geschirr abtrocknen

《再帰代名詞と》

Sie hat sich noch nicht abgetrocknet.

② <et4> (汗・涙など4を) ぬぐい取る：

Sie trocknete sich die Tränen ab.

abwaschen

他

- ① <et4> (汚れなど4を) 洗い落とす：
Er wäscht sich³ den Schmutz von den Händen ab.
- ② <et4> (…4を) 洗ってきれいにする：
Er wusch das Geschirr ab.

abwehren

他

- ① <j4/et4> (敵・攻撃など4を) 撃退する：
Der Angriff wurde erfolgreich abgewehrt.
- ② <et4/j4> (好ましくないもの4を) はねつける：
Fliegen abwehren/einen Besucher abwehren
- ③ <et4> (災難など4を) 防ぐ、阻止する：
Das Schlimmste konnte gerade noch abgewehrt werden.
- ④ <et4> (…4を) はねつける、拒否する：
Sie wehrte den Dank kühl ab.

abweichen

自〔完了sein〕

- ① <von et3> (…3から) それる、外れる：
Er ist vom Kurs abgewichen.
- ② <von et3> (…3から) 異なる：
Unsere Ansichten weichen in dieser Frage voneinander ab.

abweisen

他

- ① <j4> (…4を) 追いつ返す：
einen Besucher höflich abweisen
- ② <et4> (…4を) はねつける：
ein Geschenk<eine Bitte> abweisen

abziehen

I 他

- ① <et4> (…4を) 引いて外す、取り去る：
Er zieht jeden Tag den Bettbezug ab.
- ② <et4> (覆いを…4から) 取り外す：
Pfirsiche abziehen

- ③ <et4 von~3> (…4を~3から) 差し引く：
die Steuern vom Gehalt abziehen
- ④ <et4> (…4を) 抜き取る；(酒など4を) 注ぎ出す：
Der Ventilator zieht den Rauch ab.
- ⑤ <et4> (…4の) コピーをとる：
eine Arbeitsanweisung für alle Mitarbeiter abziehen
- ⑥ (刃物4を) 研ぐ；(…4に) かんなをかける：
ein Messer abziehen/ein Brett abziehen
- II 自〔完了sein〕
- ① 退却する；《口語》引き下がる：
Die Truppen sind aus den Stellungen abgezogen.
- ② (煙・水などが) 排出される、流れ出る：
Der Rauch zieht durch den Schornstein ab.

【前綴 an-】

anbauen

他

- ① <et4> (作物4を) 栽培する：
Hier wird viel Mais angebaut.
- ② <et4> (建物4を) 建て増す、増築する：
eine Garage an das Haus anbauen

anbieten

I 他

- ① <j3 et4> (…3に…4を) 申し出る、提供する：
Er bot der alten Frau seinen Platz an.
! 《再帰的に》
Er hat sich ihr als Begleiter angeboten.
- ② <j3 et4> (…3に飲み物など4を) 勧める：
dem Gast eine Tasse Kaffee anbieten
- ③ <j3 et4> (…3に…4を) 提案する：
Sie hat ihm das Du angeboten.

II 再

<sich4> 目の前にある、考慮に値する：

Eine andere Möglichkeit bietet sich nicht an.

andeuten

I 他

- ① <et4> (…4を) ほのめかす、暗示する：

Er deutete an, daß er teilnehmen werde.

- ② <et4> (…4の) 概略だけを示す：

Der Pianist deutete die Melodie nur an.

II 再

<sich4> 兆候が見える：

Es deutet sich eine Verbesserung an.

aneignen

再

- ① <sich3 et4> (…4を) 横領<着服>する、不当に
わがものにする：

Sie hat sich sein Vermögen angeeignet.

- ② <sich3 et4> (…4を) 習得する、身につける：

Du hast dir viele Kenntnisse angeeignet.

anerkennen

他

- ① <j4/et4> (…4を) 承認する：

Wir erkennen seine Forderungen an.

- ② <et4> (業績・功労など4を) 認める、称賛する：

Wir erkennen seine Verdienste an.

anfangen

I 自〔完了haben〕

- ① 始まる：

Das Konzert fängt um 20 Uhr an.

! 《zu 不定詞と》

Es hat angefangen zu regnen.

- ② <mit et3> (…3を) 始める：

Er fängt mit der Arbeit an.

II 他

- ① <et4> (…4を) 始める：

Er fing einen Streit an.

! 《zu 不定詞と》

Wir fingen an, ein Haus zu bauen.

- ② <et4> (…4を) する、行う：

Was fangen wir nun an ?

! mit et3 nichts anfangen können

(…3を) 扱うことができない：

Mit der Rechenmaschine kann ich nichts anfangen.

anfertigen

他

<et4> (…4を) 手仕事で作る：

Er läßt sich³ beim Schneider einen Anzug anfertigen.

angeben

I 他

- ① <et4> (…4を) 述べる、告げる：

Bitte geben Sie Ihre Anschrift an.

! 《zu 不定詞と》

Er gibt an, zu Hause gewesen zu sein.

- ② <et4> (…4を) 決める、定める：

das Tempo angeben

II 自

- ① 《口語》大きいことを言う：

Gib bloß nicht so an !

- ② サープをする：

Wer gibt an ?

angehen

I 他

- ① <j4/et4> (…4に) 関係する、かかわる

(☆ 現在完了形は用いない)：

Das geht dich nichts an.

- ② [完了は南部でsein] <j4> (…4を) 襲う、攻撃する：

Das Wildschwein ging den Jäger an.

- ③〔完了は南部でsein〕<et4>(…4に)取りかかる：
ein Thema von einer anderen Seite angehen
- ④〔完了は南部でsein〕<j4 um et4>(…4に…4を)頼む、
ねだる：
Sie hat ihn um Geld angegangen.

Ⅱ 自〔完了sein〕

- ①《口語》始まる：
Wann geht das Theater an ?
- ② 燃え出す：
Das Feuer geht nicht an.
- ③ <gegen et4>(…4に)立ち向かう：
gegen eine Krankheit angehen

angehören

自〔完了haben〕

- ① <et3>(ある集団3に)所属している、(..3の)一員
である：
einer Partei <einem Verein> angehören
- ② <et3>(ある時代3の)ことだ：
Das sind Sitten, die dem Mittelalter angehören.

angreifen

他

- ① <j4>(…4を)攻撃する；非難する：
Der Redner wurde heftig angegriffen.
- ② <et4>(…4を)始める：
eine Arbeit angreifen
- ③ <et4>(蓄えなど4に)手をつける：
Ich habe das Guthaben noch nicht angegriffen.
- ④ <j4/et4>(…〔の健康・器官〕4を)損なう、疲れさす：
Die Krankheit hat ihn sehr angegriffen.
Das Licht greift die Augen an.
- ⑤ <et4>(金属など4を)腐食する：
Der Rost greift das Eisen an

anhaben

他

- ① <et4> 《口語》（衣服など4を）身につける：
Sie hat ein neues Kleid an.
- ② 《et4; 否定詞と können を伴い》（…4に）害し（ない）：
Er kann dir nichts anhaben.

anhalten

I 他

- ① <et4/j4> （車など4を）止める、（人4を）呼び止める：
das Auto anhalten
Er hielt mich auf der Straße an.
- ② <j4 zu et3> （…4に…3を）するようにさせる：
Die Mutter hält die Kinder zur Höflichkeit an.
- ③ <et4> （…4を）押し当てる、あてがう：
das Lineal anhalten

II 自

- ① 止まる、停車する：
Das Auto hielt vor dem Haus an.
- ② （出来事・状態が）持続する：
Regen und Kälte halten an.

anklagen

他

- ① <j4> （…4を）告訴する：
Er wurde wegen Mordes angeklagt.
- ② <j4/et4> （…4の）せいにする、非難する：
das Schicksal anklagen

ankommen

自〔完了sein〕

- ① 到着する：
Der Zug kommt um 8 Uhr an.
! 《3・4格支配の前置詞の場合、3格》
Er ist am Bahnhof angekommen.

- ② 〈車などが〉近づいて来る：

Der Wagen kam in großem Tempo an.

- ③ 受け入れられる：

Der Schlager ist gut angekommen.

- ④ <gegen j4/et4> (…4に) 対抗できる：

Er kam gegen die Vorurteile nicht an.

- ⑤ <auf et4/j4> (…4) 次第である；重要である：

Es kam mir sehr darauf an, ihm das zu erklären.

！《非人称で》Es kommt auf das Wetter an.

- ☆ es auf et4 ankommen lassen (…4に) 任せる：

Auf den Prozeß werde ich es ankommen lassen.

anlegen

I 他

- ① <et4> (…4を) 当てる、置く：

ein Lineal anlegen

- ② <j3 et4> (…3に…4を) 取り付ける、強制的に着用させる：

Er legte dem Verbrecher Handschellen an.

- ③ <et4> (…4を) 設置する；(目録など4を) 作成する：

einen Park anlegen

ein Verzeichnis anlegen

- ④ <et4> (燃料4を) 火にくべる：

Holz anlegen

II 自

- ① 〈船が〉接岸する：

Das Schiff legte am Kai an.

- ② 銃を構える：

Er legte an und schoß.

anmelden

他

- ① <j4/et4> (来訪など4を) 予告する：

seinen Besuch anmelden

！《再帰代名詞と》

Er hat sich beim Arzt angemeldet.

- ② <j4> (転入・参加など4を) 届け出る、(特許など4を) 申請する：

Er meldete sein Kind im Kindergarten an.

Er meldete eine Erfindung zum Patent an.

! 《再帰代名詞と》

sich zu einem Kurs anmelden

③ <et4> (考え・要求4を) 述べる:

seine Bedenken anmelden/seine Ansprüche anmelden

annehmen

I 他

① <et4> (差し出されたもの4を) 受け取る:

Das kann ich doch nicht annehmen

② <et4> (申し出など4を) 受け入れる、承認する:

Der Antrag wird angenommen.

③ <et4> (習慣など4を) 身につける:

schlechte Gewohnheiten annehmen

④ <et4> (…4を) 受け入れる、採用する:

Nach 6 Uhr werden keine Patienten mehr angenommen.

⑤ <et4> (…4を) 受け付ける:

Diese Stoffe nehmen Farben gut an.

⑥ 《daß 文》 (…4と) 仮定する:

Man nimmt allgemein an, daß..

! angenommen, daß.. (…と) 仮定すると

II 再 《雅》

<sich4 j2/et2> (…2を) 引き受ける、面倒をみる:

Er nahm sich des Verletzten an.

anordnen

他

① <et4> (…4を) 指示する、命令する:

Der Arzt hat Bettruhe angeordnet.

! 《zu 不定詞と》

Er ordnete an, die Gefangenen zu entlassen.

② <et4> (…4を) 配列する、整理する:

Das Verzeichnis ist nach Sachgebieten angeordnet.

anpassen

I 他

- ① <j3/et3 et4> (…3に…4を) 合わせる、適合させる：

einen Mantel der Figur anpassen

! 《相互の意味で》

Bauteile einander anpassen

- ② <et3 et4> (…3に…4を) 合わせる、調和させる：

Er paßte seine Kleidung der Jahreszeit an.

- ③ <et4> (…4を) 合わせてみる、試着する：

Schuhe passen

II 再

<sich4 et3> (…3に) 順応する、適合する：

sich der Zeit anpassen/Er paßte sich den anderen an.

! 《相互の意味で》

Kinder passen sich schnell an.

anprobieren

他

- ① <et4> (服など4を) 試着する：

Kleider anprobieren/Schuhe anprobieren

- ② <j3 et4> (…3に…4を) 試着させる：

Der Schneider probierte ihm den Anzug an.

anreden

他

- ① <j4> (…4に) 話かける：

Er hat mich auf der Straße angeredet.

- ② <j4> 《様態の語句と》 (…4に～と) 呼びかける：

Sie redet ihn mit "du" an.

anregen

他

- ① <j4/et4> (…4を) 活発にする、刺激する：

Bewegung regt den Appetit an.

- ② <j4 zu et3> (…4に…3をする) 気を起こさせる：

Das regte ihn zum Nachdenken an.

- ③ <et4> (…4をしてはどうかと) 提案する、提起する：

Er regte ein neues Projekt an.

anrufen

I 他

① <j4> (…4に) 電話をかける：

Ruf mich doch morgen vormittag an !

② <j4> (…4に) 声をかける、呼びかける：

Er rief mich auf der Straße an.

③ 《雅》<j4> (…4に) 嘆願する：

Er fiel auf die Knie und rief Gott an.

II 自〔完了haben〕

電話をかける：

Er hat schon dreimal angerufen.

！《場所の語句と》

Ich muß noch zu Hause anrufen

ansagen

I 他

<et4> (訪問・プログラムなど4を) 告げる、予告する：

Er hat seinen Besuch für heute angesagt.

II 再

<sich4> 《状況の語句と》 (自分の訪問を〜と) 予告する：

Unser Freund hat sich für fünf Uhr angesagt.

anschauen

他

① <j4/et4> (…4を) 見る、見つめる：

Sie schaut ihn vorwurfsvoll an.

！《再帰代名詞と》

Er schaut sich im Spiegel an.

② <sich3 j4/et4> (…4を) じっくり見る、観察する、
観賞する：

sich die Stadt anschauen

Der Arzt schaute sich den Kranken an

anschlagen

I 他

- ① <et4> (板など、特に掲示物4を) 打ちつける:
ein Plakat am Schwarzen Brett anschlagen
- ② <et4> (…4を) 打ち鳴らす:
eine Glocke anschlagen
- ③ <et4> (…4〔の角(かど)など〕を) ぶつけて傷つける:
Ich habe mir den Kopf an der Tür angeschlagen.
- ④ <et4> (キーなど4を) たたく:
die Tasten anschlagen

II 自

- ① [完了haben] (時計・鐘などが) 鳴り出す; (犬が)
〔警戒して〕ほえる:
Die Turmuhr hat zwölfmal angeschlagen.
Der Hund schlug plötzlich an.
- ② [完了sein] 激しくぶつかる、打ち当たる:
Er ist mit dem Kopf an die Wand angeschlagen.
- ③ [完了haben] (薬などが) 効く:
Die Kur hat nicht angeschlagen.

anschließen

I 他

- ① <et4> (…4を) [鎖で] 結び付ける:
das Fahrrad an einen Zaun anschließen
- ② <et4 an et4> (…4を…4に) 接続する; つけ加える:
einen Schlauch an den Wasserhahn anschließen
- ③ <et4 an et4> (…4を…4へ) 付属させる:
Der Schule wird ein Internat angeschlossen.

II 再

- ① <sich4> 隣接する:
An die Wiese schließt sich ein Wald an.
- ② <sich4 j3/et3> (…3に) 同調する、仲間に加わる:
Er hat sich dieser Partei angeschlossen.

III 自 [完了haben]

- ① (講演・討論などが) 引き続いて行われる:
An den Vortrag schließt eine Diskussion an.
- ② (衣類が体に) ぴったり合う:

Das Kleid schließt am Hals eng an.

anschwellen

I 自《不規則変化》〔完了sein〕

① ふくれ上がる：

Die Adern auf seiner Stirn schwellen an.

② 〈程度が〉増える（☆ 否定的な意味合いで）；

Die Arbeit schwillt immer mehr an.

II 他《規則変化》

<et4>（…4を）ふくらませる；

Der Wind hat die Segel angeschwellt.

ansehen

I 他

① <j4/et4>（…4を）見る、見つめる：

Sieh mich an!/Er sah seine Hände an.

② <j4/et4>《様態の語句と》（…4を〜と）見なす；考える：

Wir sehen die Sache ganz anders an.

! 《再帰代名詞と》

Er sieht sich als Held an.

③ <j3/et3 et4>（外見など3から…4を）見てとる；

Man sieht ihm sein Alter nicht an.

④ <et4>（…4を）我慢する（☆ ふつう mit と否定詞を伴い）：

Ich kann diese Ungerechtigkeit nicht mit ansehen.

⑤ 《anzusehen sein の形で；様態の語句と》見た感じが〜だ：

Das ist lustig anzusehen.

II 再

① <sich4>《様態の語句と》（〜のように）見える：

Das sieht sich ganz hübsch an.

② <sich3 j4/et4>（…4を）じっくり見る、観察する；

観賞する：

Ich habe mir die Bilder angesehen.

anstecken

I 他

① <et4>（…4を）針で留める；（指輪4を）はめる：

Er steckte sich eine Blume an.

- ② <j4> (…4に) 病気をうつす：

Er hat mich mit seiner Erkältung angesteckt

- ③ 《北部・中部ドイツで》 <et4> (…4に) 火をつける：

ein Haus anstecken

Ⅱ再

- <sich4> 病気をうつされる、感染する：

Ich habe mich bei ihm angesteckt.

Ⅲ自〔完了haben〕

- (病気などが) うつる、伝染する：

Diese Krankheit steckt an.

ansteigen

自〔完了sein〕

- ① (道などが) 上り坂になる；

Die Straße steigt allmählich an.

- ② (温度などが) 上がる；(数量が) 増える；

Die Temperatur steigt weiter an.

Die Besucherzahlen steigen noch immer an.

anstellen

Ⅰ他

- ① <et4 an~4> (…4を~4に) 立てかける：

eine Leiter an den Baum anstellen

- ② <et4> (…4の) スイッチを入れる；(栓などを開いて…4を) 出す：

das Radio anstellen

das Gas anstellen

- ③ <j4> (…4を) 雇う：

Er ist bei der Post angestellt.

- ④ 《特定の語句4と》 (…4を) する：

Betrachtungen anstellen 観察する

Vermutungen über et4 anstellen (…4について) 推測する

Ⅱ再

- ① <sich4> 列に並ぶ：

Sie müssen sich hinten anstellen.

- ② 《口語》 <sich4> 《様態の語句と》 (…4のように) 振舞う：

sich wie ein Verrückter anstellen

anstreichen

他

- ① <et4> (…4に) 塗料を塗る：
den Zaun anstreichen
- ② <et4> (…4に) 線を引く：
eine Stelle im Buch anstreichen

anstrengen

I 再

- <sich4> 努力する、がんばる：
Du mußt dich in der Schule mehr anstrengen.

II 他

- ① <et4> (能力4を) ふつう以上に働かせる：
Er strengt seine Kräfte an.
- ② <j4/et4> (神経・体など4を) 疲れさす：
Das Sprechen hat den Kranken sehr angestrengt.

antreten

I 他

- ① <et4> (…4の) 第一歩を踏み出す、(勤務4に) 就く：
eine Reise antreten
Wann können Sie diese Stelle antreten?
- ② <et4> (…4を) 踏んで作動させる：
Er hat das Motorrad angetreten.
- ③ <et4> (土などを) 軽く踏み固める：
die Erde antreten

II 自〔完了sein〕

- ① 整列する：
Die Schüler sind der Größe nach angetreten.
- ② (仕事などのために) 現れる、出て来る：
Sie sind pünktlich zum Dienst angetreten.

antun

他

- ① <j3 et4> (…3に危害など4を) 加える：

Tu mir das nicht an !

- ② 《es j3 angetan haben の形で》 (…3を) 魅了する：

Diese Landschaft hat es mir angetan.

anvertrauen

I 他

- ① <j3 et4> (…3に…4を) [信頼して] 任せる：

Er vertraute ihr das Geld an.

- ② <j3 et4> (…3に秘密など4を) 打ち明ける：

Ich vertraue dir mein Geheimnis an.

II 再

- ① <sich4 j3> (…3に) 心中を打ち明ける：

Du kannst dich mir ruhig anvertrauen.

- ② <sich4 j3> (…3に) 身をゆだねる：

Er hat sich dem Arzt anvertraut.

anwachsen

自〔完了sein〕

- ① (植物が) 根づく； (移植した皮膚などが) 生えつく：

Die verpflanzten Bäume sind gut angewachsen.

Die transplantierte Haut ist wieder angewachsen.

- ② (量が) 絶えず増える、膨張する：

Das Wasser wächst an.

anweisen

他

- ① <j4> 《zu 不定詞と》 (…4に～することを) 指図する：

Ich habe ihn angewiesen, die Sache sofort zu erledigen.

- ② <j3 et4> (…3に仕事・部屋など4を) 割り当てる：

Man hat mir dieses Zimmer angewiesen.

- ③ <et4> (代金・謝礼など4を) 為替で送金する：

Weisen Sie das Geld bitte durch die Post an.

anwenden

他

- ① <et4> (…4を) 用いる、使用する：
ein Heilmittel richtig anwenden
- ② <et4> (…4を) 適用する：
Wir haben diese Prinzipien auf die Wirtschaft angewendet
<angewandt>.

anzeigen

他

- ① <et4> (犯罪など4を) 届け出る：
einen Diebstahl anzeigen
- ② <j4> (犯人など4を) 訴える、告発する：
Sie haben ihn wegen Diebstahls angezeigt.
- ③ <et4> (…4を) [計器類で] 表示する；(計器類が…4を) 示す：
die Änderung der Fahrtrichtung rechtzeitig anzeigen
Die Uhr zeigt fünf Minuten nach acht an.
- ④ <et4> (…4を) [新聞などで] 予告する、公示する：
Der Verlag hat die neuen Bücher angezeigt.

anziehen

I 他

- ① <et4> (衣類など4を) 身につける
(☆ 帽子・靴・手袋にも用いる)：
ein Kleid anziehen/Er zieht Strümpfe an.
- ② <j3 et4> (…3に…4を) 着せる：
Die Mutter zieht dem Kind frische Wäsche an.
- ③ <j4> (…4に) 服を着せる：
Die Mutter zieht das Kind an.
- ④ <et4> (足・あごなど4を) 引き寄せる：
das Kinn anziehen
- ⑤ <et4> (磁石が…4を) 引き寄せる；(湿気・においなど4を) 吸収する：
Das Magnet zieht Eisen an.
Salz zieht Feuchtigkeit an.
- ⑥ <j4> (…4の) 心を引きつける：
Die Buchmesse hat wieder zahlreiche Besucher angezogen.

II 再

<sich4> 服を着る：

Das Kind kann sich schon allein anziehen.

Ⅲ 自

- ①〔物を引きながら〕動き始める：

Der Zug zog langsam an.

- ②〈価格などが〉上昇する：

Die Preise ziehen mächtig an.

anzünden

他

- ① <et4> 〈明かり・火など4を〉つける：

Er zündete ein Feuer an.

- ② <et4> 〈…4に〉火をつける：

eine Kerze anzünden

【前綴 auf-】

aufbleiben

自〔完了sein〕

- ① 寝ずに起きている：

Sie sind die ganze Nacht aufgeblieben.

- ② 〈戸・窓などが〉開いたままになっている：

Das Fenster soll noch aufbleiben.

aufblühen

自〔完了sein〕

- ① 〈花が〉開く、開花する：

Die Rose ist aufgeblüht.

- ② 〈国などが〉栄える、興隆する：

Das Land blühte auf.

- ③ 〈人が〉元気になる、健康になる：

Sie blüht allmählich wieder auf.

aufbrechen

Ⅰ 他

- <et4> 〈…4を〉こじ開ける：

Er brach die Kiste mit einem Stemmeisen auf.

Ⅱ 自〔完了sein〕

- ① 〈花・つぼみなどが〉開く：

Die Knospen brechen auf.

- ② ぱっくり口を開ける：

Die Wunde bricht wieder auf.

- ③ 出発する、出かける：

zu einer Expedition aufbrechen

aufbringen

他

- ① <et4> (資金など4を) 調達する、工面する：

die erforderlichen Mittel für den Neubau aufbringen

- ② <et4> (勇気など4を) 〔奮い起こして〕持つ；(理解4を) 示す：

Er hat den Mut dazu aufgebracht, seine Liebe zu gestehen.

Ich kann dafür kein Verständnis aufbringen.

- ③ <et4> (流行・新語・うわさ4などの) 発端を作る、はやらせる、広める：

Wer hat denn dieses Gerücht aufgebracht?

- ④ <j4> (…4を) 怒らせる：

Diese Bemerkung hat ihn aufgebracht.

auffallen

自〔完了sein〕

- ① 目立つ、人目を引く：

Seine Abwesenheit fiel nicht auf.

- ② <j3> (…3の) 注意を引く：

Er ist mir sofort aufgefallen.

- ③ 〔あるものの上に〕落ちる：

auf den Boden auffallen

auffassen

他

- ① <et4> 《様態の語句と》 (…4を〜と) 解釈する：

Er hat meine Frage als Beleidigung aufgefaßt.

- ② <et4> (…4を) 理解する：

Er faßte alles richtig auf.

auffordern

他

- ① <j4 zu et3> (…4に…3を) 要求する、求める：

Er forderte ihn zum Sitzen auf.

《zu 不定詞と》

Der Polizist forderte ihn auf, seinen Ausweis zu zeigen.

- ② <j4> (…4を) [ダンス・食事などに] 誘う：

Er forderte die Tochter seines Chefs zu einem
Spaziergang auf.

aufführen

I 他

- ① <et4> (劇4を) 上演する；(楽曲4を) [舞台で] 演奏する；
(映画4を) 上映する：

eine Oper aufführen/einen neuen Film aufführen

- ② <et4> (催し物4を) 興行する：

einen Ringkampf aufführen

- ③ <j4/et4> (理由・事例・名前など4を) 挙げる、
[リストに] 記載する：

Sein Name war in der Liste nicht aufgeführt.

II 再

<sich4> 《様態の語句と》(～の) 態度をとる、(～のように) 振舞う：
sich anständig aufführen

aufgeben

他

- ① <et4> (手紙など4を) 窓口に出す；(広告など4の)
掲載を依頼する：

Er gibt einen Brief bei der Post auf.

Er gibt eine Anzeige bei einer Tageszeitung auf.

- ② <j3 et4> (…3に仕事・任務など4を) 課する：

Der Lehrer gibt den Schülern einen Aufsatz auf.

- ③ <et4> (…4を) 放棄する、手放す：

Er gibt allen Widerstand auf.

《目的語なしで》

In der dritten Runde gab der Boxer auf.

- ④ <j4> (…4を) 見放す:

Der Arzt gab den Kranken auf.

aufgehen

自〔完了sein〕

- ① (天体が) のぼる:

Die Sonne geht auf.

- ② (ドアなどが) 開く、あく:

Das Fenster geht nur schwer auf.

- ③ (結び目などが) ゆるむ:

Der Knoten ging immer wieder auf.

- ④ (つぼみが) ほころびる; 発芽する:

Die Knospe geht auf.

Die Saat ist aufgegangen.

- ⑤ [酵母菌によって] 膨れる:

Der Kuchen ist nicht aufgegangen.

- ⑥ (計算で) 割り切れる:

Die Division geht auf.

《比》Die Rechnung geht auf.

aufhalten

I 再

- ① <sich4> 《場所の語句と》(～に) 滞在する、〔一定の期間〕留まる:

Sie halten sich zur Zeit an der See auf.

- ② <sich4 mit j3/et3> (…3に) かかずらって時間をとられる:

Ich kann mich nicht mit ihr so lange aufhalten.

- ③ <sich4 über j4/et4> (…4に) 文句をつける:

Sie hält sich über sein Benehmen auf.

II 他

- ① <j4/et4> (…4の) 進行を阻む:

den Vormarsch des Feindes aufhalten

- ② <j4> (…4を) 引き止める:

Ich will Sie nicht länger aufhalten.

- ③ <et4> (…4を) くいとめる:

Sie konnten die Katastrophe nicht mehr aufhalten.

- ④ 《口語》<et4> (…4を) 開けたままにしておく：

Halt mal bitte die Tür auf !

aufheben

I 他

- ① <j4/et4> (落ちてゐる物4を) 拾い上げる：
ein Handtuch vom Boden aufheben
- ② <j4> (倒れた人4を) 助け起こす：
einen Gestürzten aufheben
- ③ <et4> (…4を) 上方へ持ち上げる：
die Hand aufheben
- ④ <et4> (…4を) 取っておく、保存<保管>する：
Sie hob alle seine Briefe zur Erinnerung auf.
- ⑤ <et4> (法令・条約など4を) 廃棄<廃止>する：
einen Vertrag aufheben/die Todesstrafe aufheben
- ⑥ <et4> (…4を) 相殺する；(矛盾など4を) 解消する：
Der Verlust hebt den Gewinn auf.
den Widerspruch aufheben

II 再

<sich4> 相殺される：

Plus drei und minus drei heben sich auf.

aufhören

自〔完了haben〕

- ① (出来事が) とぎれる，やむ：
Der Regen hörte endlich auf.
《zu 不定句と》
Es wird bald aufhören zu schneien.
- ② <mit et3> (…3を) やめる，中断する：
Er hört frühzeitig mit der Arbeit auf.
《zu 不定句と》
Er hört auf zu lachen.
! 《非人称と》
Es hat aufgehört mit dem Schneien.

aufklären

I 他

- ① <et4> (…4を) 解明する、明らかにする：

Er klärte den Widerspruch auf.

- ② <j4> (…4を) 啓蒙する、啓発する；(子供4に) 性教育をする：

Sie hat ihn über die Gefahr aufgeklärt.

Sie ist noch nicht aufgeklärt.

II 再

- ① <sich4> (天気が) 晴れる：

Der Himmel klärt sich auf.

《非人称で》

Es hat sich aufgeklärt.

- ② <sich4> 明らかになる：

Das Mißverständnis klärte sich auf.

aufkommen

自〔完了sein〕

- ① 起こる、発生する；(うわさなどが) 広まる：

Ein Gewitter kommt auf.

Wie ist das Gerücht aufgekomen?

- ② 起き上がる；健康になる：

Er kam nur noch mit Mühe vom Boden auf.

Sie ist von ihrer Krankheit nur langsam aufgekomen.

- ③ <für j4/et4> (…4の) 経済上の責任を負う、賠償<補償>する：

Er muß für den Schaden aufkommen.

- ④ <gegen j4/et4> (…4に) 逆らえる、張り合える、対抗できる

(☆ ふつう否定詞と)：

Wir kommen gegen ihn nicht auf.

- ⑤ (金が) 集まる.

- ⑥ 《スポーツ》着地する；遅れを取り戻す.

☆ j4 neben sich3 aufkommen lassen

(…4が) 自分と肩を並べることを認める：

Er will niemanden neben sich aufkommen lassen.

auflegen

I 他

- ① <et4> (…4を) 上にのせる、(シーツなど4を) かぶせる、

(膏藥など4を)はる、塗る：

eine neue Tischdecke auflegen

eine Pflaster auf die Wunde auflegen

② <et4> (ひじなど4を) つく、立てる：

den Ellenbogen auf den Tisch auflegen

③ <et4> (書籍4を) 出版する：

ein Buch neu<wieder>auflegen

④ <j3 et4> (…3に税など4を) 負わせる：

dem Volk Steuern auflegen

auflösen

I 他

① <et4> (…4を) 溶かす：

Er löst Salz in Wasser auf.

② (結んであるもの4を) ほどく：

Er löst eine Schleife auf.

③ (取り決め) 解消する；(団体・集会など4を) 解散する：

Sie haben die Verlobung aufgelöst.

einen Verein auflösen

④ (なぞ・数式4を) 解く、(誤解・矛盾4を) 解く：

Wir müssen das Mißverständnis auflösen.

II 再

① <sich4> 溶ける：

Zucker löst sich in Wasser auf.

② <sich4 in et3> 溶けて (…3に) なる：

Der Schnee hat sich in Matsch aufgelöst.

③ <sich4> (結んであるものが) ほどける；(団体・集会などが) 解散する；(誤解などが) 解ける：

Die Schleife löst sich auf.

Die Menschenmassen lösen sich auf.

Mißverständnisse lösen sich auf.

aufmachen

I 他

① 《口語》<et4> (…4を) ひらく、開ける：

eine Tür aufmachen

- ② 《口語》<et4> (店など4を) 開店する：

eine Filiale aufmachen

- ③ <et4> (本4を) 装丁する、(品物4を) 包装する：

ein Buch hübsch aufmachen

《過去分詞で》

eine geschmackvoll aufgemachte Ware

Ⅱ 自〔完了haben〕

- ① (店などが) 開く、あく：

Das Geschäft macht um 9 Uhr auf.

- ②〔戸を〕開ける：

Sie hat mir nicht aufgemacht.

Ⅲ 再

<sich4> 出発する：

sich vor Sonnenaufgang aufmachen

aufnehmen

他

- ① <et4> (仕事など4を) 始める：

eine Arbeit aufnehmen/Verhandlungen wieder aufnehmen

- ② <j4> (…4を) 受け入れる、泊める：

einen Patienten in ein Krankenhaus aufnehmen

- ③ <j4> (…4を) 一員として迎え入れる：

einen Schüler in die Klasse aufnehmen

- ④ <et4> (下にある物4を) 持ち上げる：

den Telephonhörer aufnehmen

- ⑤ <j4> (子供など4を) 抱き上げる：

Die Mutter nahm das Kind auf.

- ⑥ <j4/et4 in et4> (…4を…4に) 加える：

ein Theaterstück in den Spielplan aufnehmen

- ⑦ <j4> (…4を) 収容する：

Der Saal kann 350 Personen aufnehmen.

- ⑧ <et4> (知識など4を) 吸収する、把握する：

Das Kind nimmt alles schnell auf.

- ⑨ <et4> (水4を) 吸収する；(栄養4を) 摂取する：

Der Boden hat das Wasser aufgenommen.

Nahrung aufnehmen

- ⑩ <et4> (貸付金4を) 借りる ; (抵当4を) 入れる :
 einen Kredit aufnehmen
 eine Hypothek auf ein Haus aufnehmen
- ⑪ <et4> (知らせ・提案・作品など4) 受け入れる :
 Das Buch wurde vom Publikum gut aufgenommen.
- ⑫ <et4> (…4を) 記録する、書き留める :
 Die Polizei nahm den Unfall auf.
- ⑬ <j4/et4> (…4を) 録音<録画>する、写真にとる :
 eine Oper auf Tonband aufnehmen

aufpassen

自〔完了haben〕

- ① 注意を払う :
 beim Unterricht gut aufpassen
- ② <auf j4/et4> (…4に) 気をつける :
 An der Kreuzung muß man auf die Autos aufpassen.

aufräumen

I 他

<et4> (…4を) 片づける、整理する :
 die Spielsachen aufräumen

Er räumte sein Zimmer auf.

II 自〔完了haben〕

- ① <mit j3/et3> (…3を) 取り除く、排除する :
 Der Staat hat mit den Verbrechern aufgeräumt.
- ② 《口語》犠牲者を出す :
 Die Pest hat in der Stadt furchtbar aufgeräumt.

aufregen

I 他

<j4> (…4を) 興奮させる :
 Die Nachricht regte mich auf.

II 再

- ① <sich4> 興奮する :
 Regen Sie sich nicht auf!
- ② 《口語》<sich4 über et4> (…4に) 怒る、おこる :

Das ganze Dorf regte sich über ihn auf.

aufrichten

I 他

- ① <j4/et4> (…4を) まっすぐに起こす<立てる> :

Er hat einen umgestürzten Zaun aufgerichtet.

- ② <et4> (記念碑・塀など4を) 建てる、(標識など4を) 立てる :

ein Denkmal aufrichten/einen Pfahl aufrichten

- ③ <j4> (…4を) 元気づける :

Sie richtete ihn durch freundlichen Zuspruch auf.

II 再

- ① <sich4> 起き上がる、身を起こす :

Der Kranke richtete sich im Bett auf.

- ② <sich4> 元気になる、立ち直る :

Ich habe mich in meiner Verzweiflung an ihr aufgerichtet.

aufschlagen

I 自

- ① [完了sein] <auf et4> (…4に) 激しくぶつかる

(☆ auf の後に3格の来ることもある) :

Er ist mit dem Hinterkopf auf das<dem>Pflaster aufgeschlagen.

- ② [完了sein] (炎が) 燃え上がる :

Flammen schlugen hoch auf.

- ③ [完了haben] (値段が) 上がる :

Die Miete hat wieder aufgeschlagen.

- ④ [完了haben] 値段を上げる.

Der Kaufmann schlägt erheblich auf.

- ⑤ [完了haben] 《球技》サーヴをする :

Wer schlägt auf ?

II 他

- ① <et4> (…4を) 打ち割る :

eine Nuß aufschlagen

- ② <et4> (…4を) ぶつける :

den Kopf aufschlagen

《3格の再帰代名詞と》

Er hat sich das Knie aufgeschlagen.

- ③ <et4> (ページ・目など4を) 開く :

Schlagt die Seite 17 auf !

- ④ <et4> (…4を) 組み立てる :

Sie haben ein Zelt aufgeschlagen.

- ⑤ <et4> (そでなど4を) たくし上げる :

die Ärmel aufschlagen

- ⑥ <et4> (値段4を) 上げる .

aufschließen

I 他

- ① <et4> (…4を) 鍵で開ける :

die Tür aufschließen

- ② 《化学》 (…4を) 可溶性にする :

Die Nahrung wird im Magen aufgeschlossen.

II 自〔完了haben〕

(列などで) 間隔をつめる :

Wir müssen mehr aufschließen.

III 再

<sich4 j3> (…3に) 開かれる :

Eine ganz neue Welt schloß sich ihr auf.

aufstehen

自

- ①〔完了sein〕 (座っている・寝ている状態から) 立ち上がる、起き上がる :

vom Stuhl aufstehen

- ②〔完了sein〕 起床する :

Er steht jeden Tag um 5 Uhr auf.

- ③〔完了sein〕 反乱を起こす、立ち上がる :

Das Volk stand gegen die Unterdrücker auf.

- ④〔完了haben〕 《口語》開いたままである :

Die Tür hat die ganze Nacht aufgestanden.

- ⑤〔完了sein〕 (予言者が) 出現する .

aufsteigen

自〔完了sein〕

- ① (自転車・馬などに) 乗る :

Er steigt auf das Fahrrad auf.

② (山などに) 登る:

zum Gipfel aufsteigen

③ (煙などが) 立ちのぼる; (飛行機などが) 舞い上がる; (星などが) 昇る:

Rauch steigt aus dem Schornstein auf.

Die Tränen stiegen in seinen Augen auf.

④ (考え・疑惑などが) 生じる:

Angst stieg in ihm auf.

⑤ 出世する、昇進する:

Er ist zum Direktor aufgestiegen.

aufstellen

I 他

① <et4> (…4を) [しかるべき所に] 置く:

Stühle im Saal aufstellen/eine Falle im Keller aufstellen

② <j4> (…4を) 配置する:

Wachen aufstellen

③ <et4> (記念碑・テントなど4を) 建てる;

eine Baracke aufstellen

④ <et4> (…4を) 編成する:

eine Fußballmannschaft aufstellen

⑤ <j4> (候補者・証人4を) 立てる:

einen Kandidaten aufstellen

⑥ <et4> (学説など4を) 立てる; (計画・リストなど4を) 作成する:

eine Theorie aufstellen

Er hat einen Plan aufgestellt.

II 再

① <sich4> 整列する、立って並ぶ:

Viele Leute stellten sich an der Straße entlang auf.

② <sich4> (毛などが) 逆立つ:

Ihr stellten sich die Haare auf.

aufstoßen

I 他

① <et4> (戸など4を) 強く押して開ける:

Er stößt die Tür mit dem Fuß auf.

- ② <sich³ et⁴> (…⁴を) ぶつける：

sich den Kopf aufstoßen

Ⅱ 自

- ① 〔完了haben〕 げっぶをする：

Sie hat laut aufgestoßen.

- ② 〔完了haben/sein〕 <j³> (飲み物などが…³に)

おくびくげっぶ>をさせる：

Das Bier stößt mir leicht auf.

- ③ 〔完了sein〕 <auf et⁴> (…⁴に) ぶつかる：

Er ist mit dem Kopf auf die Kante aufgestoßen.

- ④ 〔完了sein〕 (水底などに) 突き当たる：

Das Schiff ist aufgestoßen.

- ⑤ 〔完了sein〕 <j³> (…³の) 目にとまる、注意をひく：

Mir ist nichts Verdächtiges aufgestoßen.

auftragen

I 他

- ① <j³ et⁴> (…³に…⁴を) 委託<依頼>する：

Sie hat mir aufgetragen, ihn zu besuchen.

- ② <et⁴> (…⁴を) 塗る：

Er trug die Salbe dünn auf die Wunde auf.

- ③ <et⁴> (衣類など⁴を) 古くなって着られなく

なるまで着続ける：

die Sachen des älteren Bruders auftragen

- ④ 《雅》<et⁴> (料理など⁴を) 食卓に供する：

Das Essen ist aufgetragen.

Ⅱ 自〔完了haben〕

(衣類が) 着ぶくれる：

Die Jacke trägt nicht auf.

auftun

I 他

- ① 《口語》<et⁴> (…⁴を) 開ける：

den Mund auf tun

- ② 《口語》<j⁴/et⁴> (…⁴を) 発見する、偶然見つける：

Ich habe einen guten Friseur aufgetan.

- ③ 《口語》<et4> (食べ物4を) 皿にのせる：
die Suppe auf tun

aufwachen

自

〔完了sein〕目が覚める：

Ich bin heute früh aufgewacht.

aufziehen

I 他

- ① <et4> (錨・ブラインドなど4を) 引き上げる：
Er hat eine Fahne aufgezogen.
- ② <et4> (…4を) 引いて開ける：
Er zog vorsichtig die Schublade auf.
- ③ <et4> (弦4を) 張る；(写真など4を) はりつける：
eine neue Saite auf die Geige aufziehen
Ich habe das Photo auf Pappe aufgezogen.
- ④ <et4> (編み物4を) ほどく：
einen Pullover wieder aufziehen
- ⑤ <et4> (…4の) ぜんまいを巻く：
Er zieht seine Uhr auf.
- ⑥ <j4/et4> (…4を) 育て上げる：
Sie hat vier Kinder aufgezogen.

II 自〔完了sein〕

- ① 公衆の前に姿を現す：
Die Wache ist aufgezogen.
- ② 近づいて来る：
Ein Gewitter zieht auf.

【前綴aus-】

ausbilden

I 他

- ① <j4> (…4を) 教育する、訓練する：

Es müssen mehr Ärzte ausgebildet werden.

- ② <et4> (…4を) 十分に発達させる：

Fähigkeiten ausbilden

II 再

- ① 発達する；(花が) 開花する：

Die Larve bildet sich zum Schmetterling aus.

Die Blüten bilden sich sehr langsam aus.

ausbrechen

I 他

- ① <et> (…4を) 折り取る、もぎ取る：

Steine aus der Mauer ausbrechen

《3格の再帰代名詞と》

Ich habe mir einen Zahn ausgebrochen

- ② <et4> (窓など4を) 〔壁の一部を壊し〕 くりぬく：

einen Notausgang ausbrechen

- ③ <et4> (…4を) 胃から戻す、吐く：

Der Kranke hat den Tee ausgebrochen.

II 自〔完了sein〕

- ① 脱走する：

Der Häftling ist wieder ausgebrochen.

- ② (正しいコースから) それる：

Der Wagen bricht beim Bremsen leicht aus.

- ③ (火事・戦争などが) 急に起こる：

Ein Streik ist ausgebrochen.

- ④ <in et4> 突然 (…4の) 状態に陥る、突然 (…4) し出しす：

Er brach in Zorn aus.

ausbreiten

I 他

- ① <et4> (…4を) 並べて置く、広げる：

den Inhalt eines Pakets auf dem Tisch ausbreiten

- ② <et4> (たたんであるもの4を) 広げる；(腕・枝・翼など4を) 広げる：

eine Decke ausbreiten

Der Baum breitet seine Zweige aus.

II 再

- ① <sich4> (火・雑草・うわさ・霧・病気などが) 広がる：

Das Feuer hat sich ausgebreitet.

- ② <sich4> (景色などが) 展開する：

Vor uns breitete sich eine Ebene aus.

- ③ <sich4> 長々と寝そべる：

Er hat sich auf der Bank ausgebreitet.

- ④ <sich4 über et4> (…4について) 長々としゃべる：

Sie kann sich stundenlang über die Mode ausbreiten.

ausdehen

I 他

- ① <et4> (…4を) 膨脹させる：

Die Hitze dehnt die Schienen aus.

- ② <et4> (…4を) 拡張<拡大>する：

seinen Einfluß ausdehnen

- ③ <et4> (…4を) 長引かせる：

seinen Aufenthalt ausdehnen

II 再

- ① <sich4> (金属などが) 膨脹する；(取引などが) 拡大する：

Wasser dehnt sich bei Erwärmung aus.

- ② <sich4> (会議などが) 長引く：

Die Sitzung dehnte sich über mehrere Stunden aus.

- ③ <sich4> (霧などが) 広がる；(平地などが) 広がる：

Vor uns dehnt sich ein See aus.

ausdrücken

I 他

- ① <et4> 《様態の語句と》 (…4を～のように) 表現する：

einen Gedanken richtig ausdrücken

- ② <et4> (気持ち4を) 述べる：

Er drückte ihr seinen Dank aus.

- ③ <et4> (…4を) 表す：

Ihre Augen drückten unendliche Trauer aus.

- ④ <et4> (果汁など4を) 絞る、(…4から) 〔果汁などを〕絞り出す：

den Saft aus einer Zitrone ausdrücken

eine Zitrone<den Schwamm> ausdrücken

- ⑤ <et4> (…4〔の火〕を) もみ消す：

Er drückte die Zigarette im Aschenbecher aus.

II 再

- ① <sich4> 《様態の語句と》 (気持ち・考えなどを～のように) 表現する：

Habe ich mich richtig ausgedrückt ?

- ② <sich4 in et3> (…3に) 表れている：

In seiner Haltung drückt sich Arroganz aus.

ausfallen

自〔完了sein〕

- ① (歯・髪などが) 抜ける：

Die Haare fallen aus.

- ② (催し物などが) 中止になる：

Das Konzert fiel aus.

- ③ (機械などが) 故障する：

Die Klimaanlage ist ausgefallen.

Der Strom fällt aus.

- ④ (参加者などが) 突然欠席する：

Zwei Kollegen fallen wegen Krankheit aus.

- ⑤ 《様態の語句と》 (～という) 結果になる：

Die Arbeit fällt gut aus.

ausführen

他

- ① <et4> (…4を) 実行<遂行>する：

einen Plan<eine Anordnung> ausführen

- ② <et4> (…4を) 輸出する：

Unser Land führt hauptsächlich Getreide aus.

- ③ <et4> (…4を) 製作する；完成する：

ein Bild in Öl ausführen

Er konnte den Schluß seines Stückes nicht mehr ausführen.

- ④ <et4> (理論・考えなど4を) 詳しく述べる、説明する：

Er führte seine Ideen umständlich aus.

- ⑤ <j4> (…4を) 外に連れ出す：

Er hat den Besuch ausgeführt.

ausfüllen

他

- ① <et4> (用紙など4に) 記入する：
ein Formular<einen Fragebogen> ausfüllen
- ② <et4> (すきまなど4を) 埋める：
eine Grube mit Kies ausfüllen
- ③ <et4> (空間4を) ふさぐ：
Der Schrank füllt die ganze Ecke des Zimmers aus.
- ④ <et4> (時間4を) つぶす：
Er füllte die Wartezeit mit Lesen aus.
- ⑤ <et4> (地位4に) ふさわしい働きをする、職責を果たす：
Sie füllt ihre Stellung gut aus.

ausgeben

I 他

- ① <et4> (お金4を) 支出する：
Er hat sein ganzes Geld ausgegeben.
- ② <et4> (…4を) 配る、渡す：
Der Koch gibt das Essen aus.
- ③ <et4> (新紙幣・切手など4を) 発行する：
Briefmarken ausgeben
- ④ <et4> (命令など4を) 伝える：
einen Befehl ausgeben
- ⑤ <j4/et4 als (または für) et4> (…4を〜だと) 称する：
Er gab ihn als<für>seinen Bruder aus.
! 《再帰的に》
Er gab sich für unverheiratet aus.

II 再

- <sich4> 力を出し尽くす：
Er hat sich bei dieser Arbeit völlig ausgegeben.

ausgehen

自

〔完了sein〕

- ① (用事・レジャーのために) 外出する：
Wir gehen oft zum Essen aus.

② (火・ランプなどが) 消える:

Plötzlich ging das Licht aus.

③ <j3/et3> (蓄え・忍耐力などが…3から) 無くなる; (髪などが) ぬける; (色が) あせる:

Ihm sind die Zigaretten ausgegangen.

In letzter Zeit gehen die Haare aus.

④ 《様態の語句と》 (…の) 結果に終わる:

Die Geschichte geht tragisch aus.

⑤ <von et3> (…3から) 出発する、仮定する:

Er ist von falschen Voraussetzungen ausgegangen.

⑥ <von j3> (…3に) 由来する:

Der Plan ging vom Lehrer aus.

⑦ <von et3> (光・においなどが…3から) 発散する;
(道などが…3を) 出ている:

Von der Rose geht ein zarter Duft aus.

Von dem Platz gehen mehrere Straßen aus.

ausgleichen

I 他

① <et4> (…4を) ならす、平均化する:

die Unebenheiten ausgleichen

② <et4> (対立など4を) 調整<調停>して取り除く:

Meinungsverschiedenheiten ausgleichen

③ <et4> (不足など4を) 補う、穴埋めする:

den Mangel an Bewegung durch Gymnastik ausgleichen

II 再

<sich4> 相殺する、差引ゼロになる:

Einnahmen und Ausgaben gleichen sich aus.

aushalten

I 他

① <et4> (困難・苦痛など4を) 耐えぬく、こらえる:

Ich kann diese Kälte nicht aushalten.

《形式目的語 es と》

Ich halte es vor Hunger nicht mehr aus.

② 《音楽》 <et4> (…4を) 長く響かす:

einen Ton aushalten

- ③ 《口語》 <j4> (愛人など4の) 生活費を払う：

eine Geliebte aushalten

Ⅱ 自〔完了haben〕

辛抱をする、がまんをする：

Sie hielt bei ihm bis zum Ende aus.

auskommen

自〔完了sein〕

- ① <mit et3> (…3で) 足りる、間に合う：

Er kommt mit seinem Gehalt nicht aus.

- ② <ohne j4/et4> (…4なしで) 済ませる：

Er kommt ohne dich nicht.

- ③ <mit j3> (…3と) 仲よくする：

Mit ihm kann man nicht auskommen.

ausmachen

他

- ① 《口語》 <et4> (電気・火などを) 消す；(ラジオなどの)
スイッチを切る：

das Licht ausmachen

das Radio ausmachen

- ② <et4> (…4を) 取り決める：

einen Termin ausmachen

Wir haben ausgemacht, daß..

- ③ <et4> (…4を) 形成する、(…4の) 本質をなす：

Seen und Wälder machen den Zauber dieser Landschaft aus.

- ④ <et4> (総計して…4に) なる：

Die Kosten machen zwanzig Mark aus.

- ⑤ <et4> (…4を) 解決する、決着をつける：

Sie wollen die Angelegenheit untereinander ausmachen.

- ⑥ <et4> (遠方のもの4を) 発見する、確認する：

ein Schiff am Horizont ausmachen

- ⑦ 《nichts, wenig, viel などと》 (…の) 重要性をもつ：

Das macht nichts aus.

ausreichen

自〔完了haben〕

- ① 足りる、十分である：

Das Geld reicht nicht aus.

- ② <mit et3> (…3で) 足りる：

Wir werden mit den Vorräten nicht ausreichen.

ausrufen

他

- ① <et4> (…4と) 突然大声を上げる：

"Nein !" rief sie aus.

- ② <et4/j4> (…4を) 大声で唱える、アナウンスする：

Der Schaffner ruft die Station aus.

- ③ <et4> (…4を) 公告<宣言>する：

die Republik ausrufen

- ④ <et4> (商品4を) 呼び売りする；競売に付する：

Zeitungen ausrufen

ausruhen

I 再

<sich4> 休む、休息<休養>する：

Wir ruhen uns zu Hause aus.

II 他

<et4> (手足・神経など4を) 休める：

die Augen ausruhen

aussagen

I 自〔完了haben〕

供述<証言>をする：

Sie hat gegen ihn ausgesagt.

II 他

<et4> (…4を) 表現する、述べる：

Das Bild sagt etwas aus.

ausschalten

I 他

- ① <et4> (…4の) スイッチを切る：
den Motor ausschalten
- ② <et4/j4> (…4を) 除外<排除>する、しめ出す：
Er konnte seinen Rivalen ausschalten.

Ⅱ再

- <sich4> スイッチが切れる：
Die Heizung schaltet sich von selbst aus.

ausscheiden

Ⅰ他

- ① <et4> (…4を) 排出<分泌>する：
Kot ausscheiden
- ② <et4/j4> (…4を) 分離する、除外する：
Er wurde aus dem Rennen ausgeschieden.

Ⅱ自〔完了sein〕

- ① 問題にならない、除外される：
Diese Möglichkeit scheidet aus.
- ② 〔役職・団体などから〕退く：
Er ist aus dem Amt ausgeschieden.
- ③ 《スポーツ》予選で敗退する、途中で失格する：
Die Mannschaft schied in der Vorrunde aus.

ausschließen

Ⅰ他

- ① <et4> (可能性など4を) 排除する：
Man kann nicht ausschließen, daß so etwas noch einmal passiert.
- ② <j4/et4> (…4を) 除外する、例外とする：
Wir haben alle schuld, ich schließe mich nicht aus.
- ③ <j4> (…4を) 〔家などから〕しめ出す：
Gestern wurde er ausgeschlossen.
- ④ <j4 von et3> (…4を…3から) 除外する、参加させない：
Man hat ihn von der Feier ausgeschlossen.
- ⑤ <j4 aus et3> (…4を…3から) 除名する、追放する：
Er wurde aus der Partei ausgeschlossen.

aussehen

自〔完了haben〕

- ① 《様態の語句と》（～のように）見える、（～の）印象を与える：

Er sah traurig aus.

Sie sieht älter aus, als sie ist.

- ② 《非人称；様態の語句と》（状態は～の）ようだ：

Mit ihm sah es schlimm aus.

aussetzen

I 他

- ① <et4>（…4を）中断する：

die Kur auf einige Zeit aussetzen

- ② <j4/et4>（子供など4を）置き去りにする；（動物など4を）

〔自然へ〕放す：

einen Säugling aussetzen/Fische aussetzen

- ③ <j4 et3>（…4を…3に）さらす：

Sie setzte ihn einer Gefahr aus.

《再帰的に》

Er setzt sich damit dem Spott aus.

- ④ <et4>（賞金など4を）かける：

Auf seinen Kopf sind 50 000 DM ausgesetzt.

- ⑤ 《et4 an et3 auszusetzen haben/finden の形で》（…3に…4の）

けちをつける

Er hat<findet>immer etwas an meiner Arbeit auszusetzen.

II 自〔完了haben〕

- ①（機械・心臓などが）〔突然〕止まる、停止する：

Der Motor setzte plötzlich aus.

- ② <mit et3>（仕事など3を）休む、中止する：

Er muß für einige Monate mit der Arbeit aussetzen.

aussprechen

I 他

- ① <et4>（…4を）発音する：

Wie spricht man dieses Wort aus?

- ② <et4>（考え・気持ちなど4を）口に出す、述べる：

Er sprach offen aus, was jeder dachte.

- ③ <et4>（判決・解雇通知など4を）言い渡す、宣告する。

Ⅱ 自〔完了haben〕

話し終わる：

Laß ihn doch aussprechen !

Ⅲ 再

① <sich4> 意見を述べる：

Er sprach sich für<gegen>das Projekt aus.

② <sich4> 心中を打ち明ける、ぶちまける：

Er wollte sich einmal bei mir offen aussprechen.

③ <sich4> 〔問題を解決するために腹を割って〕話し合う：

Wir müssen uns einmal in Ruhe aussprechen.

④ <sich4> 《様態の語句と》発音するのが（～）だ：

Das Wort spricht sich schwer aus.

ausstehen

Ⅰ 他

<et4>（不安など4を）耐えとおす、がまんしとおす：

Er hat große Angst ausgestanden.

《nicht ausstehen können の形で》辛抱できない：

Ich kann diesen Menschen nicht ausstehen.

Ⅱ 自〔完了haben〕

まだなされていない、未決である：

Seine Entscheidung stand immer noch aus.

aussteigen

自〔完了sein〕

（乗り物から）降りる：

Der Zug hielt, und wir stiegen aus.

《比》

Er wollte aus dem Projekt aussteigen.

ausstellen

他

① <et4>（商品4を）展示する、陳列する：

im Schaufenster Badeanzüge ausstellen

② <et4>（文書類4を）発行する、交付する：

einen Paß ausstellen

- ③ <j4/et4> (…4を) [しかるべき所に] 置く、配置する：

eine Falle im Keller ausstellen

- ④ 《口語》 <et4> (機械4の) スイッチを切る：

den Motor ausstellen

austauschen

他

- ① <j4/et4> (…4を) 交換する：

Ich tauschte mit ihm Briefmarken aus.

- ② <et4> (意見など4を) 交わす、取り交わす：

Meinungen austauschen

- ③ <et4> (…4を) 取り替える：

Er hat die veraltete Schreibmaschine gegen eine elektrische ausgetauscht.

ausüben

他

- ① <et4> (影響・作用など4を) 及ぼす：

Sie übt einen schlechten Einfluß auf ihn aus.

- ② <et4> (権力・権利4を) 行使する；(圧力4を) 加える：

die Macht ausüben

Druck auf ihn ausüben

- ③ <et4> (職務4) 果たす；(職業など4を) 営む：

eine Pflicht ausüben

Er übt keinen Beruf aus.

ausweisen

I 他

- ① <j4> (…4を) 追放する、放逐する：

einen Ausländer aus dem Lande ausweisen

- ② <j4/et4> (…4を) 証明する：

Der Paß weist ihn als Japaner aus.

II 再

- ① <sich4> 自分の身分を証明する：

Er konnte sich durch seinen Führerschein ausweisen.

- ② <sich4 als j1> (…であることが) 証明される：

Er weist sich als ein hervorragender Art aus.

auszeichnen

I 他

- ① <j4/et4> (…4を) 表彰する、顕彰する：

Er wurde mit einer Medaille ausgezeichnet.

- ② <j4> (…4を) 優遇する、特別扱いする：

Er zeichnete uns mit seinem Besuch aus.

- ③ <et4> (商品4に) 値札をつける：

Bücher auszeichnen

- ④ <et4> (…4を) 際立たせる、特徴づける：

Fleiß zeichnet ihn aus.

II 再

<sich4> 際立っている：

Hans zeichnet sich durch Fleiß aus.

ausziehen

I 他

- ① <et4> (衣服、靴などを) 脱ぐ：

Er zog Schuhe und Strümpfe aus.

《3格の再帰代名詞と》

Sie hat sich³ das Hemd ausgezogen.

- ② <j3 et4> (…3から…4を) 脱がせる：

Sie zieht dem Kind das Hemd aus.

- ③ <j4> (…4の衣服・靴を) 脱がせる：

Die Mutter zieht das Kind aus.

- ④ <et4> (縮められているもの4を) 引き伸ばす：

Er zieht die Antenne am Auto aus.

- ⑤ <et4> (下書きの線4を) 〔墨などで〕なぞる：

Die Schüler ziehen die Umrisse mit Tusche aus.

II 再

<sich4> 衣類を脱ぐ：

Er hat sich schnell ausgezogen.

III 自〔完了sein〕

- ① 引っ越しをする、(住居などを) 引き払う：

Am 31. März müssen wir ausziehen.

②（遠くへ）出かける；（一団となって）出て行く：

Er zieht auf Abenteuer aus.

Die Sportler ziehen aus dem Stadion aus.

教育研究学内特別経費

言語研究 V

1995（平成7）年3月

編 者 渡瀬 嘉朗，在間 進，馬場 彰，敦賀陽一郎
正保 勇，中沢 英彦，望月 圭子

発行所 東京外国語大学
〒114 東京都北区西ヶ原 4-51-21
電 話 03-3917-6111